

緑化に関する調査報告

(その48)

令和3年3月

東京都建設局

目 次

I. 技術調査・計画編

1. 「街路樹診断等マニュアル」の改定について

Revision of Manual for Street Trees' Diagnosis

東京都建設局公園緑地部計画課道路緑化計画担当

土居 裕子

2. 民間企業との連携による緑化に関する取組について

東京都環境局自然環境部緑環境課施設担当

熊谷 拓朗

3. 都立公園池水質改善事業における事業報告について

公益財団法人東京都公園協会公園事業部技術管理課受託事業係

八木澤 敦士

4. 高茎草地エリアの管理について ～『武蔵野のくさはら』の再現～

公益財団法人東京都公園協会神代植物公園植物多様性センター

折笠 充洋、大川 裕美、箱根 ゆみ子、

日比 也貴、山内 実可子、堀江 孝之

5. 狭山丘陵におけるナラ枯れ被害調査と対策について

西武・狭山丘陵パートナーズ維持管理部
(西武緑化管理株式会社所属)

大房 直

登

自然環境保全部

舟木 匡志

レンジャー部

(特定非営利活動法人 NPO birth 所属)

丹 星河

6. 豊洲市場における屋上の試験植栽について

株式会社グリーバル

岩本 菜々

II. 管理運営編

1. 令和元年度 神代植物公園植物多様性センター年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
堀江 孝之

2. コロナ禍における公園利用実態の変化と公園管理者の取組み

西武・狭山丘陵パートナーズ

西武・武蔵野パートナーズ

西武・多摩部の公園パートナーズ
(西武造園株式会社所属)

清水 卓

(特定非営利活動法人 NPO birth 所属)

磯脇 桃子

3. 平成31年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館アメニス夢の島グループ館長
高橋 将

4. コロナ禍の都立大島小松川公園の管理運営と利用の実態

アメニス東部地区グループ

統括責任者 上田 太司

5. 令和2年度 緑の情報連絡会活動報告書

東京都建設局公園緑地部計画課緑化推進担当

紅林 宏樹

Ⅲ. 資料編（グリーン・ファイル）

1. 東京都の道路緑化状況

東京都建設局公園緑地部計画課道路緑化計画担当

2. 令和元年度 都立公園等植栽本数一覧表

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種

4. 委託調査一覧（令和元年度）

5. 令和2年度 花の見ごろ情報年間リスト

6. 都立公園における都民共同団体一覧

7. バックナンバー目次（その1～その47）

「街路樹診断等マニュアル」の改定について

Revision of Manual for Street Trees' Diagnosis

東京都建設局公園緑地部計画課道路緑化計画担当
土居 裕子

I はじめに

街路樹は都市に暮らす我々にとって身近な緑であり、表参道や絵画館前の街路樹に代表されるように、都市に風格を与えるだけでなく、夏の暑さを和らげる緑陰提供、大気汚染物質の浄化や雨水の貯留・浸透など、様々な役割を持つ。また、地震等の災害が多い日本においては、震災時に脅威となる火災の延焼を食い止めたり、建物等の倒壊物が道路へ流入するのを防止したりする防災機能も有しており、都市生活に欠かすことのできない緑であると言える。

他方、街路樹は道路法第2条において道路の附属物として位置づけられている。これは、ガードレールや照明灯と同じ位置付けであり、道路交通の安全確保のため、道路管理者は街路樹の枝折れや倒木等を防ぐことが求められる。そこで、東京都は国や他の地方自治体に先駆け、平成10年度に「街路樹診断マニュアル」を作成し、街路樹診断事業を開始した。その後、診断機器の発展や診断結果の蓄積等を踏まえながら、必要に応じて改定を行い、診断マニュアルの精度向上を図ってきた。

本取組により、東京都では倒木等のおそれがある不健全木の更新が進み、本事業の効果は出ていると言える。しかし、更に適切な維持管理を進めていくためには、これまでの取組に加え、樹木の健全な育成のための日常管理も充実化する必要がある。既に、海外の主要都市では、街路樹診断等に加え、樹体に配慮した剪定や、街路樹の生育に必要な根の範囲を「根の保護エリア」として設定するなど、総合的な視点で街路樹の健全な育成に取り組んでいる。都においても、今後、都道の街路樹の健全状態を確保していくためには、日常の維持管理の更なる充実化が求められる。

そこで、東京都では、令和2年度に街路樹診断マニュアルの改定を行い、街路樹診断本体の見直しに加え、根の保護に関する項目を追加するなど、適切な維持管理という側面からも、マニュアルの充実化を図った。本稿では、都の街路樹診断事業等の経緯や、改定前のマニュアルの課題を整理するとともに、改定マニュアルの特徴と概要について述べることとする。

II 都の街路樹診断事業について

1 街路樹診断事業の経緯

平成7年9月、表参道のケヤキが突然倒木したことをきっかけに実施された緊急調査では、164本中10本のケヤキで腐朽が著しく進行していることが確認された。翌年から

3カ年かけて実施された腐朽実態調査により、診断に加え、診断結果に基づいた適切な処置が必要な樹木が多数あることが判明した。これを受け、平成10年度に国や他の自治体に先駆けて街路樹診断マニュアルが整備され、本マニュアルに基づく診断事業が開始されることとなった。

平成18年度にはマニュアルを改定し、診断に必要な樹木を事前抽出するための「街路樹点検」を新たに位置付けるとともに、判定基準を3段階から5段階に変更した。しかし、5段階評価導入後、樹木の状態に関わらず、5段階の中間である「おおむね健全」判定とする例が多くみられたため、平成22年度改定では、4段階評価に見直しを行った。なお、4段階評価は、現在まで変わっていない。

続く見直しが、平成25年度、26年度の改定である。本改定では、東京都建設局公園緑地部計画課を事務局とし、学識経験者や実務経験者等をメンバーとする「街路樹診断マニュアル改訂検討会」が新たに設置された。本検討会では、根株診断のほか、診断機器や手法についても検証、検討し、平成25年度マニュアルとして取りまとめられた。また翌26年度には25年度版の修正を行った。

25年度、26年度の主な改定点は以下の通りである。

- ① 精密診断の中に、根株診断を位置付け
- ② これまで掲載のなかった精密診断用機器を新たに記載
- ③ 樹木点検を診断として位置づけ
- ④ 再診断時期の規定

2 大径木再生大作戦事業について

都では、前節で述べた通り、診断マニュアルに基づく診断事業を着実に進めてきたが、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震、また同年9月の台風15号襲来時の多数の街路樹倒木被害により、街路樹の防災機能強化を図る必要性を再認識することとなった。そこで、平成23年12月に策定された都の中長期計画において、「大径木再生大作戦」事業を打ち出し、街路樹の防災機能強化の取組を進めることとなった。

本事業は、街路樹が災害時に緊急車両等の通行を妨げることをないよう、防災上重要な38路線において、倒木の際に道路をふさぐおそれのある幹周り90cm以上の大径木を対象に診断を行い、必要に応じて更新等の適切な処置を行うというものである。本事業で行う診断は、一般の診断事業で行う診断とは異なり、外観診断と根株診断を必須化した特別なもので、平成25年度版マニュアルに位置付けた根株診断を活用して実施された。

なお、本事業は、事業期間の令和2年度末で予定通り完了した。

III 今回の改定概要

1 平成26年度版マニュアルの概要

平成26年度版マニュアルにおける診断フローを図1に示す。診断は、初期診断と専

門診断から構成されており、専門診断は更に、樹木の外観や部位から判定を出す外観診断と、診断用の機器を用いて樹木の腐朽具合を数値で出す精密診断から構成される。

初期診断は、異常樹木の早期発見や専門診断対象の抽出を目的とした任意の診断であるため、最近では外観診断から実施するケースが多いが、初期診断で専門診断対象樹木を抽出してから、専門診断に流れる場合も少なくない。いずれにせよ、診断対象となる樹木は、初期診断実施の有無によらず、なるべく早く外観診断を実施し、必要に応じて精密診断を行い、総合判定を出すというのが、平成26年度版マニュアルでの流れである。

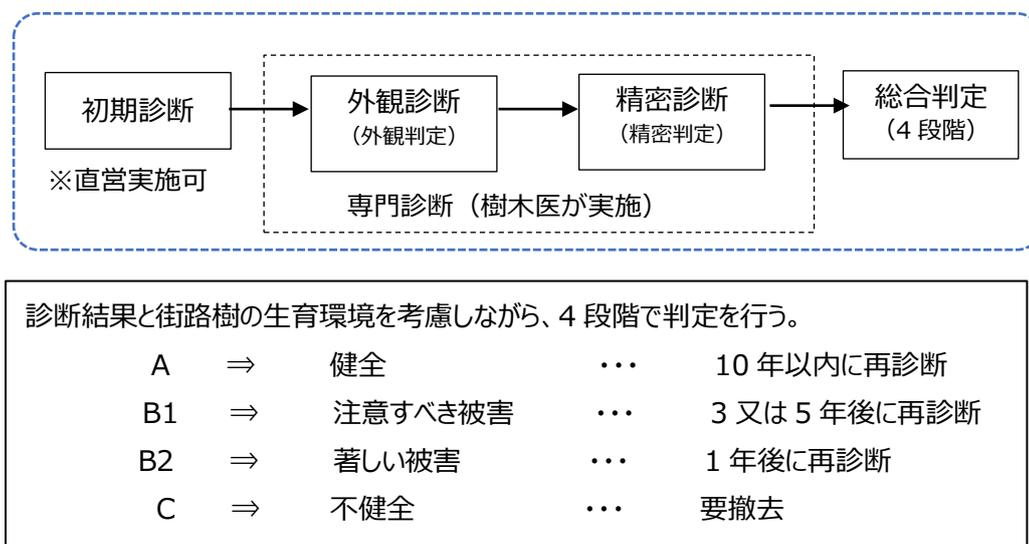


図1 平成26年度版マニュアルにおける診断フロー

2 平成26年度版マニュアルの課題

改定から5年以上が経過し、街路樹を取り巻く環境が大きく変化する中で、主に以下の6点の課題を解決する必要がある。以下、課題を述べる。

(1) 初期診断

前節の通り、初期診断の目的は、①異常樹木の早期発見、及び②専門診断対象樹木の抽出、という2点であるため、初期診断で「異常なし」と判断された樹木も、本来は、一定期間後には再び初期診断、もしくは外観診断を行う必要がある。

しかし、マニュアルにおける初期診断の位置づけが不明瞭であり、本診断の「異常なし」が、専門診断の「健全 (A判定)」と同等であると見なされ、次回の診断時期を10年後として扱うケースが少なくないことが判明した。

(2) 外観診断

前章第2節で紹介した大径木再生大作戦事業で実施した外観診断、及び根株診断の結果について、クロス集計による分析を行ったところ、表1の通り、根株判定が不健全 (B2またはC判定) となった樹木70本のうち、外観判定が不健全 (B2またはC)

となった樹木は 45 本で、全体の 64%程度を占めていた。本分析から、外観診断が根株異常のある樹木を 6 割以上検出していることが明らかとなった。

表 1 外観診断と根株診断のクロス集計結果

	根株診断（%は根株空洞率を示す）						計
	A		B 1	B 2	C		
	0%	10%未満	10%以上 30%未満	30%以上 50%未満	50%以上 70%未満	70%以上	
外観 A	1,546	1,015	56	7	1	0	2,625
外観 B1	1,300	1,327	137	14	3	0	2,781
外観 B2	67	198	65	21	16	2	369
外観 C	12	20	5	1	4	1	43
計	2,925	2,560	263	43	24	3	5,818

(3) 精密診断

精密診断では、診断する箇所腐朽具合の数値（腐朽空洞率）により、精密診断判定が 4 段階で出される。精密診断結果は、外観診断結果とともに総合判定を出す際に用いられるが、外観診断結果よりも精密診断結果を重視して総合判定が出されるケースが少なくないことがヒアリング等から明らかとなった。

(4) 根株診断

前章で述べた通り、大径木再生大作戦事業では、幹周り 90 cm 以上の大径木に対し根株診断を必須化してきたが、本事業の診断結果の検証を行った結果、幹周りの大きさと根株腐朽との関係性は確認できなかった。

(5) 再診断

26 年版マニュアルは、図 1 の通り、A、B 1、B 2 判定に対し、判定結果に応じて再診断時期を規定している。特に、著しい被害が確認された B 2 判定では、1 年後に再診断実施が必要となるため、毎年の再診断が必要となり、予算的にも業務的にも大きな負担となっていた。

(6) 根の保護

街路樹の健全状態を維持するためには、街路樹診断の実施に加え、街路樹が健全に育成できるよう、地上部だけではなく地下部の生育空間にも目を向ける必要がある。他方、近年は街路樹周辺で工事を行う機会が増えており、街路樹の生育に重要な器官である根の保護を促す必要があることから、マニュアル改定に合わせ、検討を行うこととした。

3 改定委員会

今回の改定においても、前回の改定と同様、外部有識者等からなる検討会を立ち上げ、検討会で意見聴取を行いながら、改定作業を進めることとした。前回と異なるのは、マ

マニュアル改定委員会は有識者のみの委員会（表2）とし、その下に都関係職員から成る作業部会を設置したという点である。なお今回も、前回改定時の有識者と同じメンバーを選定した。

改定委員会、及び改定検討部会は、各3回開催し、第2節で述べた課題の検証に加え、改定検討委員会で委員より提起された課題である、処置を前提とした外観診断判定基準や、診断機器の扱い等についても検討を行い、マニュアル改定案を作成した。なお、表3は、改定委員会で出された主な意見と、その反映状況を取りまとめたものである。委員会で出された意見は、概ね改定内容に反映をしたが、職員への研修機会の充実や研修内容など一部意見については、引き続き検討が必要な項目として、改定作業委託報告書に取りまとめた。

表2 街路樹診断マニュアル改定委員会名簿

		所属	氏名
1	委員	国土交通省国土政策技術総合研究所主任研究官	飯塚 康雄
2	委員	一般社団法人 地域緑花技術普及協会代表理事	細野 哲央
3	委員	東京大学大学院農学生命科学科教授（秩父演習林長）	山田 利博

表3 街路樹診断マニュアル改定委員会での主な意見と反映状況

	改定検討委員会での主な意見	反映状況
初期診断 (樹木点検)	<ul style="list-style-type: none"> 現行の初期診断は管理上のリスクを評価できないので、初期診断と外観診断の間を埋める書式を考える必要がある。 職員が適切に初期診断（樹木点検）できるようマニュアル等の整備が必要 あわせて、研修機会の充実や具体的な研修メニューなども必要 	<ul style="list-style-type: none"> 初期診断（「樹木点検」に名称変更）の点検項目として、樹木の健全状態に加え、維持管理上の問題に関する項目も追加 樹木点検の方法を項目ごとに解説 研修機会の充実や、研修内容については、マニュアル改訂後、引き続き検討していく。
外観診断	<ul style="list-style-type: none"> 外観診断の項目の中には、街路樹の健全状態の把握に繋がっていないものもあるので、項目を整理する必要がある。 現行では、枯枝等の処置が必要となる場合、処置が行われる前提の判定となるため、未処置の場合には、診断結果が活用されていないことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路管理者として把握するため当面は維持する。 枯枝同様、処置を前提とする項目（スタブカット、キノコ、巻き根、建築限界越え）については、処置を前提としない判定に改定
精密診断 (機器診断)	<ul style="list-style-type: none"> 精密診断の結果が重視される傾向にある。 50%基準が独り歩きしている感はあるが、基準値は必要 本来、貫入抵抗測定器は健全材の厚みを測定するものであるため、腐朽空洞率に加え、t/R率も併記した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 腐朽空洞率の50%基準は維持するが、腐朽空洞率は総合判定を出す際の1つの判断項目であるという位置づけに改める。 腐朽の形状によっては、過小、過大評価する可能性があることを記載する。また、腐朽空洞率に加えt/R率も併記し、総合判定の参考とする。
根株診断	<ul style="list-style-type: none"> 幹周り90cm以上という基準は設けず、外観診断等の結果から、必要に応じて根株診断を行うのが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 幹周り基準は設けず、外観診断で一定の被害状況が確認された場合には、根株診断を必須とする。
総合判定 再診断	<ul style="list-style-type: none"> 外観、機器診断結果に加え、t/R率や形状比、樹冠、根の広がりなども含め、総合的に判断する必要がある。 樹勢衰退の場合、1年で進行する可能性はある。 1年で腐朽が10%、20%も進行することは考えにくいので、腐朽率でB2になった場合は、翌年の診断は必ずしも必要ない。 穿孔害虫は進行が早いので、注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な判定を適切に判断できるよう、判定の際に配慮すべき要素を追加し、丁寧に解説 B2の再診断時期を生育・被害状況に応じて1年から3年以内の範囲で設定し、被害状況に合わせた再診断メニューとして、フォローアップ診断を新たに位置付け
根の保護	<ul style="list-style-type: none"> 樹木を健全に保つという観点から根は重要であり、掘削する場合は何らかの配慮が必要である。 配慮を求める範囲は、樹木サイズにより分けるのが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の健全な育成に必要な根を保護するため、街路樹の近傍で工事を行う際の配慮事項を取りまとめたガイドラインをマニュアルに位置付け 街路樹の幹芯から一定の範囲を工事配慮エリアとして設定するとともに、根の切断や乾燥防止方法などの配慮事項を記載

4 改定概要

今回行った主な改定内容は以下の通りである。なお、見直しに伴う新たな診断フローを図2に示す。

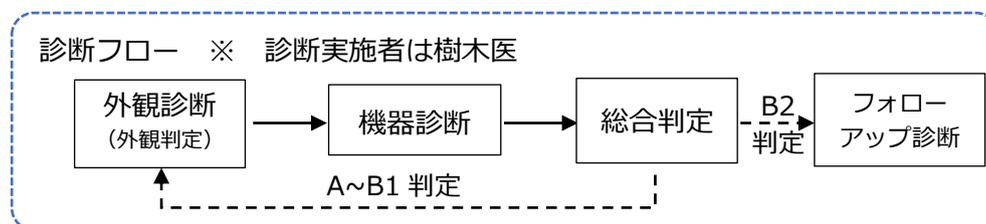


図2 改定後の診断フロー

(1) 樹木点検 (旧初期診断)、外観診断

これまで外観診断の対象樹木であったにも関わらず、診断未実施であった樹木に対して幅広く外観診断を行うため、外観診断を必須化することとした。また、外観診断の部位診断項目のうち、5項目（枯枝、スタブカット、子実体、巻き根、建築限界越え）については、処置を前提とした判定基準となっていたことから、処置を前提としない判定基準へと見直しを行った。

あわせて、位置付けが不明瞭であった初期診断を診断から外し、樹木点検として位置付けを行った。また、点検の目的として、「外観診断の必要な樹木」抽出に加え、「維持管理の処置が必要な樹木」抽出という目的を追加し、本目的に即した点検項目を追加した。

(2) 機器診断 (旧精密診断)

これまで、機器診断結果として得られる腐朽空洞率から機器診断判定を出してきたが、腐朽空洞率は総合判定を出すための根拠の1つとして整理を行った。

また、貫入抵抗測定器（レジ）は健全材の厚みを測定する機器であることから、健全材の厚みの割合である t/R 率も腐朽空洞率とともにカルテに併記し、本結果も総合判定を出す際の判断材料の1つとして用いることとした。

あわせて、精密診断から機器診断へ名称変更を行った。

(3) 根株診断

検証結果を踏まえ、幹周りによる基準は設定せず、一定の被害状況が確認された場合には、根株診断が必須となることをマニュアルに明記した。

(4) フォローアップ診断

B2判定とは言っても、その被害原因は様々であり、被害状況により進行具合も異なることから、樹勢衰退や穿孔害虫による被害の場合には1年後、腐朽による被害の場合には3年後とするなど、被害状況に応じて、1年から3年の範囲で再診断時期を規定した。あわせて、再診断の場合には、その被害状況に特化した診断が行えるよう、新たに

「フォローアップ診断」を位置付けた。

(5) 根の保護に関するガイドライン作成

国際アーボリスト協会、ニューヨーク市、香港特別行政区などの海外における根の保護事例を参考に、道路管理者による工事、及び道路法第32条に基づく道路の占用許可を受けた行為に対し、根への配慮を促すため、幹周りに応じて「工事配慮エリア」を設定し、エリア内で工事を行う際の根の配慮事項を取りまとめた。

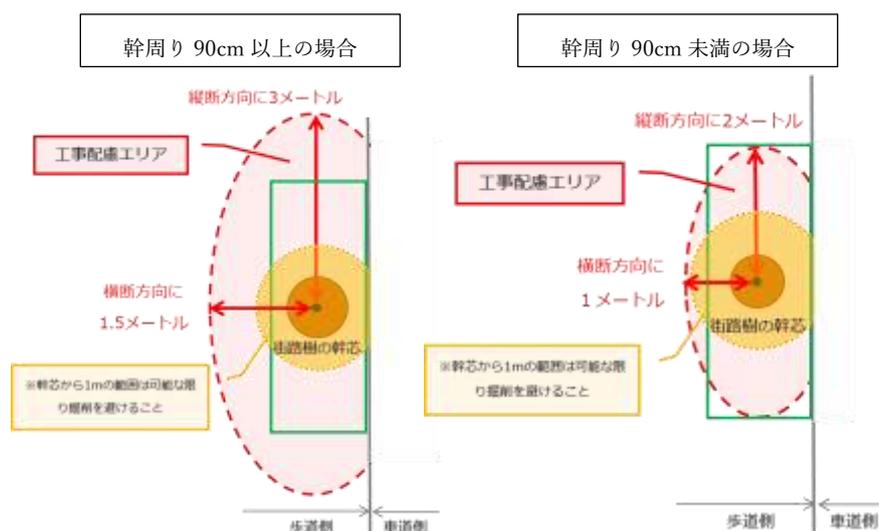


図3 工事配慮エリアの考え方

(6) 診断後の処置について

樹木を良好に管理するためには、診断に基づく適切な処置が必要である。そこで、不健全木の撤去だけでなく、不健全木以外の樹木の処置が適切に進むよう、樹木の現況に応じた剪定手法や植栽基盤改良手法などを具体的に記載した。具体的記載の難しい剪定手法については、剪定可能な枝の大きさや、1回の剪定枝葉量などが具体的数値で示されたカリフォルニア大学の構造的剪定手法を参考事例として取り上げた。

(7) ステークホルダーとの調整等について

近年、街路樹事業、特に診断事業においては、撤去等の処置にあたり住民等のステークホルダーと調整する機会が増えている。そこで、調整時の参考となるよう、調整時期や調整内容について具体的に記載を行った。

IV おわりに

街路樹の健全状態を保つ上では、街路樹診断本体の精度を高めるだけでなく、その後の適切な処置や、日常の適切な維持管理が不可欠である。今回の改定では、その視点を重視し、

診断本体だけではなく、日常の適切な維持管理の際にも活用できるように、マニュアル内容の充実化を図った。今回のマニュアルで新たに位置付けた診断後の処置、ステークホルダーとの調整、根の保護ガイドラインについては、診断事業だけではなく、日常の様々な維持管理シーンでの活用も想定して作成を行っており、幅広く活用できるものとなっている。今後更にマニュアルのブラッシュアップを行う中で、将来的には本マニュアルが街路樹の維持管理全般に活用されるマニュアルとして位置付けられる日が来るのではないかと考えている。

他方、日常の適切な維持管理を更に進めるためには、改定委員会でも出た通り、街路樹診断事業に携わる職員のスキルアップのための研修等の定期的な実施や、街路樹台帳や診断カルテ等、街路樹維持管理に係るデータのデータベース化が不可欠である。

データベース化については、平成 31 年度から取組みを開始したところであり、令和 4 年度末までには整備が完了する予定である。他方、職員のスキルアップのための仕掛けについては、引き続きの課題として取り組んでいく必要があると考えている。

今回の街路樹等診断マニュアルの改定により、街路樹の健全な育成がより進むことを期待したい。

参考文献

東京都建設局公園緑地部（2013） 平成 25 年度 街路樹診断マニュアル

東京都建設局公園緑地部（2013） 平成 25 年度 大径木再生指針

東京都建設局（2021） 令和 3 年度 街路樹等診断マニュアル

兵頭夏海（2019）「街路樹におけるリスクマネジメント」都市公園 226 号 P. 20-23

民間企業との連携による緑化に関する取組について

環境局自然環境部緑環境課施設担当

熊谷拓朗

I. はじめに

公共団体にとって民間企業と連携して施策を実施することは、自らは持ちえない民間ならではのノウハウを活用したより良い行政サービスを、低コストで提供できる可能性を秘めている。

環境局自然環境部では、平成 28 年度に東京都内の自然公園の保護及びその利用の増進を図ることを目的に、「自然公園事業における民間事業者等との連携事業に関する事務取扱要綱」を策定し、複数の民間事業者と、この要綱に沿った協定を締結し各種自然公園事業を実施してきた。

住友林業株式会社とは平成 30 年 4 月 4 日に協定を締結し、地域性種苗の利用促進に向けた取組や、住友林業株式会社発行の情報誌への、東京都自然保護指導員によるコラム連載等を実施している。

本稿では住友林業株式会社との連携事業のうち、特に緑化に関わるものとして、タブノキの種子源調査（地域制種苗に関する取組）と、TOKYO サクラプロジェクトという 2 つの取組について報告するとともに、今後の展望について述べる。

II. 取組内容

1. タブノキの種子源調査（地域制種苗に関する取組）について

東京都環境局は、平成 24 年 5 月に策定した「緑施策の新展開」に基づき、在来種選定ガイドラインの策定や、江戸のみどり復活事業といった事業を実施しており、在来種を用いた緑化を推進している。



図 1. 調査対象のタブノキの例

このうち「在来種選定ガイドライン」では、在来種による緑化を行う場合、周辺生態系への遺伝子攪乱を防ぐため、緑化しようとする対象地周辺の自然分布個体から採取・育成した種・苗を植栽することが望ましいとされている。

地域性種苗の育成を行うにあたっては当然、親となりうる個体が必要となるが、古くから人間活動が盛んであった都内では、一見自然分布個体のように見えても、かつて人間により遠方から運ばれた可能性もあるため、親木として適切かどうかを判断するためには、まずその個体が持つ DNA 情報を鑑定する必要がある。

そこで、環境局自然環境部では、協定に基づき住友林業株式会社とともに、東北大学の協力も得ながら都内各地（浜離宮恩賜庭園や奥多摩、大島等）のタブノキ 16 個体及び全国 17 地域のサンプル 115 個体を対象に、次世代シーケンサーにより遺伝子情報を増幅、主成分分析等複数の手法により、集団遺伝構造を解析した。

個別の解析手法について解説することは本稿の目的ではないため省略するものの、視覚的にわかりやすい解析結果として主成分分析によるものを下記に示す。

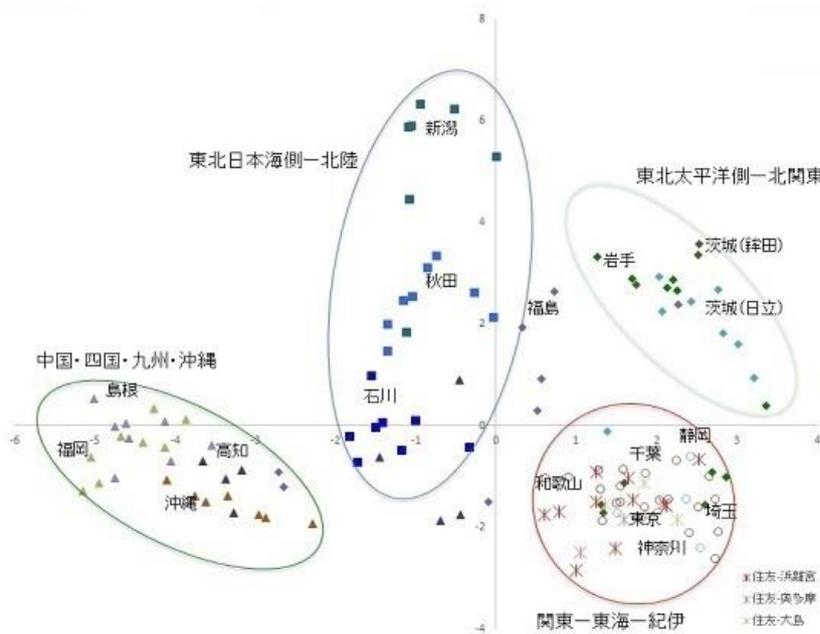


図1 東京都タブノキ種子源候補16個体（浜離宮11、奥多摩2、大島3個体）および全国17地域のタブノキ天然分布サンプル115個体を用いたゲノムワイドDNA分析（MG-seq法）により得られた733のSNP情報をもとに、主成分分析により2次元平面上に配置した主要2軸上の各個体の遺伝的関係。→候補木はいずれも地域在来系統であると考えられる。

図2. 主成分分析の結果

全国のタブノキの遺伝的多型が2軸上に展開されるなか、右下の赤丸内に、都内で採取された個体は集中していることが見て取れる。つまり遺伝的な距離が近いことが推定される。

この結果や各個体の起源集団を推定するアサインメントテスト他の解析結果とあわせ、今回調査対象とした16個体はいずれも地域在来の系統であると判定された。すなわち地域制種苗の親木候補として活用できることが考えられた。

2. TOKYO サクラプロジェクトについて

(1). プロジェクトの概要

平成31年4月より開始した取組であり、東京にゆかりのある桜を保存、普及させることを目的としている。現在のところ、住友林業株式会社が持つ組織培養技術を用い、東京の自然公園内に生育するオオシマザクラの古木「桜っ株」及びタマノホシザクラを対象に増殖に取り組んでいる。

住友林業株式会社の組織培養技術は、対象となる樹木の冬芽の中から摘出した生長点を、

植物の生育に必要な栄養分を混合した培養液中で培養し、植物体まで育てる手法であり、この技術は下記のメリットを持っている。

- ・従来の接ぎ木や挿し木では増殖が困難であった老木からもクローン増殖が可能
- ・無菌下で作業をするため、病虫害の心配がない
- ・組織の若返りが期待できる
- ・小面積で大量の苗が生産できるとともに季節によらず生産が可能
- ・半永久的に試験管内での保存が可能

図3. 組織培養技術の概要（住友林業株式会社提供）



（2）オオシマザクラの古木「桜っ株」の培養

オオシマザクラは伊豆大島をはじめ、伊豆半島から東北地方太平洋側に分布する。本来の分布域は富士箱根伊豆地域に特有のものであり、いわゆるフォッサマグナ要素と呼ばれる種群の一つである。性質が強健であることから各地に植栽され、鳥散布などにより国内外来



図4. 桜っ株

種化しているともされる。そうしたオオシマザクラの本来の生息地の一つである、伊豆大島の山中には樹齢 800 年を超えるオオシマザクラ、通称「桜っ株」と呼ばれる古木が存在する。かつては漁に出た船の目印になったともされ、国の特別天然記念物にも指定されているが、近年は樹勢も衰え、花数も多くはない状況である。

特別天然記念物である当該個体の域外保全を図るため、また、島内在来の系統を増殖させ大島島内での緑化に用いることで、地域ならではの緑化が可能となると考えられたことから、当該プロジェクトの対象とすることとし、平成 31 年 2 月、枝の採取を行った。

組織培養の過程は企業社外秘となるため、つまびらかにできないものの令和 2 年 11 月に培養施設を環境局が視察したところ、試験的に一株の苗木の生産に成功しており、令和 3 年 2 月時点で、高さ 70 c m の株が 15 株、15 c m の株が 80 株の計 95 株の育成に成功している。

(3) タマノホシザクラの増殖

タマノホシザクラは、多摩丘陵南部に固有のサクラであり、東京都レッドデータブックでは絶滅危惧 1A 類に指定されている。もともと雑種を期限とした 3 倍体の種であることから、盛んに栄養繁殖を行うものの、個体数は全部で 200 個体程度と推定され、種そのものの認知がなされていないことから、開発等により個体数は減少傾向にあるとされる。

サクラプロジェクトの第二弾として、タマノホシザクラの域外保全を図るべく、本個体の増殖に取り組むこととした。

なお、住友林業株式会社側としては 3 倍体の桜の組織培養を実施した例はないことから、技術開発を含めた視点からも本種を対象とすることに了解を得た。

現地の採取にあたっては生息地情報が不明であったため、有識者同行のもと令和 2 年 7 月に現地下見を行った。

実際の採取は令和 2 年 2 月 20 日に行われ土地所有者の許可のもと、冬芽の茎頂を 30cm 程度複数本採取した。

令和 3 年 2 月現在、培養は順調に進んでいる模様である。



図 5. タマノホシザクラ

(4) 今後の展望について

本取組は試験管内での増殖が成功した時点で、域外保全という観点から一定の意義を果たしているといえる。

今後は本取組において増殖させた個体を植栽していくことを検討しており、桜っ株の個体に関しては大島支庁、大島町との間で植栽に向け協議をすすめている。

大島島内で生育していた野生のオオシマザクラを、街路樹等の緑化に活用することで大島の自然資源を生かした大島ならではの緑化が可能になる。

一方で島内のオオシマザクラの集団遺伝的構造を明確にできていない現段階において、島内のあらゆる個所に野放図に個体をばらまくことは、地域の遺伝的多様性保全の観点からは逆効果になる可能性も否定はできない。

今後このような取組を本格的に実施していくにあたっては、島内のオオシマザクラの集団遺伝構造調査等を実施の上、例えば島内でも植栽は一定の地域内に絞るであるとか、特別保護地区内では植栽しないといった一定のルールを設けていく必要があるだろう。

Ⅲ. まとめ

現在、環境局をはじめ都庁内には自然環境保全を専門とした人員組織は存在せず、また分析のためのツールも有していない。

一方で今後複雑高度化していく自然環境に関する諸問題を適切に解決していくためには、高度な専門性に基づく情報収集、分析の視点が欠かせない。

住友林業株式会社のような高い技術力を持つ民間企業との連携は、将来の自然公園事業のすすめかたの一つのありかたとして、モデルケースになりうると考えている。今後さらなる取組の深化を図っていきたい。

都立公園池水質改善事業における事業報告について

公益財団法人東京都公園協会
公園事業部技術管理課受託事業係
八木澤 敦士

I. はじめに

東京都建設局（以下、「建設局」という。）では、都立公園の池において水辺の再生を目指し、水質浄化施設の整備や、昔からその地域に住んでいた身近な動植物（在来種）が豊かに暮らせる環境づくりに取り組んできた。都立井の頭公園井の頭池でのかいぼりの成果を受け、水質改善対策を更に推進するための取組を拡大し、平成 30 年度（2018 年度）「都立公園池水質改善事業」をスタートした。翌年度、『「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019 年度）～2020 年に向けた実行プラン～』において、政策目標「公園の自然的景観の保全・再生（水辺の再生）」の中で、2020 年度までの目標値として「都立公園池かいぼり等 30 池」が示された。

本事業は、建設局と政策連携団体である公益財団法人東京都公園協会（以下、「公園協会」という。）が、協定を締結し実施している。協定は、平成 30 年 7 月 4 日に「都立公園池水質改善事業の委託に関する基本協定」（以下、「基本協定」という。）を締結し、これを基に、年度ごとの事業内容を定めた「都立公園池水質改善事業の委託に関する年度協定」（以下、「年度協定」という。）を締結している。

本稿では、平成 30 年度から令和 2 年度までに実施した事業について報告する。

II. 事業の目的と対象池

1. 事業の目的

基本協定において本事業の目的は、「生態系の回復や水質の改善等、環境改善を図るために実施するかいぼり等」と定められている。各年度協定では、「排水、復水、汚泥除去等の作業」、「生物の捕獲・選別、貴重種・在来種の保護・放流、外来種駆除等」とあり、その目的を堆積した泥土の除去及び池底の天日干しによる水質・底質の改善と外来種駆除による在来種の生息環境の改善を図るとともに、「都民・地元自治体・ボランティア団体等との連携及び実施体制の確保」により、ボランティア等と連携し、都立公園の池の水辺環境を再生する事とされている。

2. 事業対象池

建設局は、本事業の対象となる都立公園の池の選定を行うにあたり、平成 30 年度に実施した「都立公園池水の水質改善に関する基礎調査委託」で、現況調査、水質改善方法の検討（かいぼり等可能性検討）、外来種生息の有無、実施可能性（排水・復水が可能か等）、池の規模（5,000 m²程度以下）等の検討を行い、かいぼりを実施すべき池を抽出した。こ

れに基づき、年度ごとに事業対象となる池を選定した。

実施対象となった池は、下記表1のとおりである。

表1 かいぼり実施池一覧

	No.	公園名	池名	面積(㎡)	実施日
平成30年度	1	林試の森公園	上池	630	12月22日
	2	石神井公園	新池(水辺観察園)	2,000	11月17日
	3	神代植物公園	本園池	3,689	12月2日
	4	野川公園	まる池	70	12月16日
	5	野川公園	飛地	200	12月22日
	6	小山田緑地	溜池	338	12月8日
	7	小山内裏公園	内裏池	300	12月15日
	8	小金井公園	二つ池	2,062	1月12日
	9	野山北・六道山公園	桜沢池	900	12月15日
	10	野山北・六道山公園	日野出池	700	11月18日
令和元年度	1	猿江恩賜公園	上池	1,073	11月2日
	2	猿江恩賜公園	下池	1,517	11月2日
	3	光が丘公園	バードサンクチュアリ池	7,000	11月24日
	4	水元公園	睡蓮池	3,700	11月4日
	5	水元公園	散策池	856	11月17日
	6	府中の森公園	庭園東	764	12月1日
	7	府中の森公園	庭園西	941	12月1日
	8	神代植物公園	水生植物園池	1,951	12月8日
	9	野川公園	ひょうたん池	100	12月7日
	10	野川公園	かがみ池	350	12月7日
	11	武蔵野の森公園	修景池	3,273	12月14日
	12	小山田緑地	上池	351	12月8日
	13	小山田緑地	下池	646	12月8日
令和2年度	1	水元公園	オニバス池(17号)	1,332	11月21日
	2	水元公園	オニバス池(18号)	1,276	11月21日
	3	水元公園	散策池2	2,866	11月7日
	4	狭山公園	宅部池	5,200	12月12日
	5	和田堀公園	和田堀池	5,200	11月28日
	6	水元公園	水生植物園	8,200	11月15日



写真1 石神井公園 新池



写真2 武蔵野の森公園 修景池



写真3 野川公園 ひょうたん池

Ⅲ. 事業内容

1. かいぼりとは

かいぼりは、もともと農業用の溜池の維持管理作業で、農閑期に水を抜き、堤や水路の補修が行われていた。掻き出した池底の泥は、植物の成長に有用な窒素やリンを含んでいるため田畑の肥料として、また獲れた魚などは、冬季の貴重なタンパク源として利用していた。

現在では、溜池の維持管理のほか、本事業のように公園の池などで水質改善や在来種保護などの目的で実施されている。

2. 本事業の流れ

各池の初年度目に行う作業項目とフローを図1に示した。

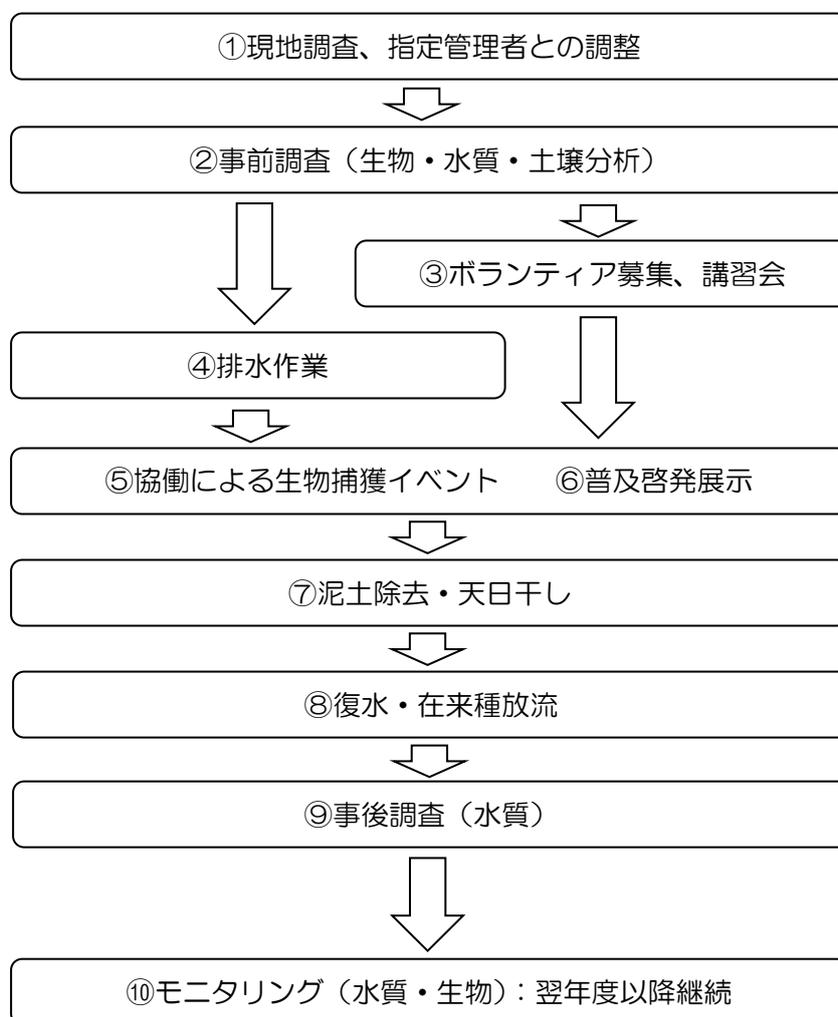


図1 かいぼりの流れ

3. 各事業内容

(1) 各池の初年度

①現地調査・指定管理者との調整

準備作業として、給水の水源（井戸、上中水、河川など）、排水設備と排水先（河川、下水など）、車両動線、生物捕獲イベントに使用する資機材の配置場所、在来種の飼養場所、電源など計画作成に必要な事項を調査した。

また、指定管理者等と打合せを行い、生物捕獲イベント開催日の他のイベント等への影響、イベント及び排水、泥土除去作業の影響範囲、一般利用者の利用制限、安全確保方法、その他各公園特有の要配慮事項（生物・景観等）について確認を行い、通常の公園管理業務に支障がないように調整した。

②事前調査（水質・生物・土壌分析）

実施に際して、事前に水質、生物（水生植物、水生生物、トンボ類）、土壌分析の各調査を実施した。各調査の方法は次のとおりである。

・水質調査

水質調査は継続的に実施されている都立公園池水質等調査の定期調査の基本項目に準じて、気温、水温、透視度、pH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素要求量）、BOD（生物化学的酸素要求量）、T-N（全窒素）、T-P（全リン）、DO（溶存酸素量）、SS（浮遊物質）を調査項目とした。また、かいぼりによる天日干しの効果の目安になる項目として、ORP（酸化還元電位）を現地測定した。水質調査項目は表4のとおりである。各項目の水質の評価基準として、昭和46年環境庁告示第59号「生活環境の保全に関する環境基準〔湖沼〕」を参照した。

調査項目	単位	概要	参照基準※
透視度	cm	水の透明度の指標。透視度計により計測する。	—
pH (水素イオン濃度)		酸性、アルカリ性の度合いを示す指標。pH 7 が中性、これより値が大きいとアルカリ性、小さいと酸性となる。	(ア)
COD (化学的酸素要求量)	mg/L	水中の有機物が酸化剤で酸化する際に消費される酸素の量。	(ア)
BOD (生物化学的酸素要求量)	mg/L	水中の分解されやすい有機物が微生物によって酸化分解されるときに消費される酸素の量。BODが高いとDOが消費されやすく、悪臭の発生などを招く。	—
T-N（全窒素）	mg/L	水中に含まれる窒素化合物の量。富栄養化の指標となる。	(イ)
T-P（全リン）	mg/L	水中に含まれるリン化合物の量。富栄養化の指標となる。	(イ)
DO (溶存酸素量)	mg/L	水中に溶解している酸素ガスの量。2mg/L以下になると嫌気性分解が起こり、悪臭の発生などを招く。	(ア)
SS (浮遊物質)	mg/L	水中に浮遊、懸濁している直径2mm以下の不要性物質の量。多いと水の濁りや透明度の悪化がみられる。	—
ORP (酸化還元電位)	mV	水位中の酸化還元状態の程度を示す指標。+であれば酸化反応、-であれば還元反応が進行することを意味する。	—

※(ア)：生活環境の保全に関する環境基準〔湖沼〕(ア)

※(イ)：生活環境の保全に関する環境基準〔湖沼〕(イ)

表4 水質調査項目

- ・生物調査

生物調査は、水生植物、水生生物、トンボ類を行った。水生植物調査は、水上から肉眼または箱メガネ等で水底を観察し、水生植物の芽生えや群落の有無を確認した。水生生物調査は、タモ網及びカゴワナを使用して魚類、は虫類などを採集し、捕獲された生物を確認した。トンボ類調査は、園路から池および池畔にいるトンボ類の成虫を目視または採集により調査した。

各調査結果は、各池の環境、状態を把握し基礎データとする他に、各作業での留意点の確認に用いた。水生植物の調査結果は、生物捕獲イベントや泥土除去作業時に貴重種を誤って傷めないようマーキングを行う資料とした。水生生物の調査結果は、生物捕獲方法（作業時の水位、捕獲・仕分用の資材など）の検討に活かした。

- ・土壌分析

土壌分析調査は、泥土除去を行う池の泥土を産業廃棄物として適正に処理するために「産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法」（昭和48年環境庁告示第13号）に基づき、溶出試験全25項目について調査・分析を行った。過去3年間で基準値を上回る項目はなかった。

③ボランティア募集と講習会実施

本事業では、生物捕獲をイベントとして行い、魚類、は虫類、甲殻類などを捕獲するボランティアを募集した。イベントに参加することで、公園、都民協働、生物多様性などへの良き理解者、応援者となることを期待している。

- ・ボランティア募集

ボランティアの募集は広く都民を受け入れるため、建設局、公園協会のプレスリリースやウェブサイト、各公園の掲示板等を活用して広報した。また、対象池の近隣の小中学校及び高校、大学へボランティア募集の案内とチラシを送付し、教員や学生の参加を促す等の広報を行った。

ボランティアの対象は、安全確保の観点から高校生以上とした。しかし、池によっては、過去に小中学生が参加している事例もあり、安全面の確保が前提ではあるが、今後のかいぼりにおいては、受け入れの可能性を検討する必要がある。

- ・講習会

都立公園の現状とかいぼりへの理解を深め、安全かつ適切に作業する目的で、ボランティアの方を対象に事前講習会を開催した。

事前講習会は地域を分けて複数の会場を準備し、希望する一箇所で受講する方法を取った。テキストを作成し、講習会で用いたほか、生物捕獲イベントまでの復習用とした。



写真4 講習会

④排水作業

既存の排水設備及び水中ポンプにより排水した。概ね 5 日間～2 週間ほどかけて、生物捕獲イベント実施日までにボランティア作業の安全性及び池内に生息する生物に影響を与えない水位まで調整した。生物捕獲イベント当日も徐々に水位を下げ、捕獲の進捗に合わせて水面の範囲を絞っていき、終了時には池の排水を完了させる。

その後、湧水、雨水対策として排水ポンプを釜場に設置し、常時排水状態を維持した。ポンプには、焼き付きを防止するため、水位により自動的に入り切りができるスイッチを取り付けた。

排水にあたっては、排水先である下水道、河川等の管理者と協議を行い、各申請手続きや資料提出を行った。



写真 5 排水作業



写真 6 排水ポンプ

⑤協働による生物捕獲イベント

生物捕獲イベントは、概ね 11 月から 12 月に実施した。

ボランティアと協働で、生物捕獲イベントを行った。かいぼりと聞いて思い浮かぶ作業である。集合後、各池についての説明を行い、安全作業のための注意事項を周知し、準備体操を行った。各自、本事業で用意した胴長とビニール長手袋を着用して生物捕獲を開始した。

捕獲した生物をバケツに入れ、ある程度捕獲したら仕分担当に渡して新しい水の入ったバケツと交換した。バケツには泥水が混入して生物を弱めるため、回収運搬の作業要員を配置して早めの交換を行った。

捕獲した生物は、在来種と外来種（国内外来種含む）に仕分け、種名、数量等を記録した。在来種は保護、飼養し、復水後に再放流し、外来種は駆除した。駆除にあたっては、生物に苦痛を与えない方法で行った。

外来種の判定は、環境省「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（以下、環境省外来種リストとする）を参考にしたほか、国内外来種等一部の種については、各池の状況に応じて個別に判断し駆除した。



写真7 生物捕獲作業



写真8 生物捕獲作業



写真9 仕分作業

⑥普及啓発展示

事業の普及啓発を目的とし、普及啓発展示用解説パネル及び配布用リーフレットを作成した。

生物捕獲イベントの当日に、かいぼりの概要説明を行う展示ブースを設け、パネル展示を行い、かいぼりの目的や必要性、内容についての解説を行った。また、捕獲した生物は生体展示を行った。



写真10 普及啓発展示

⑦泥土除去・天日干し

・泥土除去

生物捕獲イベント終了後、池底の泥土を除去する。泥土は、有機物（栄養塩）を含んでいて水質悪化の原因の一つである。これを除去することにより池の栄養塩を減らすことができる。

除去方法は、バキューム車で吸引して、処分場へ持ち込み、産業廃棄物（汚泥）として処分した。

・天日干し

生物捕獲イベント終了後、排水状態を維持し天日干しを行った。期間は45日を目安とした。

天日干しは、泥を空気にさらすことで泥土内の窒素分を取り除く（脱窒）とともに、乾燥して泥が固結することにより栄養塩が水中に溶け出しにくくなることで、水質を改善する効果がある。乾燥が進むと泥土にひび割れが生じ、内部も好気的な環境になる。ひび割れの状況を観察し、天日干しの完了のタイミングを判断した。



写真11 泥土除去



写真12 天日干しによるひび割れ

⑧復水・在来種放流

・復水

天日干し完了後、既存給水設備を稼働させ給水を行った。補給水が天水のみの池は、復水が進まないことがある。事後調査（水質）に影響する場合には、上水道や井戸に給水管を設置して緊急的に復水を行った。

・在来種放流

モツゴなどの被捕食魚類が逃げられる程度に復水したことを確認し、保護していた在来種を放流した。放流場所は、各生物の生息場所に配慮して選んだ。

⑨事後調査（水質）

当年度かいぼり事業を実施した池については、かいぼり後に水質調査を行い事前調査と比較した。復水の直後なので結果は水源の影響を大きく受けるが、同時に池へ供給される水全体の性質を把握することができた。

(2) 各池の翌年度以降

⑩モニタリング（水質・生物）

過年度に実施した池は、モニタリング調査として、①水生植物、②水生生物、③トンボ類、④水質の調査を行い、事業効果を検証した。

調査の方法は、同項②の水質、生物の調査と同様である。

IV. 成果

令和2年度までに、『「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019年度）～2020年に向けた実行プラン～』で目標とした30池のかいぼりは完了し、過年度に実施した23池のモニタリングを行った。

1. 水質の変化

かいぼり前に池底が還元状態だった池は、かいぼり後に池底が酸化状態になり、かいぼりは、池底の環境改善に効果のあることが分かった。

また、すべての池で、値がかいぼり前よりも向上した項目が見られ、かいぼりは水質改善に効果のあることが分かった。ただし、どの項目に効果があるのかについては、池によって違いが見られた。

2. 生物相の変化

外来生物のうち、魚類については、かいぼりによる駆除効果が高い結果となった。ただし、水源が河川や水路由来の池では、再び確認されている。また、甲殻類、は虫類、両生類は、かいぼり後も確認された。かいぼり後に、新たな水生植物の出現は、確認できなかった。

3. ボランティア・普及啓発

ボランティアの参加傾向は、交通の便が良い公園の池では応募数が多い傾向があった。また、3年間を通してリピーターとなっているボランティアは、交通の便に係わらず、複数の池に積極的に参加していた。公募ボランティアのほか、対象池のある公園で自然保護関連のボランティアをしている方の積極的な参加があった。

普及啓発では、展示ブースで、興味津々に水槽をのぞき込む子どもや展示した生物を通して往年の様子を話すお年寄りなどで賑わい、スタッフも来園者の質問に対応した。池への関心の高さを確認できたとともに、事業の意義を伝えることができた。

V. 課題

1. 水質

かいぼりにより改善が見られた水質も、永続的なものではないことが分かっている。これらの池では、継続的にかいぼりを行うことで、一定の水質を保つことができると考えられる。

一方で水質改善が限定的な池は、井戸水や湧水、循環水など、流入水の水質や水質改善に効果がある水草の生育不良などの影響があると考えられる。

2. 生物

かいぼりで捕り切れないアメリカザリガニやウシガエルは、捕食者であるコイやライギョを駆除した結果、かいぼりの翌年に大繁殖しその数を増加させることが分かってきた。アメリカザリガニは水生植物の茎を切ってしまう、その生育にダメージを与えること、ウシガエルは、どん欲に他の生物を捕食することから在来種の生育を脅かすことが分かっている。水質の改善と在来種の保護のためには、これらの外来種を捕獲し続ける取組が必要となる。

3. 今後の展開

かいぼりで復活した在来生物の生息・生育環境の保全のため、更にステップアップした取組が必要である。

公園の池は垂直護岸に囲まれている構造であることが多い。多様な水草が生える環境づくりのため、浅場を作り池に浅いところと深いところを連続的、段階的に設けたり、種子の発芽に必要なスイッチを入れるため、発芽前の冬季に水位を下げ、底泥を露出させたりといった管理をしていくことが望まれる。

VI. おわりに

かいぼりによって、池の水質改善と生物多様性の保全に一定の効果が得られた。水質、生物、植物の課題として挙げた事項は、相互に影響しているため、各池の特性に合わせて

複合的に取り組むことで継続的、発展的に効果が表れると考えられる。

その中で、生物で課題とした捕食者を駆除することによる弊害、また、限りある資源の効果的な投入、営造物である公園の池に求められる姿、3年間を通して見えてきたことがある。振り返り、軌道修正を重ねることで、望ましい姿に近づいていくと考えられる。

今後も継続してモニタリングを実施し、各池の生物の生息状況、植物の生育状況、水質を経過観察し、かいぼりの効果を確認していく。その上で、これからの事業のあり方について東京都へ提案し、事業を継続していくことで、都立公園の池の水質改善と生物多様性の保全を進めたい。

高茎草地エリアの管理について ～『武蔵野のくさはら』の再現～

公益財団法人東京都公園協会神代植物公園植物多様性センター
折笠 充洋、大川 裕美、箱根 ゆみ子、日比 也貴、山内 実可子、堀江 孝之

I. はじめに

1 神代植物公園植物多様性センターについて

神代植物公園の分園である神代植物公園植物多様性センター（以下、「センター」という）は、東京都の植物保護拠点となる施設として平成24年4月に開園した。センターは「都内絶滅危惧植物の保護・増殖」「都内絶滅危惧植物等の情報収集・発信」「植物多様性保全に関する教育・普及」の3つを柱として事業を行っている。センターには植物の魅力や保全の重要性を伝える情報館と、東京都に自生する野生植物の見本園である学習園がある。1.6haの学習園内には、武蔵野の里地里山を再現した「武蔵野ゾーン」、奥多摩の山地や石灰岩地を再現した「奥多摩ゾーン」、伊豆諸島の自然を再現した伊豆諸島ゾーンの3つのゾーンがある。更に各ゾーンは高茎草地エリアや石灰岩地エリア、火山性草地エリアなど計18エリアに分かれ、東京都の多様な植生環境を観察することが出来るようになっている。

2 高茎草地エリアについて

平成24年度から武蔵野ゾーンにある高茎草地エリアを「武蔵野のくさはら」というコンセプトで整備している。かつての武蔵野地域のススキ草原で普通にみることが出来たオトコエシ、オミナエシ、キキョウ、ムラサキなどの在来種の植物を植栽している。単に植物を展示するだけでなく、景観として本来の豊かな植生を再現することで、現在の東京で帰化植物の優占する草地とは違う武蔵野の原風景を伝えるエリアとなっている。日本古来の植物や風景をみることが出来るため、吟行をする俳句同好会の方や染め物をしている方、万葉集を研究している方などの文化的な側面から植物に関心を持った来園者も多く訪れる。エリアのコンセプトや観察できる植物はガイドツアーや案内看板、セルフガイドで紹介している。



図1 学習園マップ



写真1 高茎草地エリア風景

高茎草地で見られる植物



写真2 ムラサキ



写真3 ムサシノキスゲ



写真4 ナンバンギセル



写真5 マキエハギ



写真6 カワラナデシコ



写真7 キキョウ



写真8 オミナエシ



写真9 フジバカマ

Ⅱ. 高茎草地エリアの管理

1 管理方針

有識者から助言を頂き、管理方針を策定した。エリアの西側から東側に向かってシバ群落からチガヤ・ススキ群落でみる事が出来る植物を集めて展示している。植栽する植物は東京都由来のものに限定し、許可を得て自生地から採取したり、専門家や保全団体から頂いたりなどして入手している。それらの種や苗はバックヤードと温室（無加温）で栽培し、状況に合わせてエリア内に展示を行っている。

2 管理内容

(1) 草刈り・除草

武蔵野のススキ草原は萱場として利用され、毎年の野焼きによって維持されてきた。センターでは野焼きが出来ないため、草刈りの回数と刈り高を工夫して行うことで景観を維持している。エリア内の西側は草刈りの頻度を多くして東側は草刈りの頻度を少なくしていくことで、連続的な植生の変化を実現している。ススキを優占させる区画は、地上部に新芽ができるため、刈り高を15cm以上と高く設定し、チガヤを優占させる区画は、新芽が地下にできるため、地際から刈り取っている。

ヤブマメやツルマメ、ヌスビトハギなど繁殖力の旺盛な種は他の植物の生育の邪魔となるため、適宜手作業で間引きを行なっている。

隣接する伊豆諸島ゾーンの火山性草地エリアとの境に目隠しとして列植しているススキは、春の芽吹きを待って枯れた茎を手刈りすることで景観への影響を最低限に抑えている。

園路際の通行の支障となりそうな植物は、除草や誘引、支柱設置を行って、通路を確保している。

(2) 植物名札・案内看板設置

植物観察の役に立つようにエリア内の植物には、生育している植物の多くに名札を付けている。また、ススキの陰に隠れて咲くナンバンギセルについては、観察しやすい位置に案内看板を立てて来園者に紹介している。



写真10 園路際除草作業前



写真11 園路際除草作業後



写真12 ナンバンギセル案内看板

(3) 外来種除去

ハルジオン、メリケンカルカヤ、オオアレチノギク、セイバンモロコシ、セイタカアワダチソウ、ヤセウツボ、アメリカスミレサイシンなどの外来種は、ボランティアの協力を得て、種を付ける前に除去作業を行なっている。

(4) ロープ柵設置

秋に全面草刈りを実施したあとは一見何もない空間となる。しかし、地下には地下茎などの形で多年草の植物体が存在している。踏圧で衰弱することを防止する目的で、秋から春にかけてエリア内の園路沿いにロープ柵を設置している。



写真13 ロープ柵設置

(5) クズの支柱設置

高茎草地エリアでは秋の七草を展示している。秋の七草のひとつであるクズは、オオシマザクラに絡んだり、地面を這ったりして観察していただくには不適切な状態になっていた。秋の七草を目当てに来園する方も多いため、クズの花を観察して頂けるように支柱を設置した。クズは開花するためには、ある程度植物体が大きくなる必要がある。支柱の大きさを確保しながら景観の邪魔とならない形状とするため、高さ2.5m、幅2mのサイズで三角柱のタワー形支柱とした。材料は丸太(直径6.0cm)、シュロ縄、鉄くぎを使用して、丸太には腐朽防止剤を塗布した。



写真14 支柱設置



写真15 クズ(5月)



写真16 クズ(6月)



写真17 クズ(9月)



写真18 クズの花(9月)



写真19 高茎草地エリア風景

3 高茎草地管理マニュアルの作成

今まで有識者の助言を基に管理してきたことで得た知識と経験を基に「高茎草地管理マニュアル」を作成した。マニュアルは「主な年間作業」、「主な植物の見頃カレンダー」、「植物種ごとの管理方法」の3項目に分かれ、年間を通じた管理から種ごとの管理まで対応できる仕様としている。



図2 高茎草地管理マニュアル

III. 今後の目標と課題

高茎草地エリアには秋の七草をはじめとする人気のある植物が植栽されている。キキョウやムラサキ、ムサシノキスゲなど、他ではなかなか見ることが出来ない植物もあり、植物観察や写真撮影を楽しむ来園者が多く訪れている。「古典文学に出てくる草花を実際に見て感動した」、「自然の中にある花の素朴な美しさを知ることができた」という声を頂くこともある。生物多様性の「生態系サービス」のひとつである「文化的サービス」を体感して頂き、植物の種だけではなく環境を保全する必要性も考えて頂くきっかけとなっている。今後は子供や植物にあまり興味の無い方も楽しめるようなツール開発や見せ方の工夫を行っていききたい。

狭山丘陵におけるナラ枯れ被害調査と対策について

西武・狭山丘陵パートナーズ

維持管理部 大房 直登

(西武緑化管理株式会社所属)

自然環境保全部 舟木 匡志

レンジャー部 丹 星河

(特定非営利活動法人 NPO birth 所属)

I. はじめに

令和元年度より、各都立公園で「ナラ枯れ」について被害報告が散見され、安全な公園利用において大きな課題となっている、狭山丘陵の都立公園でも同年度には20本程度のナラ枯れが発生し、適宜伐採等の処置を行ってきた。令和2年度には被害数が600本以上となり、被害が拡大しているため、被害木の調査の徹底とともに伐採処理等を順次行ってきたところである。

狭山丘陵は都県境を超えて6市町にまたがる丘陵地であり、土地の所有者、管理者が多数存在している。当グループが運営する狭山丘陵広域連絡会では、臨時の会議を開催し、これらの管理者等より各エリアの情報を得ることができた。これにより丘陵全体の被害状況の把握や一体となった対応が可能となり、被害の拡大防止に大きく役立っている。

本稿では調査した内容、課題解決のための対策、今後の計画などについて報告する。

II. ナラ枯れとカシノナガキクイムシ

1. ナラ枯れのメカニズム

まず、令和元年度より関東各地で被害が報告されているナラ枯れについて述べる。病名はブナ科樹木萎凋病と言い、通称「ナラ枯れ」と呼ばれている。これはコナラ、ミズナラ、スダジイ、マテバシイなどブナ科樹木の葉が夏季の一定期間に萎凋し集団枯損を引き起こすものである。ナラ枯れのメカニズムは、春季に被害材から羽化脱出したカシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）新成虫の雄が、産卵対象となる風倒木や衰弱木に飛来し穿孔する。材入に成功すると集合フェロモンを発し、同種他個体を呼び寄せ集団で穿孔し樹木の防御反応を打破する。この行動はマスアタックと呼ばれ、集団で1本の樹木を加害するため、被害木の根本付近には穿孔する際に発生するフラスが大量に堆積する。さらに、雌個体には孢子貯蔵器官があり、ここにナラ枯れの原因となるナラ菌とカシナガのエサとなる酵母菌が付着している。それらが付着した個体が飛来して樹木と接触することで、ナラ菌が樹体内へ移動する。そして樹体内で蔓延すると、通導器官の機能が停止し、樹木が水分を吸い上げることができなくなり枯損する。さらに翌年の春に、新成虫が脱出し新たな樹木を求め飛散する。こうして被害は周辺へ拡大していく。

2. カシノナガキクイムシ

ナラ枯れ被害の原因とされているナラ菌を媒介するカシナガは、甲虫目-ナガキクイムシ科の昆虫である。キクイムシと言われているが植物組織を食べる樹皮化キクイムシとは異なり、自らが運び栽培した菌をエサとする養菌性キクイムシである。

材入したカシナガは交尾・産卵し、子育てを行う。新成虫が脱出するころには親は死んでしまい、春季に脱出するのは新成虫のみである。

元来カシナガは風倒木や衰弱木を好んで穿孔するが、平成30年に発生した大型台風では、園内で多くの倒木が発生したため、カシナガの生育環境が整ってしまい、個体数が増加したことが推測される。また、個体密度が上昇すると健全木にも穿孔し被害をもたらす。



写真-1 ナラ枯れ被害木（野山北・六道山公園）樹林内で葉が萎凋している様子



写真-2 ナラ枯れ被害木（野山北・六道山公園）萎凋している頂部が見える



写真-3 捕獲したカシノナガキクイムシ
左：雄成虫 右：雌成虫と孢子貯蔵器官



写真-4（左） マスアタックされた被害木



写真-5（右） 切株にもマスアタックされている

Ⅲ. 狭山丘陵の都立公園におけるナラ枯れ被害木調査

1. 調査場所

ナラ枯れの被害木調査は、西武・狭山丘陵パートナーズ※1 が指定管理者として管理運営を行っている各都立公園で実施した。本稿ではその中でも、都立野山北・六道山公園で行った調査結果について記載する。

都立野山北・六道山公園は狭山丘陵西端にあり、武蔵村山市と瑞穂町にまたがっている。開園面積は 203ha と都立公園最大の丘陵地公園である。園内は、ほぼクヌギやコナラのなどの落葉広葉樹が優先する二次林で占められ、カシナガの被害対象木となるブナ科樹木が多い植生である。

2. 調査内容と結果

(1) 被害数量調査

被害木の数量調査は、令和 2 年 8 月 5 日から 8 月 14 日にかけて園内各園路(合計 35km)を踏査して実施した。本数のカウントは、全枯れ(葉が全体的に萎凋しており樹木が水分通導を完全に停止している)、半枯れ(葉が部分的に萎凋しているが水分通導はある)、フラスのみ(フラスは確認できるが萎凋は見られず生存しているもの)の 3 段階で記録を行った。

調査の結果では合計 413 本の被害木を確認した。内訳は、全枯れ 75 本、半枯れ 179 本、フラスのみ 159 本であった。調査以降も被害木は増加しており、合計 500 本を超える被害となった。

図-1 は都立野山北・六道山公園東側の図で、全枯れと半枯れを赤、フラスのみを青で図示している。図中の大きな赤い四角は 1ha 当たり 10 本以上の被害が大きい地区を現している。集団で枯損している箇所も確認できたが、多くは単独で被害に遭っていた。

また、図-2 は全枯れ、半枯れを幹周別に集計したグラフとなっており、幹周 60 cm から 149 cm に被害が集中していた。

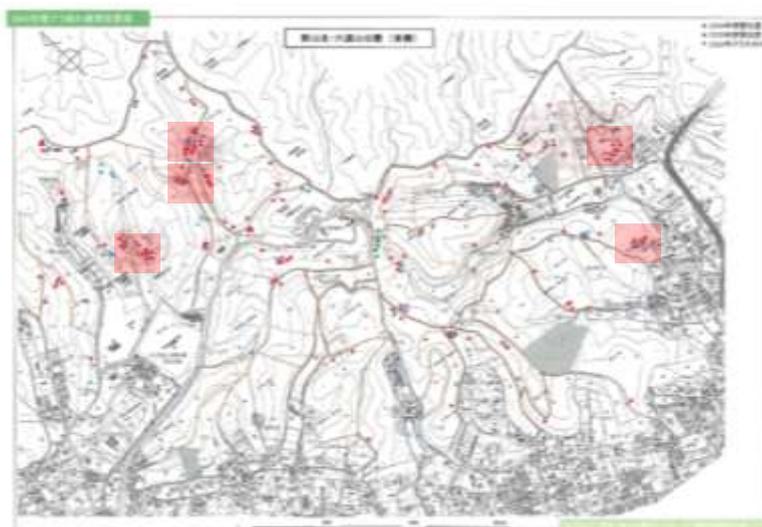


図-1 被害木位置図
(赤い四角は 1ha 当たり
10 本以上被害が集中して
いる地区)

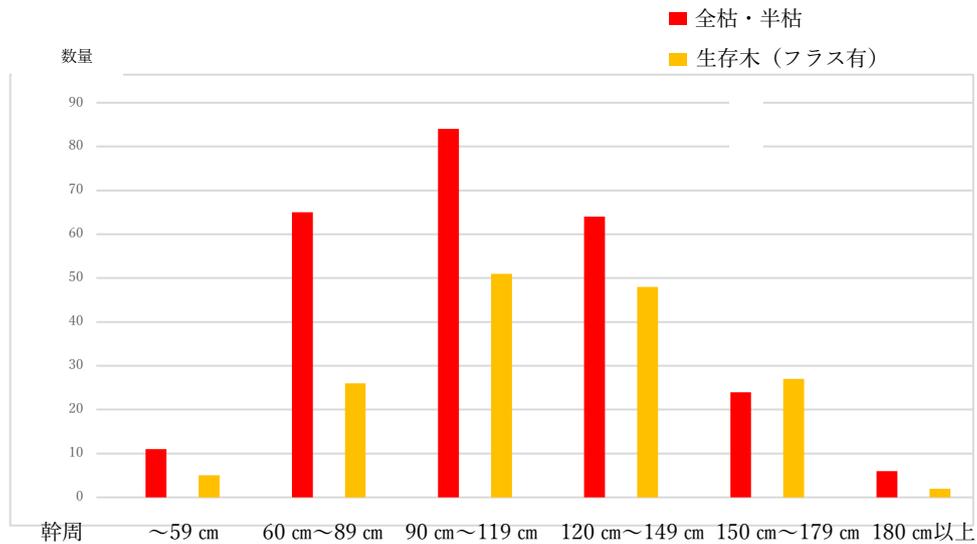


図-2 被害木と幹周の関係（野山北・六道山公園）

(2) 捕獲調査

被害がカシナガによるものかを確認する為、成虫捕獲のトラップを2種類仕掛け調査を行った。まず、令和元年に枯れたコナラに目合4mmの寒冷紗を幹に巻き付け、脱出防止を図り捕獲をこころみた（写真-6）。1週間後に寒冷紗を捲り確認したところカシナガは確認できず、同じナガキクイムシ科のヨシブエナガキクイムシ（以下ヨシブエ）を多数確認することができた（写真-7,8）。さらに継続して調査を行ったが、樹液に集まる昆虫たちがネットに絡みついてしまう事例が夏季にかけて多く発生した為、捕獲調査を断念した。



写真-6 寒冷紗を巻付けた防除



写真-7 多数のヨシブエ



写真-8 ヨシブエナガキクイムシ

次に静岡県で開発されたクリアファイルトラップを設置し、捕獲されたキクイムシの同定を行った。まずはフラスが出始めた状況の被害木を選定し、8月9日にトラップを設置。翌日に捕獲を実施した。捕獲した11個体は全てヨシブエだったが、設置を続けるとカシナガも捕獲することができ、「カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害」であることが確認できた。このトラップは使用済のクリアファイルで作成でき、捕獲効果が期待できたが、クリアファイル内の水にフラスが堆積したり、ボウフラが発生するため、1～2週間程度で水を交換するなど、こまめな管理が必要であった。



写真-9
トラップ材料



写真-10
トラップ設置状況



写真-11 捕獲状況

(3) 被害材の調査

前述した各調査により、夏季に葉が一定期間で萎凋したこと、カシナガが確認されたことから、「カシノナガキクイムシが穿孔したことによるナラ枯れ」と判断し、被害材の調査を行った。

被害材の調査では、爪楊枝を活用してカシナガの穿孔がどの位置に集中しているかを確認した。カシナガとヨシブエは外見がよく似ているが、成虫の大きさに違いがある。カシナガの方が大きく、開ける穴も大きいため、爪楊枝が深く刺さることで区別できる。

調査した結果、写真-12のように東に位置する左側の一面だけに集中して加害されている樹木が数本確認できた。それを伐倒・玉切りし観察した結果、写真-13のように左側の辺材部分が肥大していた。これはカシナガが辺材部で生育する為、生育に適した環境を事前に把握し穿孔したものと思われる。また、肥大成長している辺材は、周辺樹木の被圧を受けていた。玉切りにした材からは、坑道の様子や幼虫の様子が観察できた（写真-14）が、この幼虫がカシナガなのかヨシブエなのかを同定するには至らなかった。



写真-12 穿孔が東側（左側）に集中している被害木



写真-13 肥大している辺材（左側）



写真-14 確認できた幼虫



写真-15 坑道の様子

IV. 都県境を越えた取り組み

1. 狭山丘陵広域連絡会の開催

狭山丘陵は、都県境を越えた6市町にまたがる丘陵地であり、行政界を越えて一体となった保全の取り組みが課題であった。そこで西武・狭山丘陵パートナーズでは、狭山丘陵一体での保全、普及啓発を進めることを目的とし、平成24年度に狭山丘陵広域連絡会※2を立ち上げ、毎年連絡会を開催し、保全や活用についての情報共有や意見交換を行っている。

令和2年度の連絡会ではナラ枯れをテーマとし、構成員に加え、周辺6県市町にも声をかけ開催した。事前にヒアリングを行ったところ、丘陵とその周辺で881本（令和2年10月現在）もの被害が発生していることが明らかとなった。連絡会当日はその被害状況を共有した他、すでに防除を行っていた団体からラッピングによる防除やクリファイルトラップ等を紹介。被害樹木の処理を進める上での課題や、効果的な防除方法などについて

て情報交換を行った。

2. 連携したナラ枯れ対策の実施

連絡会開催後は共有した情報を基に、普及啓発用のチラシ(資料-1)を作成した。それを園内に掲示し、ナラ枯れ発生のメカニズムや公園の対応方針などの情報を来園者に向け発信した。このことで、来園者に対する取り組みの周知と理解を深めることができた。また、連絡会開催後も被害樹木の処理方法や、誘引剤の効果的な利用についてなど情報の交換を行い、連携してナラ枯れ対策に取り組む体制を構築することができている。

<他公園での連携事例>

武蔵野地域の都立公園である野川公園（指定管理者：西武・武蔵野グループ）では、公園に隣接するアメリカンスクールからの問合せをきっかけに、ナラ枯れについての解説動画を英語で作成し、配信した。チラシ掲示や動画配信など積極的に情報を発信することで、来園者や周辺住民の不安を軽減し、公園管理者のナラ枯れに対する方針への理解促進に繋がっている。

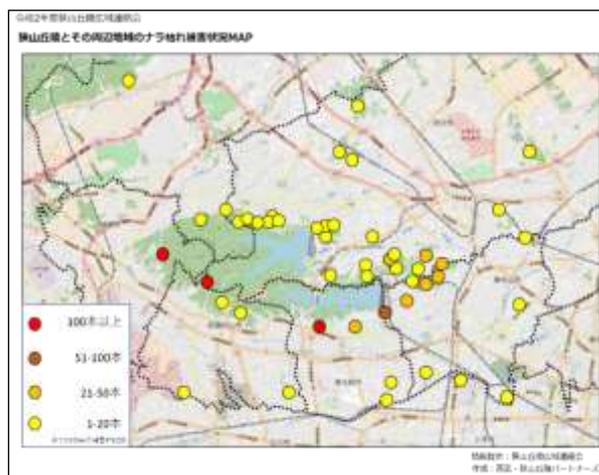


図-3 狭山丘陵とその周辺地域のナラ枯れ被害木の状況



資料-1 ナラ枯れ普及啓発チラシ

V. 今後の対応

1. 防除対策

被害拡大の一般的な防止対策として、まず被害木の伐採、抜根が挙げられる。これは羽化脱出期である5月～6月までに伐採、抜根を行い搬出、焼却処分をする方法である。

次にあげられる対策としては、薬剤等を用いた科学的防除である。蔓延防止を図る為にはカシナガの個体密度を低下させることが有効であるため、前述したクリアファイルトラップ等による捕殺、おとり丸太に誘引剤（カシナガコール）を設置した丸太トラップ、

カシナガがエサとして培養する酵母菌の増殖を防ぐ殺菌剤注入、カシナガが穿孔するのを防ぐ被覆材などがあげられる。

2. 今後の計画

今後、公園では上記の伐採・抜根と、資材等による対策を組み合わせることで防除を行う。園内がほぼ雑木林で占められる都立野山北・六道山公園では、樹林内の被害木を伐採しようとする、車両や重機を入れるための道の整備が必要となるため、全ての被害木を伐採することは費用の増大、植生への悪影響を招き実施が困難である。そのため、伐採対象には優先順位を付ける。優先度が高いのは、園路や施設周辺など来園者に危険を及ぼす可能性のある場所である。作業の際は、登り込み時の落下や落枝による物損等、二次被害に繋がらないよう、対象木の状況を事前に確認する。

また、丘陵地公園である当公園には、谷戸奥の水源や希少種の生育場所など、環境保全上重要な場所が存在する。これを「保全エリア」とし、ここでの対策も優先的に行う。樹木への穿孔防止対策として、エリア内の樹木へのラッピング等被覆を実施し、物理的に穿孔防止を図る。また飛来防止対策として、おとり丸太と誘引剤を使用する。伐開（萌芽更新目的）エリア又はブナ科以外の林分を「誘引エリア」と定め、切ったコナラ材をおとり丸太とし、誘引剤を設置しておとり丸太に穿孔させて搬出処分を行う。「誘引エリア」の選定には、カシナガが穿孔した丸太をまとめて搬出処理するためのトラック、クレーンなどの車両進入が可能であることが条件になる。また、カシナガは材内の含水率が20%を下回ると生存確率が下がってしまうと言われている為、乾燥すると穿孔自体も少なくなっていく。「誘引エリア」のおとり丸太は乾燥しすぎないように、適度な緑陰のある位置への設置が望ましい。

今回、都立公園のみならず狭山丘陵全域の課題として狭山丘陵広域連絡会を通じて地域の関係者と情報交換をし、対策を講じることができた。特にこの問題については周辺地域一帯の関係者と共に取り組むことに意義があると考えている。今後は来園者の安全を第一とした対処を実施し、関係者と連携しつつ狭山丘陵全域の緑豊かな自然環境を維持しながら安全、安心な公園づくりを行っていききたい。

※引用文献：静岡県ナラ枯れ被害対策ガイド

※1 西武・狭山丘陵パートナーズ：狭山丘陵の都立公園グループ（狭山公園、野山北・六道山公園、八国山緑地、東大和公園、中藤公園）の指定管理者。構成団体は西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人NPO birth、特定非営利活動法人地域自然情報ネットワーク、一般社団法人防災普及協会。

※2 狭山丘陵広域連絡会：狭山丘陵に関わる自治体、市民団体、指定管理者などと連携して、行政区をまたぐ広域の自然環境保全や地域 PR の活性化等を推進する連絡会。西武・狭山丘陵パートナーズが事務局（特定非営利活動法人 NPO birth が運営）を務める。テーマに応じて、6 市町（入間市、東大和市、所沢市、東村山市、武蔵村山市、瑞穂町）や環境省、公益財団法人トトロのふるさと基金、埼玉県狭山丘陵いきものふれあいセンター、さいたま緑の森博物館、早稲田大学所沢キャンパス湿地保全活動、埼玉県川越農林振興センターなどが参加、連携している。

豊洲市場における屋上の試験植栽について

株式会社グリーンバル

岩本菜々

I. 豊洲市場について

豊洲市場は、50年先まで見据えた首都圏の基幹市場として、築地市場が果たしてきた豊富で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と価格の安定という機能に加え、消費者の意識が高まっている食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現など、産地や顧客・消費者の様々なニーズにも対応していくために2018年に開場した。東京ドーム約9個分の面積がある敷地内は青果の卸売場と仲卸売場のある5街区と水産の仲卸店舗があつまる6街区、水産物のせりをはじめとした取引が行われる7街区の3つの街区に分かれている。



写真 豊洲市場（東京都中央卸売市場提供）

II. 豊洲市場の緑地とその管理について

各街区で年間植栽管理委託業務が発注されており委託業者が低木の刈込や草刈、除草等の作業を実施し、良好な景観の維持に努めている。グリーンバルでは令和2年度の豊洲市場植栽管理委託の内5街区と7街区の植栽管理委託を受託している。

1. 外構植栽について

常緑樹を中心に高木と低木が植栽されており、管理は低木刈込が年1～2回、除草が5回、草刈が5～6回程度実施されている。高木は剪定の必要がある樹木のみ単価契約を受託している別の業者が剪定作業を行っている。各街区に屋上緑化、壁面緑化があり6街区の屋上緑化広場は一般の方も利用することができる芝生広場が整備されている。

2. 屋上緑化について

植栽内容は各街区で特色があり、管理の回数や頻度は各街区によって差はあるが除草は年5～6回程度、枯葉の除去や切り戻しなどの手入れ作業を年2回程度実施している。

(1) 5 街区屋上植栽

フィリヤブランとリュウノヒゲが主に植栽されており、小口買参棟、通勤駐車場棟の屋上にはキリンソウが植栽されている。

(2) 7 街区屋上植栽

リサイクル棟や水産卸売棟、管理棟に屋上植栽があり水産卸売棟の植栽は賽の目状に区画分けされておりフィリフィラオーレアやセイヨウイワナンテンレインボーなどが植栽されている。



写真：5 街区
青果棟屋上



写真：5 街区
駐車場棟屋上



写真：7 街区
水産棟屋上



写真：7 街区
水産棟屋上

Ⅲ. 屋上植栽の現状と課題

各街区の屋上植栽で大きな面積を占めるのが薄層緑化システムに植栽されているフィリヤブランとリュウノヒゲである。これらは冬から初夏にかけては問題なく生育しているが、梅雨明けから8月末あたりまでの間で厳しい暑さと強い日差しで葉が日に焼ける、枯損するなどの問題が発生している。また、気温上昇に伴い土壌水分の温度が上昇することや自動灌水ホース内の温度が高くなり灌水時温水になってしまうことなど様々な要因で健全な生育が阻害されている事が考えられる。また、今後起こる可能性がある課題として根詰まりが懸念される。薄層緑化システムでは年を追うごとに成長していくフィリヤブランとリュウノヒゲの根が張るのに十分な土量を確保することは難しく数年後には根が延びる余地が無くなり根詰まりを起こす可能性がある。根詰まりが起きると水分や酸素を保持できる土の部分の少なくなるため乾燥しやすくなることや、根から酸素を取り込めず酸欠状態になってしまうため生育不良を起こしてしまうため将来的には植替えを検討する必要があると考える。

こうした課題は月に一度都の職員と植栽管理受託業者で実施している定例会でも話題となり、今後植え替えを計画する際に参考とするために豊洲市場の環境で生育可能な植物を選定していく事を目的とした試験植栽を実施することとなった。

試験植栽を実施するにあたりフィリヤブランとリュウノヒゲよりも夏期の厳しい暑さや乾燥に強く、臨海部である豊洲市場屋上の環境に適応できるもので、植替えを実施するに当たり現状よりも少ない株数で被覆することができ、施工費の削減を図ることが可能なグラウンドカバープランツを植栽することとなった。

IV. 試験植栽について

豊洲市場屋上緑化で夏期にも健全に生育することができるグランドカバープランツを判断するために試験植栽を実施した。

1. 試験植栽内容について

(1) 植栽した植物について

試験植栽をした植物は薄層の屋上緑化に於いて実績のある『マツバギク』と乾燥に強く、日向を好む『クラピア』とした。マツバギク、クラピアともに豊洲屋上の緑化システムに使われている飛散防止のための不織布の上にもランナーを伸ばし被覆する事ができるか懸念があった。



写真：マツバギク

- ① マツバギク：南アフリカ産の多肉植物で乾燥地に適しており、日向を好み5月にピンク色の華やかな花を付ける。薄層の屋上緑化に於いても多数の生育実績がある。
- ② クラピア：イワダレソウの改良品種で増殖のスピードが速く、芝の10倍の速度で広がり5月～8月の間可憐な白い花を付ける。



写真：クラピア

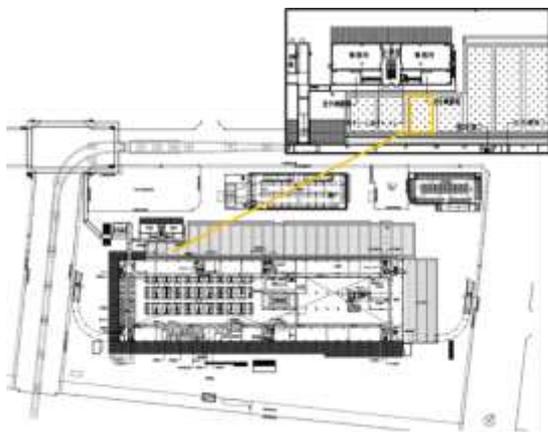
(2) 試験植栽箇所について

植栽箇所は近くに日陰を作るような建物が無いため乾燥による傷みが出ている箇所が多い5街区青果棟の屋上とした。

また、排水のための勾配がゆりかもめの市場前駅から続く連絡ブリッジと青果棟内のオフィスがある建物の軒下側についていることから灌水後水が滞水しやすい「連絡デッキ側」、乾燥しやすい「中央部」、灌水後に水が滞水しやすく午後に日陰ができる「軒下付近」の計3か所で試験植栽を実施した。

(3) 試験植栽した数量について

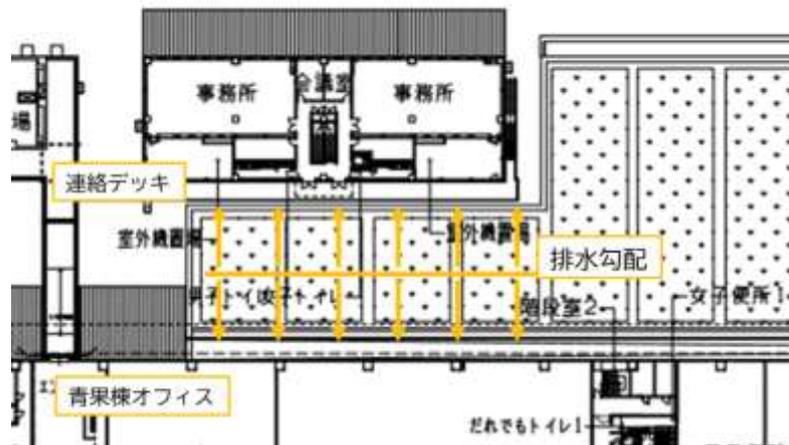
上記箇所にマツバギク各6 pot、クラピア各6 pot 計18 pot 植栽した。



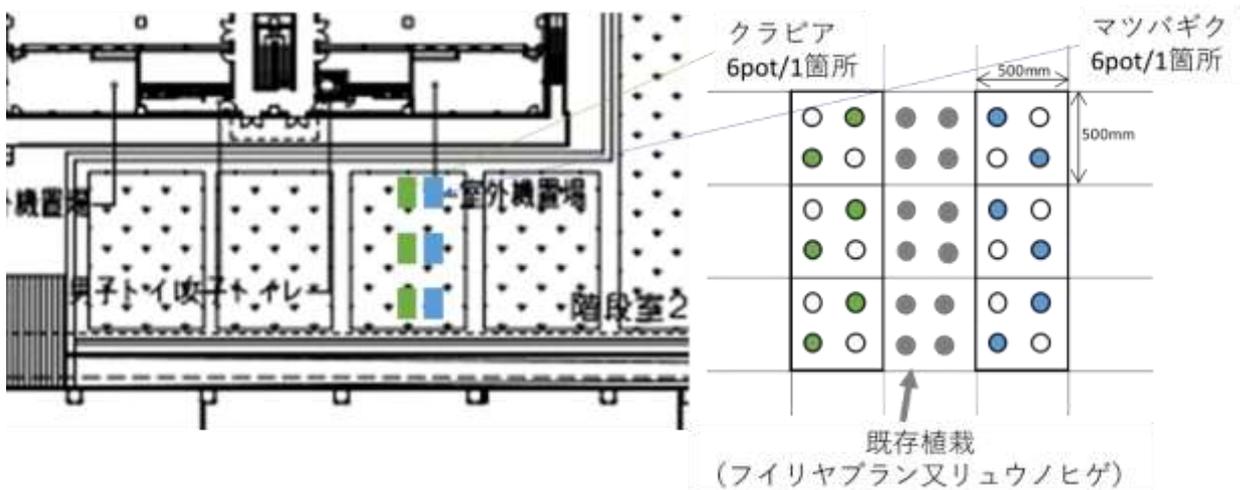
図：試験植栽位置図



写真：試験植栽箇所（青果棟屋上）



図：排水勾配



図：試験植栽箇所詳細図

(4) 試験植栽の経過確認

2020年6月11日に試験植栽を実施した。梅雨入り前に植栽し、夏期の厳しい環境下でも健全に生育することができるか検証を行い、その後定例会にて生育確認を実施している。



写真：試験植栽の様子



写真：試験植栽の様子

①連絡デッキ側 マツバギク



写真：植付当初



写真：夏期



写真：3月時点

②連絡デッキ側 クラピア



写真：植付当初



写真：夏期



写真：3月時点

③中央部 マツバギク



写真：植付当初



写真：夏期



写真：3月時点

④中央部 クラピア



写真：植付当初



写真：夏期



写真：3月時点

⑤軒下付近 マツバギク



写真：植付当初



写真：夏期



写真：3月時点

⑥軒下付近 クラピア



写真：植付当初



写真：夏期



写真：3月時点

(5) 試験植栽の経過について

① マツバギク

3月時点で植栽した18pot 全て枯損することなく生育が確認された。しかし横方向ではなく上方向に生育している株が多く期待していた被覆はできていない状況であった。一番伸びが良い軒下付近でも18cm程度で、生育状況としては3か所ともに生育は良好であった。冬期には葉が茶色に紅葉するため冬期の景観は既存のフィリヤブランとリュウノヒゲが植栽してある箇所の方が良好である。



写真：マツバギク生育状況（3月時点）

③ クラピア

当初不織布の上に伸びたランナーから根が張り、地上部を被覆するか懸念していたがランナーが根を張ることが確認できた。生育が旺盛な箇所ではランナーが50cm程度伸びている箇所があった。しかし3月時点、軒下付近で1pot 中央部2pot 枯損しており、原因は特定できないが、同じ箇所に植栽された株は全てが枯損している訳では無いことから、枯損した株だけが活着することが出来なかったと考えられる。生存している株の生育状況としては「中央部」がややランナーの伸びが悪く「軒下付近」は株によって旺盛に生育している株もあり「連絡デッキ側」は植栽した6pot すべてランナーの伸びも良く概ね良好に生育している様子であった。秋に葉の色が茶色に紅葉し冬期は地上部休眠状態に入る冬期の景観は既存のフィリヤブランとリュウノヒゲが植栽してある箇所の方が良好であった。



写真：クラピア枯損株（3月時点）



写真：クラピア生育状況（3月時点）

V. さいごに

マツバギク、クラピア共に豊洲市場の屋上の環境に適応可能であると今のところ判断できる経過となっている。しかし、冬期の景観を考慮するとフィリヤブランとリュウノヒゲの方が良好であると言える結果となった。また、冬期に葉が茶色に紅葉したマツバギクとクラピアが春から初夏にかけてランナーを伸ばし被覆していくか、被覆後、夏期高温多湿状態になった際に痛みが無いかなど今後も経過観察が必要と考える。

今回の試験植栽の結果から、今後の補植計画をする際には既存のフィリヤブラン、リュウノヒゲとマツバギク、クラピアをうまく組み合わせ全体の景観を検討し、優先順位を決めて補植を計画し提案することが必要であると考えます。

令和元年度 神代植物公園植物多様性センター年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
堀江 孝之

I. はじめに

植物多様性の衰退が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成 24 年 4 月に開設された。

植物多様性センターの敷地は約 26,000 m²あり、その中には情報館 (650 m²)、学習園 (16,000 m²)、栽培温室 (200 m²) の施設がある。

情報館は、東京の植生図や丘陵地の公園を紹介するパネル展示や図書文献が閲覧できるライブラリーコーナー等、植物多様性に関する展示・解説を行っている。

学習園は、東京を代表する自然環境の中から、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと大きく三つのゾーンに分かれ、それぞれの環境にあった植物を展示している。

開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成 28 年度より引続き公益財団法人東京都公園協会が指定管理者として職員 7 名の体制で執行している。

植物多様性センターの事業は、次の 3 つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖については、平成 19 年度から 25 年度まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として 118 種（本土部 43 種及び島嶼部 75 種）選定し、保全策に基づき、それら植物種の現地調査等の域内保全や種子採取・無菌培養等の域外保全を平成 26 年度から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信については、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動主体の保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。このため、保全団体や愛好家等との情報連絡会や公園管理者連絡会等を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及については、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。また、土日には職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、年に 10 回にわたり職員や専門家による講座を開催している。

本書は、植物多様性センターが令和元年度に実施した事業や取組を年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考として、また今後事業や取組の進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができればと考えている。

II. 絶滅危惧種の保護増殖に関すること

1. 優先保全対象種等の植物調査

(1) 本土部における優先保全対象種の調査

NO.	調査日	種名	保全ランク	調査概要
1	2019/4/12	イヌフグリ	B	13株、フラサバソウが多く見られ、タチイヌフグリやオオイヌフグリも混ざる。
2	2019/5/10	カイコバイモ	B	マーキング箇所の採取。新宿御苑、筑波実験植物園送付
3	2019/5/10	カザグルマ	B	1株、ツルが絡むよう、周囲の他の植物を一部残して管理している
4	2019/5/29	クマガイソウ	B	1株、枯れ葉等のも洪積見当たらないため、消失の可能性がある。
5	2019/7/18	ウチワドコロ	B	1株、公園指定管理者(フュージョン長池)が管理を行っている。ここ数年開花していない。
6	2019/7/18	シラン	B	30株以上、個体数が増加している。
7	2019/10/11	オミナエシ	B	34株、2018年に開花確認、植物体の状態は良好
8	2019/10/11	ステゴビル	B	150株以上、個体数が増加、冬に1回/年 草刈りを行っている。
9	2019/10/11	ステゴビル	B	100株以上、土地所有者が手刈りで草刈りを行っている。

(2) 島嶼部における優先保全対象種の調査

NO.	調査日	種名	保全ランク	調査概要
1	2019/4/18	ニオイエビネ	A	1,034株、全個体ウイルス罹患、症状も発現している個体が多い(モザイク、萎縮、矮小化、壞疽)。
2	2019/4/18	オリヅルシダ	C	5集団(500株以上)、生育している崖地が崩落する危険はあるが、自生地の環境は安定している。
3	2019/5/17	オトギリソウ	B	200株以上、公共事業の草刈りで保全されているが、テイカカズラの被覆率が高くなっている。
4	2019/5/17	ムカゴソウ	B	30株以上、平地部にチガヤと数多く混成している。植生遷移進行の防止のために継続的な草刈りが必要。
5	2019/6/25	シロシヤクジョウ	B	個体確認できず、保護団体の保全活動で保全されているが、ヒアリングの結果減少傾向にあるとのこと。
6	2019/6/25	タヌキノシヨクダイ	B	12株、社の建物、石垣などの周囲など人間の手の入ったところのみで発生を確認。
7	2019/6/25	タヌキノシヨクダイ	B	13株、建物のコンクリート際の腐葉土の厚みがある地面に生育。個体数は減少傾向。
8	2019/6/25	ヒメノヤガラ	B	1株、林内の小路脇に生育、個体数は減少傾向にある。
9	2019/6/25	ヤマユリ	B	23株、道路法面、年1回選択的草刈りを実施しているところに生育。
10	2019/6/25	ヤマユリ	B	1株、花期には少し早かったため、株数がもう少しある可能性がある。
11	2019/8/29	ナギラン	B	8株、キョンの食害により個体数激減、開花には至らない。
12	2019/8/29	オオハウウンラン	A	25株、一年中水が染み出る小規模な谷筋に生育、登山道上に生育する個体もあり、踏圧の注意が必要。

NO.	調査日	種名	保全ランク	調査概要
13	2019/8/29	ムカゴソウ	A	20株、キヨンの食害影響の少ない低木の茂みに生育している。
14	2019/8/30	ムカゴトンボ	A	7株、5株以上開花、キヨンの食害が少ない岩場や樹木の下に生育している。
15	2019/8/30	オトギリソウ	B	0株、林道通行止めのため、草刈りが行われず、遷移が進み消失したと思われる。

(3) 本土部における優先保全対象種以外の調査

NO.	調査日	種名	保全ランク	調査概要
1	2019/6/22	ツレサギソウ	無し	保全に関わる技術助言、蒴果採取、無菌培養を行った。

2. 東京都内における生息域外保全

No.	種名	優先保全対象種 保全ランク	本土・島しょ	採取日	備考
1	イズノシマホシクサ	C	島しょ部	H26年9月26日種子採取 H30年8月29日種子採取 H30年8月30日種子採取	H26年より継続・栽培
2	ウチョウラン	C	本土部	H27年10月1日種子採取	新宿御苑へ送付（しいな）
3	オオシマシユスラン	C	島しょ部	H27年1月20日種子採取	新宿御苑へ送付
4	キキョウ	対象外	本土部	H27年9月30日種子採取	新宿御苑へ送付
5	キンラン	C	島しょ部	H26年9月3日種子採取	H26年より継続・無菌培養
6	クマガイソウ	C	島しょ部	H26年9月3日種子採取 H30年9月11日種子採取	H26年より継続・無菌培養 平成30年4月10日に人工授粉を行い、9蒴果のうち5蒴果を採取した。 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付
7	コウズエビネ	C	島しょ部	H26年9月27日種子採取	無菌培養、H26年より継続・無菌培養（2系統）
8	コウズエビネ	C	島しょ部	H27年10月5日種子採取	新宿御苑へ送付・無菌培養（2系統）
9	シムライノデ	対象外	本土部	H30年2月15日個体受取	栽培、危険分散のためつくば実験植物園へ送付
10	シラン	B	本土部	H27年9月15日種子採取	案内人の依頼及び盗掘の恐れがあることから種子採取による域外保全を行った・新宿御苑へ送付、栽培
11	ナギラン	対象外	島しょ部	H26年9月3日種子採取	H26年より継続・無菌培養（対象外だがキヨンの食害で消失の恐れがあるため採取）
12	ナギラン	C	島しょ部	H28年10月27日種子採取	H28年より無菌播種、新宿御苑へ送付
13	ナゴラン	C	島しょ部	H27年7月7日個体受取	栽培
14	ナツエビネ	C	島しょ部	H29年11月8日種子採取	新宿御苑へ送付、無菌培養
15	ニオイエビネ	対象外	島しょ部	H28年10月27日種子採取	無菌培養、新宿御苑へ送付（自生地消失のため代替地で採取）
16	ハマカキラン	対象外	本土部	H28年8月6日種子採取	新宿御苑へ送付

No.	種名	優先保全対象種 保全ランク	本土・島しょ	採取日	備考
17	ヒイラギソウ	C	本土部	H27年9月30日個体採取	挿し木にて栽培、H26年より継続・栽培
18	ヒナノキンチャク	C	本土部	H29年11月16日種子採取	栽培、新宿御苑へ送付
19	ヒナワチガイソウ	B	本土部	H27年4月30日種子採取	新宿御苑へ送付、生活史調査及び栽培
20	フウラン	C	島しょ部	H28年11月1日種子採取	無菌培養
21	マメヅタラン	C	島しょ部	H26年9月26日個体採取	H26年より継続・栽培
22	ミクラジマトウヒレン	A	島しょ部	H27年11月17日種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った新宿御苑、富山県中央植物園へ送付、栽培
23	ミズネコノオ	B	本土部	H27年10月14日種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った新宿御苑へ送付
24	ムサシノキスゲ	対象外	本土部	H29年7月13日種子採取 H29年7月28日個体採取	栽培、東京大学及び新宿御苑へ送付
25	ユウシュンラン	対象外	本土部	H28年1月22日種子採取	指定対象種は過去の自生情報のみのため、他の自生地から採種新宿御苑へ送付・無菌培養
26	ハチジョウツレサギ	対象外	島しょ部	H30年10月6日種子採取	新宿御苑へ送付
27	バアソフ	対象外	本土部	H30年10月3日種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
28	ハタザオ	対象外	本土部	H29年11月28日種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
29	シマキンレイカ	対象外	島しょ部	H30年10月7日種子採取	新宿御苑へ送付
30	ウラジロヒカゲツツジ	対象外	本土部	H30年10月29日種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、新潟県立植物園へ個体送付 1枝採取し、持ち運びしやすいよう3枝に分けた
31	カイコバイモ	B	本土部	R1年5月10日種子採取	栽培、新宿御苑、筑波実験植物園へ送付
32	ツレサギソウ	対象外	本土部	R1年9月3日種子採取	無菌培養
33	クロヤツシロラン	対象外	本土部	R1年12月17日種子採取	無菌培養

3. 建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に関する取組への支援

事務所	担当部署	植物種名	目標等	現状の規模・数量等	取組状況	関連事業	着手	備考
							完了(予定)	
北多摩北部 建設事務所	工事第一課 設計担当	・マヤラン ・サガミラン	苗根株の形成確認、開花	・マヤラン6鉢 ・サガミラン6鉢	コナラ実生、腐葉土に植えた鉢の維持管理、共生可否の確認	東村山キャンパス道路整備工事	・平成24年6月1日(苗木) ・平成24年10月19日(培養苗植付) 平成27年度	植え戻し等なければセンターのバックヤードで3年間経過観察し、処分。
西部公園 緑地事務所	工事課 事業係	水生植物類	発現種や生育状況によって、継続した個体の保護・増殖、もしくは現地への植え戻し	0.6m×0.9m/バット 1基	埋土種子発芽個体の保護育成	井の頭池かいぼり事業	平成24年12月11日 平成30年程度(状況等による)	・かいぼり25時に採取 平成28年2月2日 方では鉢・カンガレイ1鉢工事課へ返却 ・平成30年3月12日 ヒメガマ5鉢・カンガレイ1鉢工事課へ返却
西部公園 緑地事務所	工事課 緑化推進担当	キンラン	委託業者のバックアップが枯れた場合は、整備事業終了後、現地への植え戻しを予定	・三者共生:2鉢 ・二者共生:2鉢	菌根菌・コナラ等苗木との共生体の保護育成、共生可否の確認	放射5号線整備事業	平成25年5月26日 平成31年	・令和2年3月31日、現地への植え戻しは不要のため処分。
第三 建設事務所	工事第一課 環境対策担当	アマナ	整備事業終了後、現地への植え戻しを予定	プランター2基 (土量6袋分)	個体の保護育成	放射5号線整備事業(牟礼橋架設)	平成27年6月24日 平成34年 令和3年	・令和元年6月8日5号線開通。追加工事が発生したため、保管継続。
西部公園 緑地事務所	工事課 事業係	水生植物類	発現種や生育状況によって、継続した個体の保護・増殖、もしくは現地への植え戻し	0.6m×0.9m/バット 4基	埋土種子発芽確認、発芽個体の保護育成	井の頭池かいぼり事業	平成28年2月12日 平成30年程度(発芽状況等による)	・かいぼり27時に採取 平成30年3月12日 イグサ2鉢・サンカウイ1鉢工事課へ返却

事務所	担当部署	植物種名	目標等	現状の規模・数量等	取組状況	関連事業	着手	備考
							完了(予定)	
西部公園 緑地事務所	工事課 事業係	水生植物類	発現種や生育状況によって、 継続した個体の保護・増殖、 もしくは現地への植え戻し	0.6m×0.9m/バット 6基	埋土種子発芽確認、発芽個体 の保護育成	井の頭池かいぼり事業	平成30年3月11日 令和2年程度(発芽状況等による)	かいぼり29時に採取
北多摩南部 建設事務所	工事第一課 環境対策担当	希少植物	事業終了後、現地への播種を 予定	3g程度	種子の保存 (1~2年間で種子を更新)	関戸橋架替事業	平成28年3月8日 令和13年	・現地での種子採取状況により種子の交換等を行う。 ・平成28年2月28日返却 ・平成28年3月6日種子播種 ・平成28年3月15日種子保存 ・平成30年2月23日種子保存 ・平成31年2月18日種子保存・返却 ・令和2年2月21日種子保存、一部返却
公園緑地部	公園管理担当	タチクラマゴケ	工事区域内の個体調査	100mに点在	個体調査 保全の助言	保育所建設事業	平成29年6月16日 平成29年7月1日	
公園緑地部	・緑化推進担当 ・第二建設事務所 工事第一課	クスノキ	工事区域内の伐採対象クスノ キの増殖、植え戻し	中央分蘗帯の3本分の種子、 差し穂	街路樹植栽までの保護育成	地下トンネル築造及び街路築 造工事(27~22環の1千駄ヶ 谷)	平成30年10月16日	街路樹に植栽できる大きさまで管理 ・令和元年7月16日差し穂は枯損のため処分

【保全策について】

緊急性の高いものから順に 保全策C>保全策B>保全策A

〔保全策A〕生育地が自然立地的に保全されている。現状維持とモニタリングによる確認。

〔保全策B〕人的活動によって環境が保全されている。活動の支援とモニタリングによる確認。

〔保全策C〕開発や盗掘、あるいは保全活動の不足から危険な状態。緊急避難、種子保存。

Ⅲ. 絶滅危惧植物の情報収集・発信に関すること

1. 植物多様性センター蔵書数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	計
冊数	187	288	215	257	63	112	87	104	1,313

2. 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

	日にち	時間	参加人数
本土部	2月2日	13:30~16:00	72
島しょ部	2月16日	13:30~16:30	32

島嶼部：各島の絶滅危惧植物の保全状況について情報や意見交換を図った。

本土部：各保全団体のポスターセッションを実施し、希少種等の情報や意見交換を図った。

3. ホームページのお知らせ

No.	更新日	題	No.	更新日	題
1	4月5日	タガネソウのピンクの花	10	6月7日	コモチマンネングサ
2	4月12日	ゴマギとサンゴジュハムシ	11	6月14日	ミクリの実
3	4月19日	カラタチのトゲと葉	12	6月21日	ハマナデシコの花
4	4月26日	ハナイカダの蜜	13	6月28日	クリのイガのへその緒
5	5月3日	トチノキの花	14	7月5日	タヌキモ類の捕虫囊
6	5月10日	ヤブマメのふたつの実生	15	7月12日	トチノキの不吉なこたくさん
7	5月17日	アヤメとカマヤマショウブ	16	7月19日	ヤマユリとサクユリ
8	5月24日	ノアザミ	17	7月26日	ホオズキの仲間？
9	5月31日	シバとコウシュンシバ	18	8月2日	水草の浮葉

No.	更新日	題	No.	更新日	題
19	8月9日	ヘクソカズラのすすめ	36	12月6日	マメツタの胞子葉
20	8月16日	花までネコノシタ	37	12月13日	キク科のふわふわ種
21	8月23日	ラセイタタマアジサイ	38	12月20日	ムサシアブミの実
22	8月30日	ゲンノショウコの色違い	39	12月27日	クロマツ・アカマツ
23	9月6日	フジカンゾウのお化け	40	1月3日	赤い実の理由
24	9月13日	コムラサキの色づき	41	1月10日	冬芽観察
25	9月20日	オミナエシ・オトコエシの住人	42	1月17日	落葉しない落葉樹
26	9月27日	スズメウリの実	43	1月24日	暖冬の影響？
27	10月4日	マメ科のひつつき虫	44	1月31日	ノキシブの生涯
28	10月11日	ゴキツルの実	45	2月7日	短枝いろいろ
29	10月18日	カニクサの葉	46	2月14日	マユミの自己剪定
30	10月25日	ノコンギクとハマコンギク	47	2月21日	毒のある花たち
31	11月1日	オオバコの花	48	2月28日	モクレイシの訪花昆虫
32	11月8日	ウンシュウミカン	49	3月6日	ヤエムグラ
33	11月15日	イソギクの花	50	3月13日	シバヤナギの性転換？
34	11月22日	ほんとうのヒツジグサ	51	3月20日	カマクラヒバ
35	11月29日	ドングリの根っこ	52	3月27日	フッキソウの花の咲き方

IV. 植物多様性の教育・普及に関すること

1. エントランス展示

期間	題
4月 1日 ~ 5月 6日	芽生え
5月 7日 ~ 6月12日	小笠原のタネ
6月14日 ~ 8月 4日	多様性センターの無菌培養の取組
8月 5日 ~ 9月 1日	海辺の植物
9月 3日 ~ 10月 6日	標本って何だろう？、22世紀の森づくり・神代のあゆみ（22世紀の森づくり・神代と協働）
10月 8日 ~ 11月 3日	紅葉を学ぼう～奥多摩で見る秋の景色～（奥多摩ビジターセンターと協働）
11月 5日 ~ 12月 1日	タネのたび
12月 3日 ~ 1月 5日	打楽器であそぼう
1月 6日 ~ 2月 2日	植物が染める色彩(いろいろ) 木の色、実の色、草の色
2月 4日 ~ 3月 1日	東京都(本土)で活動している保全団体等のポスター発表
3月 3日 ~ 5月 6日	多様性センターを巡ろう

2. ガイドツアーの回数と参加者

誰もが参加でき、初心者と上級者に分けたツアーを（8月と1月を除く）週末に実施。毎回、旬な内容を取り入れているため、毎回参加しても楽しめるプログラムとなっている。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	7	6	8	7	0	7	5	8	6	0	4	0	58
参加人数	99	80	66	88	0	65	56	70	66	0	58	0	648

3. 学習園植栽植物

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
1	4	センニンソウ	管理	奥多摩正門側
2	4	カンアオイ	奥多摩	落葉広葉樹林
3	4	サイハイラン	奥多摩	落葉広葉樹林
4	4	テンダイウヤク	管理	フクジュソウ園
5	4	イヌマキ	管理	情報館前
6	4	ウラシマソウ	管理	旧球根エリア
7	4	オヤマボクチ	管理	西門前
8	4	シラカシ	管理	情報館前
9	4	キンラン	武蔵野	雑木林
10	4	チゴユリ	管理	奥多摩
11	5	マメヅタ	伊豆	伊豆極相林
12	5	ヒトツバ	伊豆	伊豆極相林
13	5	アオノクマタケラン	伊豆	伊豆極相林
14	5	ガクアジサイ	伊豆	伊豆極相林
15	5	コウボウムギ	伊豆	海岸砂地
16	5	ハマエノコロ	伊豆	海岸砂地
17	5	ヤナギイチゴ	伊豆	伊豆極相林
18	5	イヨカズラ	伊豆	海岸砂地
19	5	ハマサワヒヨドリ	伊豆	海岸岩地
20	5	シマノガリヤス	伊豆	火山性草地
21	5	テリハノブドウ	伊豆	伊豆極相林
22	5	シチトウエビヅル	伊豆	伊豆極相林
23	6	ヤマホオズキ	奥多摩	湿生林
24	6	イガホオズキ	奥多摩	湿生林
25	6	ハダカホオズキ	奥多摩	湿生林
26	6	ヤマジノホトトギス	管理	奥多摩
27	6	スズサイコ	奥多摩	湿生草地
28	6	ミヤコアザミ	奥多摩	湿生草地
29	6	フシグロセンノウ	管理	奥多摩
30	6	アケボノソウ	管理	奥多摩
31	6	ノササゲ	奥多摩	湿生草地
32	7	キンラン	武蔵野	雑木林
33	7	キンラン	管理	情報館前
34	7	ヤマホオズキ	奥多摩	湿生林
35	7	イガホオズキ	奥多摩	湿生林
36	7	ハダカホオズキ	奥多摩	湿生林

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
37	7	スズサイコ	奥多摩	湿生草地
38	7	タムラソウ	奥多摩	湿生草地
39	8	キツネノカミソリ	管理	奥多摩正門側
40	9	シラカシ	武蔵野	雑木林
41	9	アラカシ	武蔵野	雑木林
42	9	シロバナサクラタデ	武蔵野	池周り
43	9	アカバナ	武蔵野	池周り
44	9	タヌキマメ	武蔵野	池周り
45	9	ヒメジソ	武蔵野	池周り
46	9	オオニガナ	武蔵野	池周り
47	9	ミソハギ	武蔵野	池周り
48	9	ヒツジグサ	管理	屋外水槽
49	9	ヒメコウホネ	管理	屋外水槽
50	9	ヤマジノホトトギス	管理	奥多摩
51	12	カラムシ	奥多摩	湿生林
52	12	ニガクサ	管理	奥多摩
53	12	カントウヨメナ	管理	奥多摩
54	12	オオハナワラビ	管理	奥多摩
55	2	コナラ	武蔵野	雑木林
56	2	ジャケツイバラ	武蔵野	礫地
57	2	ムラサキシキブ	武蔵野	低木
58	2	エゴノキ	武蔵野	礫地
59	2	タマホノシザクラ	武蔵野	低木
60	3	ヒメウツギ	奥多摩	石灰岩地
61	3	ヒメウツギ	奥多摩	広葉樹林
62	3	ミヤコアザミ	奥多摩	石灰岩地
63	3	ミヤコアザミ	奥多摩	広葉樹林
64	3	タムラソウ	奥多摩	石灰岩地
65	3	タムラソウ	奥多摩	広葉樹林
66	3	オガルカヤ	管理	イネ科コーナー
67	3	アブラスキ	管理	イネ科コーナー
68	3	ヤマカモジグサ	管理	イネ科コーナー
69	3	ノガリヤス	管理	イネ科コーナー
70	3	ヤマジノホトトギス	管理	奥多摩
71	3	ウバユリ	管理	奥多摩
72	3	ヤマホオズキ	奥多摩	湿生林
73	3	イガホオズキ	奥多摩	湿生林

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
74	3	ハダカホオズキ	奥多摩	湿生林
75	3	トベラ	伊豆	海岸岩地
76	3	シマガマズミ	伊豆	海岸岩地
77	3	ガクアジサイ	伊豆	海岸岩地
78	3	カゼクサ	武蔵野	路傍
79	3	サワフタギ	管理	奥多摩借景
80	3	ミツバツツジ	管理	奥多摩借景
81	3	ミツバツツジ	奥多摩	落葉広葉樹林
82	3	ニリンソウ	管理	奥多摩借景
83	3	コバノミツバツツジ	管理	旧花木園
84	3	ハチジョウススキ	伊豆諸島	火山性草地
85	3	ハタザオ	武蔵野	礫地
86	3	オオムラサキシキブ	伊豆諸島	海岸岩地
87	3	シマホタルブクロ	伊豆諸島	海岸岩地
88	3	シシガシラ	管理	奥多摩

4. 植物多様性に関する講座

NO.	月	日	時間	題	講師	参加人数
1	4	21	13:30~15:30	～ガイドツアースペシャル～ 「虫媒花？風媒花？どちらが大好き？」	箱根 ゆみ子、上野 なつみ (植物多様性センター職員)	28
2	5	19	13:30~15:30	～ガイドツアースペシャル～ 「フィールドで新緑の葉っぱを見分けよう！」	箱根 ゆみ子、折笠 充洋 (植物多様性センター職員)	28
3	6	2	10:30~12:00	第11回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム	小田倉 正樹 (東京山草会 会長)	25
4	8	25	13:30~15:30	～スライドショーで楽しむ～残暑お見舞いガイドツアー	堀江 孝之、大川 裕美、箱根 ゆみ子、日比 也貴 (植物多様性センター職員)	31
5	9	22	13:00~16:00	～あなたのまちの緑地・雑木林に出張～ 「お出かけ植物調査&標本作成講座in22森」①	加藤 英寿 (首都大学東京牧野標本館) ボランティアの皆さん (22世紀の森づくり・神代)	13
6	9	29	13:30~15:30	～あなたのまちの緑地・雑木林に出張～ 「お出かけ植物調査&標本作成講座in22森」②	加藤 英寿 (首都大学東京牧野標本館) ボランティアの皆さん (22世紀の森づくり・神代)	13
7	10	19	13:30~15:30	～奥多摩の植物と生きものをみつめて～ 「奥多摩ビジターセンター長の自然観察日誌」	大野 真 (奥多摩ビジターセンター長)	32
8	11	10	13:30~15:30	専門講座「東京都レンジャーに学ぶ東京都の植物多様性」	井上 正隆 (東京都レンジャー(小笠原地区)) 片岡 利文 (東京都レンジャー(檜原地区))	32
9	12	1	10:00~12:00	専門講座「子ども樹木博士になろう！」	杉浦 克明 (日本大学生物資源科学部 森林資源科学科 准教授)	11
10	1	19	13:30~15:30	専門講座「ふしぎな地衣類の世界へ ようこそ！」	加藤 裕一 (サイエンスコミュニケーター 日本地衣学会会員)	17
合計						230

5. 植物多様性センター外部の展示

NO.	月日	参加人数	題	場所
1	4月3日～4月5日	1,020	島を渡った植物	小笠原諸島・父島 観光船「ぼしふいっくびいなす」、「にっぽん丸」向け
2	5月4日	142	種子散布を学ぶ「タネタネすくい」	神代植物公園芝生広場
3	7月26日～8月4日	-	植物多様性センターの紹介	上野パークスギャラリー
4	7月27日	-	植物多様性センターの紹介	代々木公園
5	8月3日～8月4日	460	種子散布を学ぶ「タネタネすくい」	調布駅周辺
6	8月25日	440	島を渡った植物	小笠原諸島・父島 観光船「にっぽん丸」向け
7	9月28日	252	「やってみよう！仕事体験！」	調布市立北ノ台小学校
8	10月19日～10月23日	-	植物多様性センターの紹介	日比谷公園
9	10月30日	366	島を渡った植物	小笠原諸島・父島 観光船「ぼしふいっくびいなす」向け
10	11月16日	81	「やってみよう！仕事体験！」	多摩川自然情報館
11	11月30日～12月1日	573	「やってみよう！仕事体験！」	深大寺
12	12月17日	358	島を渡った植物	小笠原諸島・父島 観光船「にっぽん丸」向け

6. 植物多様性センター外部の講座

NO.	月日	参加人数	題	場所
1	9月6日	70	「里山を調べよう」	桜ヶ丘公園
2	10月17日	16	「奥多摩むかし道で秋の植物観察会」	奥多摩ビジターセンター

7. 学習プログラム

NO.	月	団体名	人数	NO.	月	団体名	人数
1	4	調布市立北ノ台小学校	148	11	9	調布市立神代中学校	2
2	5	三鷹市大沢台小学校	60	12	9	調布市立緑ヶ丘小学校	70
3	5	日本大学生物資源科学部森林資源学科	15	13	9	千葉大学園芸学部	1
4	6	三鷹市第四中学校	2	14	9	東京都農業大学農学部	1
5	6	調布市北ノ台小学校	146	15	10	多摩職業能力開発センター	30
6	6	日本大学生物資源科学部森林資源学科	17	16	11	調布市立北ノ台小学校	71
7	7	日本大学生物資源科学部森林資源学科	17	17	12	調布市立北ノ台小学校	71
8	8	明星大学理工学部	2	18	1	調布市立北ノ台小学校	36
9	8	ECO-TOP都庁インターンシップ	16	19	2	調布市立北ノ台小学校	106
10	9	帝京科学大学学芸員	19	合計			830

V. その他

1. 過去3年間の来館者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29	2,669	2,705	2,239	1,877	1,686	2,212	1,683	2,212	1,615	2,349	2,744	2,855	26,846
H30	4,129	4,307	2,528	1,791	1,916	2,129	2,699	2,635	2,132	2,730	2,625	4,275	33,896
H31	4,572	4,087	2,354	2,160	1,933	2,280	1,971	2,391	1,950	2,665	3,991	3,498	33,852

コロナ禍における公園利用実態の変化と公園管理者の取組み

西武・狭山丘陵パートナーズ
西武・武蔵野パートナーズ
西武・多摩部の公園パートナーズ

清水 卓（西武造園株式会社所属）
磯脇 桃子（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）

I. はじめに

令和2年、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外出の自粛が要請される中、身近な開放空間を求めて多くの人々が公園に殺到した。公園管理の現場では、感染を防止するため遊具や駐車場の利用中止、イベントやボランティア活動の自粛など利用を制限する必要性に迫られた。一方で、人々の健康維持やリフレッシュの場として公園の価値や在り方が改めて見直され、コロナ禍でも安心して過ごせる公園づくりが求められた。

この報告では、東京都西部にある3グループの都立公園（狭山丘陵グループ※1、武蔵野の公園グループ※2、多摩部の公園グループ※3）における、コロナ禍の公園利用実態と感染拡大防止対策、利用者サービス、公園ボランティア活動についてご報告する。

II. コロナ禍の公園利用実態

令和2年2月末、政府は、新型コロナウイルス感染症対策の基本方針を固め、イベント等の自粛要請を発出した。この要請に伴い繁華街や観光地等への人出は減少し、密集、密閉、密接は緩和された。都立公園においても花見の自粛要請や人が滞留しやすい遊具や展示施設、駐車場等の利用制限を行った。しかし、下記の都立公園では来園者数が増加し、その後1年を通して、前年を上回る来園者数を記録した。以下3公園での利用者数や利用実態の変化について記載する。

1. 狭山公園（狭山丘陵グループ）

狭山公園は、東村山市と東大和市に位置しており、景勝地でもある多摩湖や自転車道に隣接している。大きな広場があり、雑木林や池、草地など武蔵野の里山の風景や自然が残り、花見の名所、マラソン、駅伝の場所としても親しまれている公園である。5月単月では昨年度比で約1.8倍の利用者数を記録し、1年を通して増加傾向となった。週末を中心に駐車場は満車の状態が続き、周辺道路が渋滞になることが頻発したため、新たな警備員の配置など対応に迫られた。渋滞による近隣住民の生活道路への影響が多かったため、狭山公園の駐車場は他公園よりも駐車場閉鎖の期間を長く設定せざるを得ない状況となった。

コロナ禍以前と比べ、散歩やジョギングやサイクリングなど、健康のための利用の増加が見受けられた。部活やサークル等の団体でジョギングを行うことが増え、一般利用との調整事案が増加した。

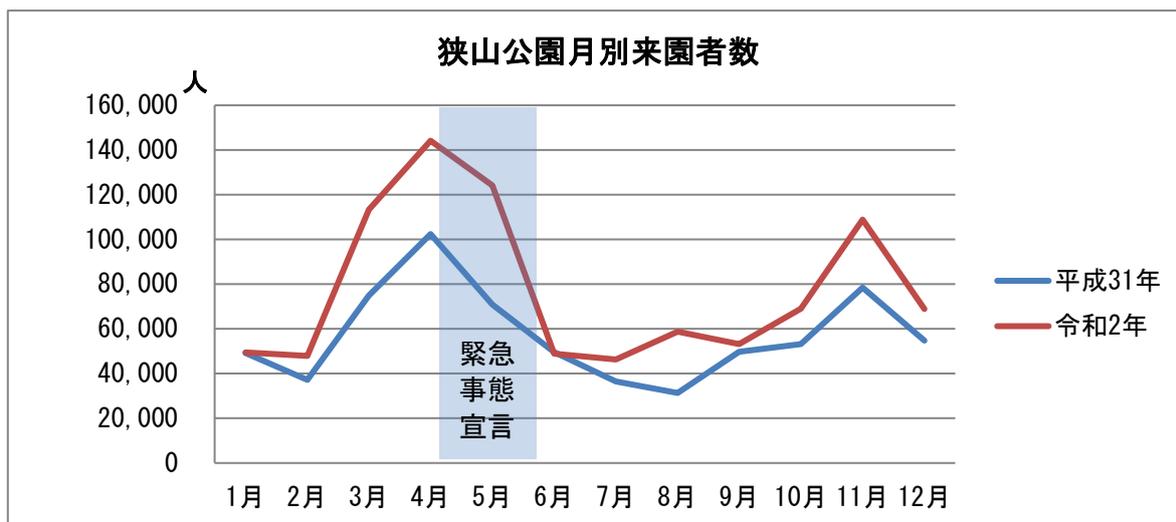


図1 狭山公園月別来園者数



写真1 公園駐車場満車による一般道の渋滞



写真2 渋滞を防ぐための待機車対応

2. 野川公園（武蔵野の公園グループ）

野川公園は、調布市、三鷹市、小金井市の3市にまたがり、豊かな自然と広大な芝地、遊具、バーベキュー場やテニスコート等の施設がある公園である。5月は、駐車場が閉鎖されていたにも関わらず、昨年度比で約1.5倍の来園者があった。さらに緊急事態宣言解除後の8月においては、昨年度比で約4倍の来園者数を記録。これは近隣公園の水遊び場が閉鎖となった結果、園内の木陰や湧き水広場に涼を求めた来園が増加したことが影響したものと考えられる。さらに、屋外でのレジャー需要の高まりから、バーベキューの需要も高まり、通常は閑散期になる冬でもバーベキュー場や駐車場の稼働率は高い状態であった。

また、野川公園を有する武蔵野の公園グループのホームページでは、緊急事態宣言発令を機にアクセス数が増加し、それに呼応して来園者数も増加している。安心して外出できる場所を探す中で、住宅近隣の公園にたどり着いたと推測される。

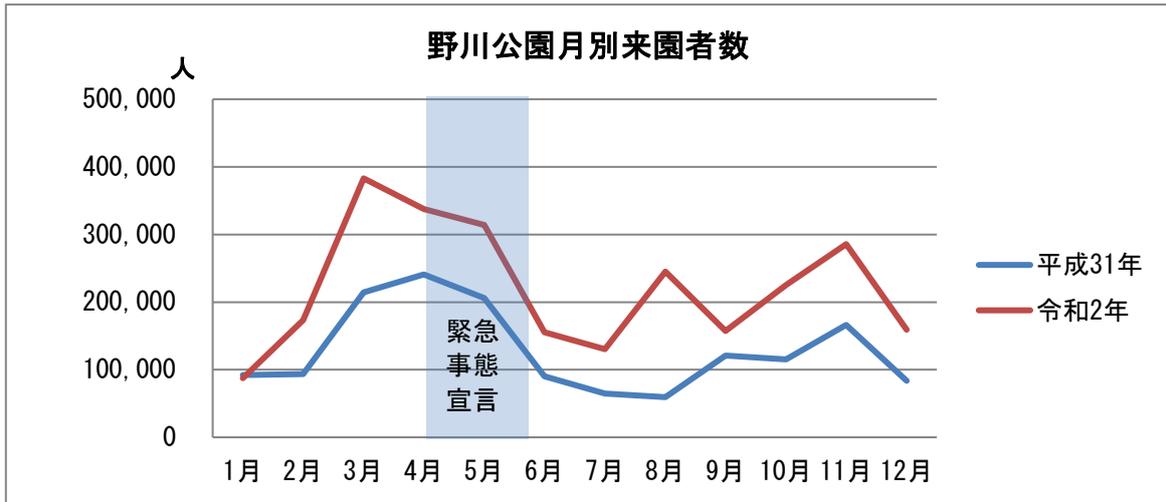


図2 野川公園月別来園者数

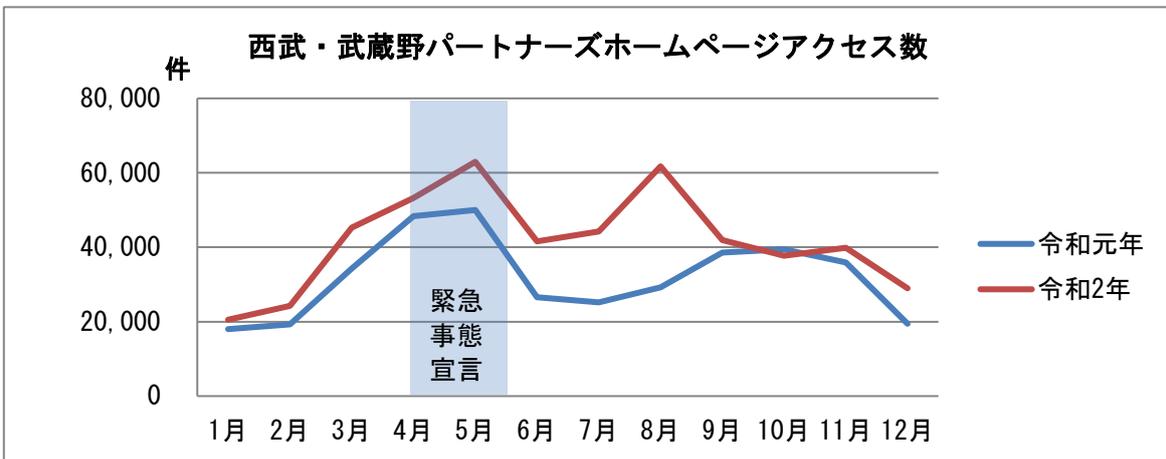


図3 西武・武蔵野パートナーズホームページアクセス数

3. 陵南公園（多摩部の公園グループ）

陵南公園は、八王子市に位置し、2面ある野球場と子供たちに人気のじゃぶじゃぶ池が特徴となっている公園である。通常は、近隣にお住まいの方や八王子市内から車で来園して散策する方、野球場利用者が多い傾向がある。そのため、駐車場や遊具、野球場、じゃぶじゃぶ池の施設が利用制限された3月以降、年間を通して来園者数が減少した。11月に大きく減少しているのは公園周辺一帯で毎年開催されている「いちようまつり」が内容を大幅に変更しての開催となったことが影響している。

この様に、陵南公園に於いては、施設利用目的の来園が見られるため、施設の利用休止や利用制限が来園者数に大きく影響した。

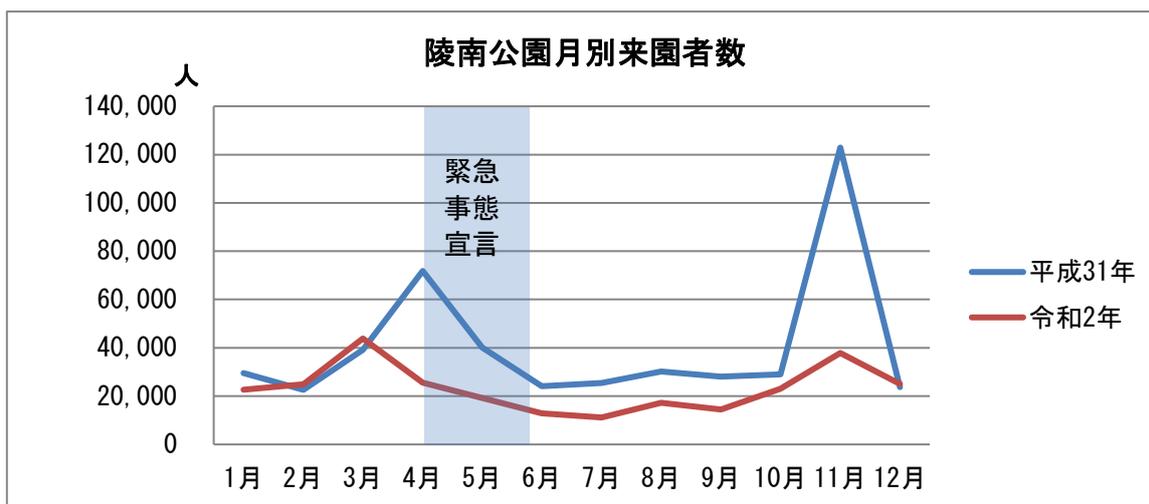


図 4 陵南公園月別来園者数

Ⅲ. 感染拡大防止対策

コロナ禍において来園者に安心して利用いただけるよう、また、公園がクラスターの発生場所とならないよう注意し、以下の取り組みを行った。

1. 施設利用休止の対応

令和2年の4月7日から5月25日まで、非常事態宣言発令に伴い各種施設の利用休止を行った。有料施設についてはすでに予約をしている方への連絡も行った。野川公園ではバーベキュー場で約200件、テニスコートで約1,400件の予約がすでに入っており、限られた時間内でスタッフが丁寧に事情を説明し、大きなトラブルが発生することなく利用休止に移行することができた。

また、施設利用休止期間を活かし、普段できないような施設の重点的な点検や補修、駐車場エリアなどの剪定を実施した。野川公園と武蔵野公園では野球場やテニスコート一帯の整備や遊具の点検・補修を実施した。通常では利用に支障が出る作業を利用休止期間中に行うことにより、来るべき利用再開に備えた。



写真 3 駐車場の閉鎖状況 (小宮公園・4月)



写真 4 利用休止中の施設整備 (野川公園・5月)

2. 来園者への周知方法

様々な利用上のお願いについては来園いただく方にわかりやすく説明をするように心がけた。特にマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保など、今までの公園利用案内では行わなかった呼びかけがあったため、看板やホームページを作成するにあたってはスタッフ間で協議を重ね、これまでの経験を踏まえた、グループ共通でのわかりやすい表示物の作成に取り組んだ。そのために各グループの担当者が集まり、公園で想定される問題、それに対する呼びかけの方法を協議し、わかりやすいデザインの看板やホームページ案内を作成し、周知に努めた。



写真5 園内掲示板での周知 (小宮公園・4月)



図5 3グループ共通の利用案内

3. 安心して公園を利用していただくための物品の準備

アルコールによる消毒やマスクの準備など、各種資材を準備して安心して利用いただける環境づくりにも力を入れた。一方で令和2年春は洗剤やマスクは品薄となり入手困難な状況となったが、指定管理者のネットワークを活かし、必要最低限の資材の確保することができた。

- ・サービスセンター接客窓口には飛沫防止用シールドを設置、事務所入り口へのインターフォン設置
- ・トイレ、手洗いへの液体手洗い用洗剤の設置
- ・入口カウンターなどの清掃、消毒
- ・パンフレット等をQRコードでも紹介
- ・東京都 感染防止徹底宣言の掲示



写真6 飛沫防止用シールドの活用 (野川公園)



写真7 感染防止徹底宣言の掲示 (小宮公園)

4. 管理事務所内の対応

私たちスタッフが働く環境についても感染症拡大防止の取り組みを推進した。管理事務所内の机の間に透明な隔離版を設置し、出勤時の検温をする、換気を適宜行う、web を活用した会議や研修の実施、共用物の清掃や消毒、時差出勤、在宅勤務を推進。スタッフ間の接触機会を低減し、感染防止に努めた。特に細心の配慮をしたのはスタッフ自身が感染者とならないようにすることと、スタッフの出勤停止が重なり公園の機能が停止することを避けることであった。

また、新型コロナウイルス罹患者が嘔吐した場合を想定し、感染防止キットの使用方法の確認と練習を行った。この資材についてはマスクや洗剤と同様に品薄になることも想定されたため、ゴミ袋を活用して簡易防護服の作成練習を行い、代替品でも使用できる体制を整えた。

さらに、発熱者や濃厚接触者が出た場合の対応マニュアルも独自に整備した。実際に公園スタッフが保健所により濃厚接触者と判定されたケースもあったが、対応フローに従い関係機関への報告、出勤停止等の措置を迅速に取ることができた。結果的に感染者は発生せず、公園の管理運営機能も停止することはなかったため、適切な対応が取れたと考えている。



写真8 体調不良者対応手順の確認（陵南公園）



写真9 対応用資材の準備

IV. コロナ禍における利用者サービス

コロナ禍において身近な開放空間である都市公園へのニーズは質量ともに高まっていった。こうした都民ニーズに応えていくために感染拡大を防止しつつ、さまざまな形式の利用者サービスを開発し、展開した。

1. 徹底的な感染対策を施したイベントの実施
2. オンラインによるイベントプログラムの開催
3. アフターコロナ時代を視野に入れた非接触型のプログラムの開発と実施

1. 徹底的な感染対策を施したイベントの実施

感染者数が落ち着いた時期を見計らって公園をフィールドにしたイベントを実施した。

(1) 地域連携によるナイトイベントの開催（狭山公園）

感染状況や東京都の方針を踏まえ、11月に東村山市内の団体等と連携した「さとやまナイトフェスティバル」を実施した。感染防止対策として、定員50組（150人）に限定し、オンライン予約・チケットレス化を導入。ソーシャルディスタンスを確保するため、イベントエリアを囲い、参加者が座る区画を設定。オンラインアンケートを導入した他、参加できない人向けにYouTube Live配信を実施するなど、感染防止に配慮したイベント運営に努めた。コンセプトは、「おそとでステイホーム」。イルミネーション装飾で非日常空間を演出。地元ミュージシャンによるミュージックライブ、地元飲食店のドリンクやスイーツ販売など行った。

参加申し込みは2日で満員御礼になるなどニーズが高く、当日の参加者は125人、動画の閲覧数は326件（うち当日のアクセス数は200件）となった。参加者の評価も高く、また開催して欲しいとの声も多くみられた。今後も、新たな生活様式に対応した地域色豊かなイベントを実現し、狭山丘陵や公園の魅力向上に繋げていきたい。



図6 「さとやまナイトフェスティバル」ポスター



写真10 会場の様子



写真11 感染対策のため設置した入退場ゲート



写真12 光るラインで区画を明確化したソーシャルディスタンス対策

(2) コロナ禍でも安心！親子向け体験プログラム「あそブンの森」の実施（武蔵国分寺公園）

親子で思いっきり遊びたい。そんな声の高まりを受け、「あそブンの森」を開催した。「あそブンの森」は、認定 NPO 法人冒険遊び場の会との共催で年 4 回、開催をしている人気のプログラムである。密を避けるため会場を広く取り、園内を自由に歩き回りながら落ち葉を集めてリースを作り、特設コーナーで写真撮影を行う「公園のはっぱでクリスマスのようにせいに大変身！」として 12 月に実施した。

当日は、パークレンジャーが制作したおすすめの落ち葉スポット地図を配布し、園内に植物の解説看板を設置することで自然の楽しみ方を提案した。参加者からは、広い園内で密にならずに安心して楽しめたことへの感謝の声を多数いただいた。アンケートではスタッフ対応の満足度が 100%となり、参加者数は前年度を超える 291 名となった。パークコーディネーターの企画力と地元の NPO のノウハウを活かし、コロナ禍でも親子が安心して参加できるクリスマスプログラムを実現したことで、子育て世代の新たなニーズに応えることができた。



写真 13 参加者に配布した落ち葉スポット地図



写真 14 プログラム解説看板



写真 15 感染対策を徹底した受付



写真 16 撮影スポットは利用毎にスタッフが消毒



写真 17 撮影スポットで楽しむ親子



写真 18 落ち葉のクリスマスリース

(3) コロナに負けない体づくりを目指すスポーツイベントの開催！（武蔵野公園）

感染防止策を徹底して、様々な運動を体験できるスポーツイベント、「のびのび★チャレンジキャラバン」を開催した。飛沫が飛びにくく、備品共用も少ない、感染リスクの低いプログラムを厳選した。また、通常よりも各教室の定員数を抑え、参加方法を事前申込制にしたことで、十分なソーシャルディスタンス確保した。

当日はスポーツ健康チェックシート(利用記名票)、検温、手指消毒、使用備品の消毒を徹底して、万全の対策を施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、屋外でのびのびとスポーツを楽しむ機会が減少する中で、健康づくりに取り組む機会を提供できた。コロナ禍で外出機会が減り、運動不足とストレスの蓄積が懸念される社会状況を考え、屋外、屋内どちらでも楽しく運動を行えるプログラムを複数紹介。親子で楽しみながら健康づくりに取り組んでもらうきっかけとすることができた。



図7「のびのび★チャレンジキャラバン」のチラシ 写真19 感染防止策を徹底した受付



写真20 エアロケット投げ



写真21 目を閉じてリングを狙う「アキュラシー」



写真22 大縄チャレンジ



写真23 親子で簡単にできる運動遊び

2. オンラインによるイベントプログラムの開催

感染拡大を防止しつつ、公園に対する社会的なニーズに応じていくために、オンラインツール、SNSなどを利用し、イベントや公園の自然紹介、キャンペーンなどを実施した。

(1) オンラインツールを利用した地域ミーティングの開催（武蔵国分寺公園）

コロナ禍により、これまで地域社会で行われていた様々なイベントが中止に追い込まれた。「地域のために何かをしたい！」そのような地域社会の声を受け、公園が主体となり、地域を元気にするためのオンライン会議「がんばろう国分寺！with コロナミーティング」を開催した。パークコーディネーターがこれまでに育ててきた地域のネットワークを活かし、呼び掛けを行ったところ、自治体や市民団体、事業者、農業者など多様な参加者が集まってくれた。

この会議の中で、公園がまちの魅力や情報を発信する掲示企画「武蔵国分寺公園のまわりには魅力がいっぱい！」が発案され、国分寺市や市民とのコラボで事業がスタートした。さらにこのオンラインコミュニケーションから発展した企画が発案され、地域に広がっていった。今後も引き続き地域の方々の意見を集め、地域の「あったらいいな」を実現していきたい。

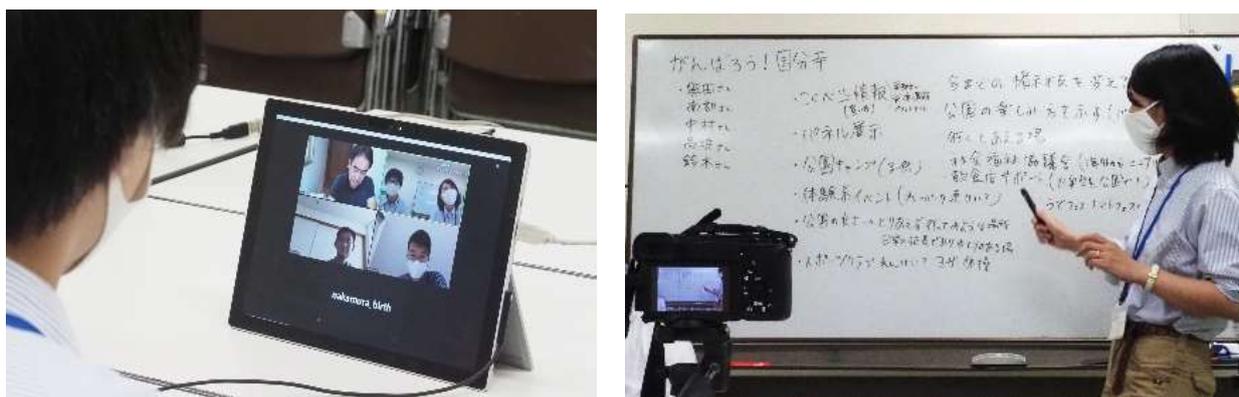


写真 24, 25 「がんばろう国分寺！with コロナミーティング」オンライン会議の様子（武蔵国分寺公園）



図 8, 9, 10

例年開催していた企画は、online 開催や会場やコンテンツを分散して開催するなど変更して実施

(2) オンラインによるフォーラムの開催（武蔵野の公園グループ）

武蔵野の公園グループに隣接する国分寺崖線沿いの緑地所有者や管理者が一堂に会し、今後の崖線の保全と活用を考える「はけの自然とくらしのオンラインフォーラム」を初開催した。都内を中心に緑のプラットフォーム事業を展開する NPO 法人 Green Connection TOKYO、国分寺崖線に広い市民ネットワークを有する NPO 法人グリーンネックレスの 2 者と共催し、産官学民の多様な主体に参加を呼び掛けた。その結果、東京都や国分寺崖線が位置する 5 市、大学、企業、NPO など 20 団体の参加が実現。

国分寺崖線の都としての位置づけ、歴史・文化、生物多様性、活用事例の 4 テーマについて専門家から話題提供いただき、グループに分かれてディスカッションを行った。フォーラム終了後のアンケートでは、「これだけの規模でお話を聞く機会がなかったため、他の団体の状況が聞けて良かった」「企業、大学、自治体でそれぞれ立場は違っても連携を望んでいることがよくわかりました」などの声があがり、参加者全員が、本フォーラムが連携のきっかけになると思うと回答した。オンラインフォーラムの開催により、コロナ禍においても国分寺崖線の保全と活用を協働で進めるための新たな連携のスタートを切ることができた。今後は、社会情勢を踏まえながら継続的な交流の機会を検討していく。



図 11 参加者所在地一覧



図 12 崖線トーク：生物多様性プレゼン資料



図 13 ディスカッション前の話題提供資料



写真 26 機材専門スタッフを配置した本部会場

(3) YouTube による自然解説や公園マナーアップキャンペーンの展開（全公園グループ）

公園に行かなくても公園の自然を満喫できるブログや動画配信を拡充した。特に、パークレンジャーによる情報発信は、自然紹介や公園における自然観察の方法、保全の取り組み、マナー周知など、多様な視点を踏まえて動画配信した。また、現地でのプログラムを中止せざるを得なかった企画は、可能な限り動画配信に切り替えた。その結果、コロナ禍における公園での楽しみ方や魅力を多くの方に知っていただくことができ、新規の来園者や公園ファンの獲得につなげることができた。



図 14, 15 パークレンジャーによる生きもの観察動画



図 16, 17 公園における湿地保全や外来種防除等の取り組み紹介動画



図 18, 19 自転車マナーや犬のお散歩マナーの啓発動画やサイト



図 20, 21 年間登録で公園の自然について学び活動する「狭山公園キッズレンジャー」の動画

(4) オンラインによる総合学習の取り組み（狭山公園）

例年、地元小学校の総合学習の受け入れを行い、現地でパークレンジャーや自然環境マネジメントスタッフが公園の自然について解説を行っていた。5月に緊急事態宣言が解除された後、「コロナ禍だからこそ、子供たちに地元の自然について学んでもらいたい」と学校側からの要望を受け、オンライン開催による受け入れが実現した。前年から子供たちと活動していた成果は、事前にスタッフが動画を撮影し、子供たちが視聴することで成果を共有。その後、質疑や意見交換をオンラインで実施し、コロナ禍においても、地元の子供たちに地域の自然や公園の魅力について伝えることができた。



図 22 動画配信による取組紹介



写真 27 オンラインで公園スタッフと意見交換を行う子供たち

3. アフターコロナ時代を視野に入れた非接触型のプログラムの発案と実施

公園をフィールドにしたオフラインイベント、インターネットを利用したオンラインイベントに加え、アフターコロナ時代を視野に入れたオンオフを組み合わせたハイブリット型のイベントが発案し、実施した。

(1) 3密を防ぐための公園利用の提案

常設展示場がある公園では、はく製など展示物の配置を工夫し、安全に展示を楽しめる空間づくりを行った。ソーシャルディスタンスを無理なく実現できるよう休憩スペースには動物のイラストパネルを設置し、また、芝生広場では2m間隔で円形の草刈りを実施した。

来園者がそれぞれのペースで公園を楽しめるセルフガイドやクイズラリーなどを設置し、また、コロナ禍における公園での過ごし方を提案する記事を公園のオリジナルフリーペーパー「MUSASHINO PARK LIFE MAGAZINE」に掲載した。

こうした取り組みにより、コロナ禍の公園利用はもちろん、アフターコロナにおける新しい公園利用やマナーの提案も行うことができた。



写真 28, 29 館内の出入口は、一方通行に変更（小宮公園）



写真 30, 31 触らずに楽しめる展示の工夫（野川公園、小宮公園）



写真 32 フォトスポットにもなるソーシャルディスタンスパネル（野山北・六道山公園）



図 23 直径 2 m 円状に草刈りを行った広場（野山北・六道山公園）



写真 33, 34 セルフガイドシート「ビンゴゲーム、ミニミニフィールドノート」（小宮公園）

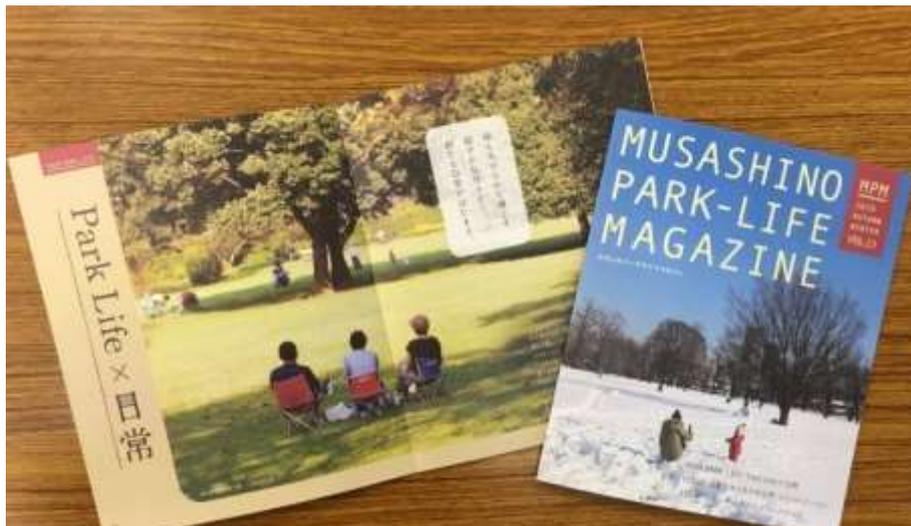


写真 35 「MUSASHINO PARK LIFE MAGAZINE 13号」では公園での過ごし方を提案（武蔵野の公園グループ）

(2) コロナ禍限定、夏休みイベント！「いきもの??（なぜなぜ）ウィーク」の開催（多摩部の公園グループ）

例年は、小宮公園雑木林ホールで開催していた夏休みの小学生向けイベントだが、感染対策を考慮し、公園の生き物について質問をするとパークレンジャーがそれについて回答する方法で実施。ポスター掲示は多摩部の4公園の他、各市民センター、各小学校、幼稚園などにも御協力いただいた。質問方法は公園での投書、Web、メールの三つの方法から選べ、計67件の質問があった。回答は、公園での掲示とHP等によって行い、一部は動画での解説も実施した。気軽に公園の自然や生きものに関する質問ができ、パークレンジャーとコミュニケーションが取れるため、子供たちからは非常に好評だった。



図 24, 25 「いきもの??（なぜなぜ）ウィーク」ポスター

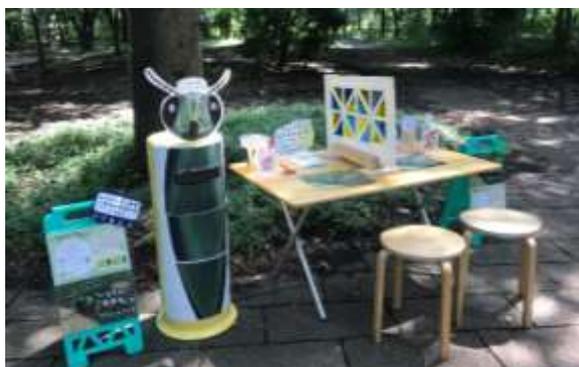


写真 36 屋外に設置した質問受付コーナー



写真 37 回答コーナーの様子



図 26 公園ブログによる回答



図 27 動画による回答

(3) 里山の風景を楽しむフォトスポットが誕生（野山北・六道山公園）

岸田んぼでの稲作や各イベントが中止となったため、新たな公園の楽しみ方の提供として「KISHITANBO フォトスポット 2020」を実施。里山の風景を綺麗に撮影できる計6ヶ所にフォトスタンドを設置した他、撮影をより楽しんでいただくために、フォトグッズ（鍬を模した形や吹き出し型の手持ち看板等）の貸し出しも行った（下記写真参考）。

さらに、同期間に合わせてフォトコンテストも実施。岸田んぼ、里山民家周辺の写真を募り、入賞者には公園内で収穫したみかんや竹細工などをプレゼントした。家族連れや公園ボランティアから応募があり、入賞者からは「小学生の作品でしたので、皆で大喜びしています。」とのコメントもあった。撮影を楽しむことでリフレッシュし、田んぼや民家の風景に親しみを深めてもらうことができた。また、生き物観察や作業体験だけではない、新たなニーズに応えることができた。



図 28 「KISHITANBO フォトスポット 2020」のチラシ 写真 38 撮影された写真



写真 39, 40 エリア内に5か所のフォトスタンドを設置し、自由に撮影を楽しむ様子

IV. コロナ禍におけるボランティア活動

私たちが管理する各公園のボランティア活動は、規模や形態など様々だが、感染拡大の状況にあわせ、令和2年2月頃には活動を自粛、翌月3月には活動は中止。その後、緊急事態宣言中は、できる限り少人数で、必要最低限の維持管理にかかわる活動（花壇の水やりなど）を実施。その間、協働に関わるスタッフで、安全安心なボランティア活動の在り方を検討し、各公園の実情に沿った形でスムーズな活動再開となるよう仕組みづくりを行った。現在は、この仕組みを土台に感染状況や公園の実情にあわせた「コロナ禍におけるボランティア活動の体制」を構築している。

1. ボランティア活動の心得 10か条

公園・緑地におけるボランティア活動で気を付けるべきコロナ対策をわかりやすくまとめた「ボランティア活動の心得 10か条」を作成。公園管理者として、ボランティア活動に参加する際をお願いしたい感染症対策を明確に提示した。

公園で活動するボランティアや市民団体など、関係者に配布した。また、啓発ポスターとして、ボランティアルームなど活動時に目につく場所へ掲示し周知徹底した。

活動する際のコロナ対策において、統一の考え方をわかりやすく周知できたことで、安全安心な環境とスムーズな活動再開につなげることができた。



図 29 全グループ共通で作成した「ボランティア活動の心得 10か条」

2. チェックリストの作成

参加時の体調管理（検温）、消毒のほか、チェックリストを作成。体調確認ほか、渡航歴、近接者の感染有無、万が一感染が発覚した際の連絡などにチェックをいれる。感染防止策の意識向上のほか、万が一の際に役立つ情報となる。

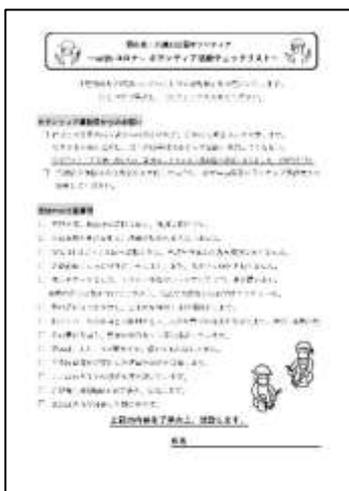


図 30 チェックリスト



写真 41 活動受付の設置（野山北・六道山公園）

3. 新たな活動の仕組みづくり（野山北・六道山公園）

コロナ禍により、通常のボランティア活動の仕組みでは、実施が難しくなったため、感染状況に合わせた臨機応変な活動が求められた。野山北・六道山公園ボランティアは、年間登録者 400 名以上、年間のべ参加人数 5,000 名となる活動グループである。通常は、水田や雑木林、畑、草地の保全活動の他、わら細工や竹細工などの伝統農芸など 15 種類以上の活動を多様な人数規模で行っている。そのため、少人数で安全に活動できる仕組みを新たにつくり、ボランティアに周知する必要があった。そこで、活動日や人数規模などを制限した新しい参加の仕組みをわかりやすくイメージできるように、参加方法や参加時のコロナ対策について動画配信を行った。



図 31 受付の方法や感染症対策について説明



図 32 草刈り鎌など基本的な道具の取り扱いを説明



図 33 活動終了後の道具の手入れや報告書提出について説明

V. 終わりに

新型コロナウイルス感染症の広まりを契機に公園への来園者数が増加したことを通じて、私たちは公園に寄せられる様々な思いや期待を改めて感じた。また、公園の大切さを再認識いただいたことはうれしくもあった。一方で、同時にコロナ禍においても安心して利用いただけるよう取り組みをしっかりと行っていく必要性を痛感した。私たちは今まで培ってきた経験と、今回の対応で得たノウハウを活かし、さらに多くの方に安心して公園を利用いただけるように取り組んでいきたい。

(※1) 狭山丘陵グループ

狭山公園、八国山緑地、東大和公園、野山北・六道山公園、中藤公園の計5公園を有するグループ。指定管理者である「西武・狭山丘陵パートナーズ」は、平成18年度より管理運営を開始。構成団体は西武造園株式会社、特定非営利活動法人NPO birth、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人地域自然情報ネットワーク、一般社団法人防災教育普及協会。

(※2) 武蔵野の公園グループ

野川公園、武蔵野公園、浅間山公園、武蔵国分寺公園、六仙公園、東伏見公園、玉川上水緑道、狭山・境緑道の計6公園、2緑道を有するグループ。指定管理者である「西武・武蔵野パートナーズ」は、平成23年度より管理運営を開始。構成団体は西武造園株式会社、特定非営利活動法人NPO birth、ミズノスポーツサービス株式会社、一般社団法人防災教育普及協会。

(※3) 多摩部の公園グループ

陵南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地の計4公園を有するグループ。指定管理者である「西武・多摩部の公園パートナーズ」は、平成28年度より管理運営を開始。構成団体は西武造園株式会社、特定非営利活動法人NPO birth、西武緑化管理株式会社、一般社団法人防災教育普及協会。

平成31年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

館長 高橋 将

I. はじめに

平成31年度は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、大会)が翌年開催予定であり、夢の島公園(以下、公園)もアーチェリー競技場として、公園整備が進められた。

春には、芝生地として利用されていた円形多目的コロシアム跡に整備されたアーチェリー場(予選会場)のオープニング式典が行われ、夏には東京都オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下、組織委員会)によるプレ競技イベントがあった。

各国の選手は1年後に向けた本番さながらの競技を行っていた。また、公園改修工事の他、年末からは本格的に決勝会場の工事やセキュリティーエリア設置が開始された。大会組織委員会の整備工事により公園内は刻々と変化し、工事定例会や打合せの情報提供を統括責任者から共同体各社へ共有し、連携と各業務の権限・責任の明確化を図った。さらに、巡回による園内状況把握を行い、利用者動線など今まで以上に利用者の安心安全の確保に努めた。



写真1 夢の島公園と夢の島熱帯植物館



写真2 夏花大花壇 アーチェリーの的をモチーフにデザイン

そのような中、公園では、限られた広場を利用して、みどりに触れ学習する「森の学校」では江戸東京野菜を取り上げ、また夏花植付イベントを地域連携、企業連携で実施。更にパラスポーツのブラインドサッカー体験など、「スポーツ」「夏」「東京」をキーワードに、多くの方々に会場となる夢の島公園の認知向上と大会の機運醸成活動を実施した。

夢の島熱帯植物館(以下、植物館)では、公園工事により公園利用者の流動入館が見込めないため、地域や学校、企業との連携を強化し、取材の受入れやイベント広報を充実させ、夏は夜間開館で多くの方に楽しんで頂いた。さらに、誰もが利用しやすい施設として、障害者にも五感で植物を楽しめるプログラムを用意した他、ボランティア会の協力で視覚障害の受入れも



写真3 夢の島熱帯植物館とおぼけカボチャ

実施した。公式アプリはリニューアルを行い、英語機能も取り入れるなど、新しい取り組みも開始した。植物館内では、季節に合わせたイベントや企画展も充実させ、新たにエチオピア大使館のご協力を頂いた企画展やコーヒーセレモニーの開催、(株)明治のショコラアドバイザーによるチョコレート実演など、海外や企業との連携も深まり、利用者に植物館を通して多くの体験を提供できた。

年が明けると新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延し、イベントやガイド、一部施設の利用、団体利用の受入れなどを停止し、利用者に周知するなど対策を講じた。

II. 夢の島公園

1. 平成31年度の入園者数と工事の影響

公園は大会会場予定地の為、昨年度に引き続き園内整備工事が多く行われた。公園の集客エリアであったBBQ広場・コロシウム(アーチェリー場)・競技場が年間を通して利用休止となり、一般利用者は春・秋の運動会利用、コロシウムでのファミリー利



表1 過去3年間の比較



写真4 公園内を行き交う作業車両

年度当初より、7月のプレ競技イベントに向けた整備工事があり、12月からは本格的に大会決勝ラウンドの整備、セキュリティアリアの設置など大型車両の園路通行も頻繁となった。建設局の工事でも前年度より引き続き橋梁工事や護岸工事、護岸工事終了後はBBQ広場を含む園地改修工事と公園内は部分閉鎖が続いた。さらに、隣接する都道の拡幅工事も開始され、各施設の休止、園路や緑地などの団体利用や占有撮影は安全管理上困難となった。我々は公園管理者として、毎月工事定例会議に出席し、また、年明けからは組織委員会の安全協議会にも出席し、

園内整備状況を確認して、職員間の情報の共有を図った。

来園者数は、表1に示すように、前年度の園内工事延伸時期の4・5月の他、12月以降は組織委員会の整備工事や公園年度末工事が開始。2月以降は公園駐車場も閉鎖となり、来園者は25万人弱と工事が本格化する前の平成29年より10万人減少した。



写真5 組織委員会安全協議会

2. 公園維持管理と気象災害対応

公園は、園地改修工事など竣工した個所は、多くの施設が綺麗で利用しやすくなった。但し、夢の島地区は、ゴミ埋立ての歴史



写真6 台風災害

があり、未だに不等沈下が確認される。沈下によって生まれた園路際の段差は、丸太土留めを設置し、美観を保ちつつ機能改善を図った。同じく沈下によって起こる埋設管の漏水などを調査し、発見後は速やかな処理を行い、安全・安心な施設利用に努めた。さらに、平成31年度は、秋に2度の台風被害があった。公園工事が各所で進み、樹林地の環境が大きく変化した影響もあってか、倒木や施設被害、隣接する道路への被害も発生した。気象災害では、夜半より作業体制を整え、夜半の倒木発生直後より処理

作業を実施。特に道路や電線への倒木被害は、交通規制を行い交通災害・第三者災害を抑えることができた。尚、事前に駐車場ゲートバーなど、倒木の懸念が大きいユーカリを対象に、樹木診断を実施した。診断結果をもとに、対象の樹林地で樹冠低減剪定作業を実施し、作業をした個所は、台風による被害は無く、樹林地の景観を損ねることなく、事前対応で効果を出すことが出来た。



写真7 樹冠低減剪定作業

3. 公園利用促進事業

限られた広場で来園促進事業を行った。先に記した通り、公園は大会のアーチェリー会場となっており、大会の機運醸成事業として、「スポーツ」「夏」「東京」をキーワードとした事業を紹介する。ま



写真8・9 アーチェリー体験

ず、「スポーツ」では、子供向けのアーチェリー体験を実施。これは、隣接する江東区陸上競技場と連携した昨年度からの事業だが、当日は冷たい雨の降るあいにくの天気となった。中止を検討したが、組織委員会に

了承を得て、大会の予選会場であるアーチェリー場内で実施することができた。児童用ではあるが、大人も楽しめ、アーチェリーとはどのような競技なのかを体験することで興味を持っていただく機会を設けることができた。また、新たな取り組みとして、「ブラインドサッカー体験」を実施。世界で活躍する選手が講師となり、参加者はアイマスクを着用。手をたたく音だけでパスやドリブルを行い、参加者は四苦八苦しながらも楽しみながらパラスポーツの理解を深めるイベントとなった。さらに、参加した子供達に、講師自らの体験談を踏まえ、試合の観戦中の注意点や、目の不自由な方への手助けや声を掛けなどの教わる時間を提供できた。



写真 10 ブラインドサッカー

加藤健人選手



写真 11・12 夏花植付イベント



続いて、「夏」。競技大会の開催時期である夏に特化し、夏に強い花を植える協働イベントを実施し、会場の一つとなる公園を花で彩る機運醸成活動を夏花プロジェクトとして実施した。



写真 13・14 夏花勉強会



参加者は、地域の方や花壇ボランティアの他、当館も参加している江東社会貢献ネットワーク（こらぼら）の企業・団体の方々に声を掛け、多くの方々に花壇作成に参加して頂いた。花壇は、アーチェリーの的を模し、植付け

イベントは、平日と休日に分け5回開催。イベント当日は職員による苗の植え付け方法をレクチャーして会場となる公園を彩る作業を行った。（写真 2：夏花花壇）さらに、プロジェクト実行委員会として行政や設計会社、造園企業向けに夏花の生育状況の調査や使用品種の紹介、プランターの紹介などの勉強会を開催し、多くの方に夏花を通して公園を知って頂く機会を設けることが出来た。



写真 15・16 江戸東京・伝統野菜研究会指導のもと植付（10月）

そして、「東京」では東京にフォーカスした「東京を知る」「江戸東京野菜を知る」と題したプログラムを植え付けと収穫の2回に分けて提供した。講師は、農林水産省のアドバザー派遣事業を活用し、江戸東京・伝統野菜研究会の先生をお招きした。10月の植付では、保護者向けに当日植付ける「江戸東京野菜」（亀戸大根・伝統小松菜・品川長かぶ・しんとり菜）などの物語をレクチャー、お子様向けには江戸東京・伝統野菜研究会の講師から実物を見ながら「伝統野菜」の違いの説明し、畑に移り播種を体験するとともに、すでに植え付けてあった金町コカブや伝統小松菜の収穫を行った。12月の収穫では10月に植え付けた江戸東京野菜（亀戸大根・砂村三寸人参・三河島菜・練馬大根・品川蕪などの）

と青森に伝わる「品川汁」を江戸東京野菜コンシェルジュに調理指導をいただき、皆で試食を行った。農業に触れる機会の少ない都内及び周辺住民のお子様たちに、私たちの住む東京に伝わる「伝統野菜」を歴史



写真 17・18 収穫と品川汁を皆で試食（12月）

と栽培体験で知って頂き、東京について知識を深め、自らの手により播種から収穫までを体験した。植物という側面から東京の魅力を伝え、「食育」「植育」を実現することができた。

その他、都心で緑に触れ学習する「森の学校」を継続。「自然薯収穫体験」では、公園利用制限などの期間や利用可能場所を組織委員会と打合せ、11月の収穫まで使用箇所を管理運営できることを確認

した。収穫体験では、天候にも恵まれ、中には親子3世代で公園を楽しむ姿が見受けられた。さらに、公園で採取した材料を利用したクラフトや前年度のオータムフェスタでのイベント



写真 19 森の学校

写真 20 自然薯収穫体験

「種団子づくり」で播種した花壇での花摘みイベントは、職員がラッピングして楽しい思い出と一緒に持ち帰って頂くなど、公園でのご家族の楽しい思い出を創出できた。



写真 21 クラフト体験

写真 22 花摘みイベント

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1. 平成31年度の入館者数

植物館入館者数について報告する。表2は、過去3年間の入館者数の推移で、公園利用者数と同様に公園工事が本格化した平成30年度から公園利用者の流動入館が見込めないため、入館者数も減少傾向となっている。それでも、地域連携や学校連携、企業連携を強化。また取材の受入れやイベント広報を充実させ、夏の夜間開館では、昨年を上回る来館者数となった。さらに、季節に合わせたイベントや企画展も充実させ、新たにエチオピア大使館のご協力も頂き、多くの方に楽しんで頂いた。ただし、公園工事の他、台風などの気象災害や新型コロナウイルス感染拡大処置などもあり、入館者数前年比約97.7%となった。



表2 過去3年間の入館者数の推移

続いて、入館者数について詳しく記載する。4・5月は、公園の入園者同様に、公園の前年度末の工事延伸で工期が伸び、公園利用とともに入館いただく傾向のあった幼稚園や学校関係の入館が大幅に減少した。更に、今年度のGW期間は10日間と大型連休で長期間開館し続けたが、遠出をする方が多かったのか、前年より1000人程度の減少となった。工事がひと段落した6月以降は、来館促進イベントや公園イベントの効果もあり前年度を上回る入館者数を推移し、特に夜の大温室開放（夜間開館）は、大幅に増員し昨年度の1.8倍と人気イベントとなっている。

9・10月は、大型台風で公園内・植物館内でも多くの被害があった。特に10月の台風19号では、3連休の初日が臨時休館となった。翌日は植物館最大のイベントであるオータムフェスタが控えていたが、被害復旧のため半日の開館となった。翌日も冷たい雨が降る中での開催で、天候に恵まれなかった3日間で2300人の減となった。その他の日では増加傾向であったため、気象災害の影響が数値に現れている。ただし、オータムフェスタは、開館時間が半日でも開館前には門の前で多くの人が並んでおり、楽しみに来られた姿が見受けられた。年が明けると公園内は本格的な大会準備となった。工事や組織委員会の占用により、公園の駐車場利用ができない期間が発生し、2月より南側駐車場は大型バスの乗り入れが不可となり、大型バスでの小学生、幼稚園バスなどの団体利用を控えざるを得なくなり、有料入館者数は、前年比約103.7%と微増したものの、団体予約を取りやめた結果、無料入館者数前年比約88.8%と減少となった。



写真23 夜間開館

新型コロナウイルスにより、2月中旬以降はイベントも中止し



写真24 気象災害状況

た。それでも「開いていますか」というお問合せは幅広い年代層の方より多くいただき、「頑張って開いていただき、ありがとう」といった激励も頂き、休日は普段と変わらない入館者数を推移した。これは、幅広い年代層、特に小さなお子様連れのご家族、健康志向の高齢者、生涯学習の方々、そして学校、幼稚園団体、障害者団体様等に、いつ行っても楽しい植物館を認知して頂いている結果だと感じている。

2. 植物館維持管理と気象災害対応

まず、植物管理は日常管理の他、大温室は休館日を利用して大型作業を実施している。特記として、大温室の植物への施肥で、肥料の種類や実施時期の改善を図った事で展示植物の開花結実種類が増える成果となり、一年を通して来館者に好評を頂いた。夜間開館でも実施期間に絶やすことなく夜咲く花や香る花が展示でき、とても盛況で来館促進に繋がった。



写真 26 栽培温室更新

施設維持管理では、植物を良好に管理するために懸案事項だった栽培温室の天井高について、専門業者と打合せ基礎設置構造や角形鋼管構造へ変更し改修した。

改修前より棟高・軒高で約1 m以上を確保できたことで大型展示鉢の育成が可能となり、さらに、角形鋼管構造により強度も増したため、台風による施設被害はゼロとなった。

設備管理は、細かな調整と省エネに配慮しつつ温室内の生育環境と利用者の快適空間環境の維持を実施。開館30年以上と老朽化が進む設備だが、年度途中で大規模改修延期の連絡を受け、老朽化した設備の「安全」「機能」の観点で優先順位を付け計画的に修繕を行った。



写真 25 大温室高所作業はロープワークを活用



写真 27 機械室の設備管理

3. 公園利用促進事業

(1) 夜の温室開放（夜間開館）

植物館の開館時間を延長して行う夏の夜の温室開放（夜間開館）や秋のオータムフェスタは、植物館最大のイベントであり、多くの方々にご来館頂いた。特に前年度より雰囲気を変えた夜間開館は、普段見る機会のない夜

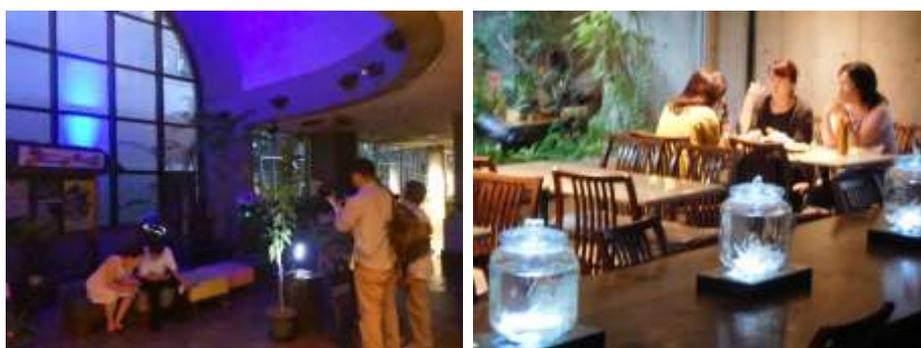


写真 28・29 夜間開館時のエントランス・カフェの風景

に咲く花や夜に強く香る花などを体験して頂き、昨年のリピートも多く、大幅に増員し昨年度の 1.8 倍と人気イベントとなっている。今年度は、昨年度と比較しさらに事前の広報を強化した。チラシの新聞折り込み、関係機関



写真 30・31 ボランティアスポットガイド・夜に咲く花・夜に香る花

への配布を行い、ポスターを地域連携している新木場駅にご協力頂き駅構内に掲示。また、周辺施設にも掲示をご協力頂くとともに、公園内における掲示を強化した。さらに、アウトリーチ活動やラジオのイベント紹介、テレビの館内紹介などのマスメディアによる広報も多く、来館者数増加に繋がったと感じる。さらに、17:00 前から来館された来館者にもお楽しみ頂けるように 17:00～19:00 の日没までの時間を中心にイベントを集中させ、同時刻に大温室において照明の機材を設置することにより、来館者を一時的に排他することなく夜間開館へとシフトさせた。大温室も各所にセンスのある照明で夜のジャングルを演出し広報効果もあり、7・8 月合計で昨年対比約 1.8 倍の増員となった。アンケート結果によると、リピーターの獲得の他、新規の来館者も取り込むことができ、地域に夜間開館イベントが浸透していることが伺える結果となった。



写真 32 奄美大島出身歌手我那覇美奈スペシャルライブ
城南海さん牧岡奈美さんゲスト

(2). 秋の祭典オータムフェスタ

「環境」への意識啓発を図ることを目的にした来園者参加型イベントで、今年度は、3 連休の 2 日目と 3 日目で、初日の土曜日にも人気の高いイベントを用意していたが、台風 19 号の接近により、土曜日は臨時休館を余儀なくされた。土曜の夜から暴風となり、夜半から被害対応を進めたが、被害は公園内・植物館内で大きく、オータムフェスタ初日は 13 時の開館となり、同時にオータムフェスタ



写真 35 直前台風襲来も無事開催



写真 35・36 警察署の啓蒙活動とインターナショナルブース

2019 をスタートした。天候も回復し、時間前に入場門には沢山の行列ができ、スタートとともに賑わいをみせた。オータムフェスタ 2 日目は雨天であり、ステージや各

アクティビティは室内に移し開催した。天気には恵まれず、全て建物内と限られたスペースでの開催となったが、大きな事故や苦情、病人などなく終了することができた。気象災害の後だったため、消防車とともに防災についての啓蒙を行っていただく予定だった所轄消防署は来られなかったが、防犯啓蒙に東京湾岸警察署員とピーポ君が2日目に駆けつけて頂いた。さらに、「環境啓発」に「リサイクル市」を、「国際感覚」に「インターナショナルブース」として西アフリカ、ブルキナファソ大使館、トーゴ共和国大使館の協力によりアフリカの環境、文化を取りあげ、アフリカの髪結い体験など楽しみながら「学ぶ場」を創出し提供できた。天候に左右されたフェスタで、中止となったアクティビティ（セグウェイ体験、クリーンアップなど）もあったが多くの方に喜ばれた。



写真 34 天候不順もステージは
屋内の映像ホールで実施

(3). 企画展&関連イベント

今年度は、新規にエチオピア連邦民主共和国大使館の協力による熱帯の国、コーヒーの国、エチオピアの文化展を11月に実施。関連イベントとして「エチオピアのコーヒーセレモニーの実演」も開催した。期間中には、在日エチオピア連邦共和国大使も来館され、来館者に対しご挨拶をいただき、来館者からも「大使のお話



写真 36 (株) 明治との企業連携

オから作るチョコレート実演」は、2日間に分けた。初日は、植物館スタッフによる「植物としてのカカオ」の解説とチョコレート実演。体験セットを配布し、植物館ならではの本物のカカオの実に触れ、植物としてのカカオ、チョコレートの材料としてのカカオ、チョコレートの歴史などユーモアを交えて丁寧に説明した後、カカオからチョコレートを作る実演を行った。2日目は、新たな試みで、企業連携で(株)明治の製品開発者(ショコラアドバイザー)による「農作物を利用した製菓」としてのカカオの説明と実演。カカオ豆 100%の苦

話が聞けるなんて思わなかった」との声も聞かれた。また、バレンタインに近い時期に行う人気の高い恒例の企画展「夢の島カカオ&チョコレート展」を開催した。大温室 B ドームにある本物のカカオの実を見学していただいた後に、そのカカオからどうやって甘いチョコレートができるのかを詳しく紹介する企画展。関連イベントの「カカ



写真 35 エチオピア展
コーヒーセレモニー



写真 37 ウィークエンドコンサート
時にゾウタケ(再利用)も楽器として登場

いチョコレートの試食の他、「農作物を利用した製菓」として、解説はカカオだけにとどまらず、栽培地の様子や企業として社会貢献 SDGs などについても解りやすく紹介し、両日ともお年寄りからお子様まで広く喜ばれた。さらに、葉や花がハ



写真 38 食虫植物捕虫実験



写真 39 大温室空中散歩

ートの形のものを集めた「ハートの形の植物たち展」では、幅広い年齢層に興味を持って頂いた。その他、ウィークエンドコンサートなどの年間を通した定期開催イベントや夏のスクール体験など季節ならではのイベント、さらに、子供たちに人気の「食虫植物と熱帯のいきものたち展」&食虫植物捕虫実験などの企画展関連イベントなど、いつ来ても楽しめる工夫を凝らした。従来は、週末に多いイベントも、平成31年度は、平日の来館促進の試みで、平日イベント開催も実施した。

IV. 地域連携・企業連携・学校連携（公園・植物館）

1. 活動の場として

最寄り駅のある新木場と夢の島地区の企業や組合などで2カ月に1度の定期で新木場連絡会を植物館会議室で開催している。平成31年度の話題は大会に関わることも多く、組織委員会にも参加頂き、26の団体との連絡会となっている。また、3カ月に1度で開催される江東社会貢献ネットワーク（こらぼら）などで企業連携を深め、先に記した夏花プロジェクトには多くの企業や団体が参



写真 40 新木場連絡会



写真 41 中学生職場体験（公園）

加して頂いた。さらに、都民協働の花壇ボランティアは、夏花プロジェクトにも参加し、植付後の定期メンテナンスも協働で作業を行った。植物館では、スイレンの植替えの協働作業の他、温度管理の仕組みや熱帯植物について、詳しく分かりやすく楽しく説明し、来館者をご案内するガイドボランティアは、土日祝の活動。夜間開館では、スポットガイドとして、夜間開館の見どころである夜に咲く花

や香る花を中心に各スポットに立ち、通りかかった来館者に対し解説を行うなど、植物館運営に欠かせない活動となっている。



写真 42・43 子ども自然科学大賞プレゼン・こども絵画コンクール表彰式

2. 学びの場として

江東区の小学校7校へ訪問した小学校出張授業は、児童数590名に①創造力②色を学ぶ③時間を守るを約束し、世界に一つだけの創造のランづくりを行った。また、小学校の夏休みの課題を取り上げた「子ども自然科学大賞」は、101点の作品から12点を受賞とし、受賞した児童を招き、映像ホールでプレゼン発表と表彰式を行った。花や自然などの絵画を展示する「こども絵画コンクール」は、イベントホールで表彰式を行い、子供たちの作品は、植物館に展示して、父兄の方々に足を運んで頂いている。その他、小学校の遠足や中学生訪問の他、中学校の職場体験(6校)、大学生実習・インターンシップ(6校)の受け入れを行い、学校との連携を進めている。

3. 体験の場として

身近に植物を感じてもらおう取り組みとして、小学生向けに、公園で採取した木の実や枝葉を使用したマグネット作りの体験プログラムを提供。養護学校向けには、袋を選ぶ・香りを探す・掴む・混ぜる・結ぶといった五感で感じる体験プログラム(ハーブ匂い袋作りなど)を用意している。また、ガイドボランティアの協力のもと盲学校には、植物に触れ、手触りの違いや特徴のある葉など楽しみながら温室を巡る体験をしてもらうなど体験の場として、公園及び植物館を活用している。



写真 44・45 五感で感じる体験プログラムと盲学校向けのガイド

V. 広報・アウトリーチ活動とコンテンツ

公園は、工事や整備により限られた広場での活用となるため、マスメディアでの広報やSNS(Instagramなど)の活用した他、学校や地域と連携してアウトリーチ活動を展開した。

先に記した通り、江東社会貢献ネットワーク(こらぼら)での活動報告により、夏花プロジェクトへの企業・団体の参加があった他、新木場連絡会で連携している江東区区民農園が主催した第一回夢の島マルシェに出店。



写真 47・48 夢の島マルシェ出店と出張授業での機運醸成活動



写真 46 イベント取材対応



写真 49 インスタグラム

出張植物館と称し、熱帯の植物を展示し、1週間後に行う夜間開館のPRを行った。江東区観光協会が主催する湾岸祭りでは、公園が大会の会場であることや他、大会会場の説明を行った。小学校に向いた出張授業では、植物の説明の他、アーチェリーの的を持参し、生徒に公園が大会の会場であること、アーチェリー競技に興味を持って頂く説明をして、大会の機運醸成と公園の紹介を行い、大会後のレガシーとなる長期的な公園の魅力を発信した。



写真 50 湾岸祭り出店



写真 51 公式アプリ

公式アプリのリニューアルについて植物ガイドの全面リニューアルを実施。温室各ドームの主要植物をリストアップし、新たに案内文章を作成した他、新たな取り組みとして、外からの利用者に対応すべく英語版も作成した。さらに、今まで iPhone や iPad 端末への提供だったが、AppStore と GooglePlay でダウンロードを可能とし、新しく android の端末にも対応が可能となった。リニューアル後は、利用者自身のスマートフォンへのダウンロードしていただくよう積極的にご案内し、また新型コロナウイルス感染症予防対策で2月中旬以降は貸出端末を中止したため、利用者数が大きく低減したが、ダウンロード数は飛躍的に伸びた。

VI. 最後に

平成31年度は、大会に向けた整備が本格化し、組織委員会など大会関係者との調整を行いながらの運営となった。公園は、利用できる広場は限られ、植物館の運営にも影響した。それでも、多くの方に施設を利用して頂き、楽しい時間を過ごして頂いた。但し、年度の終わりには世界中で起こっている新型コロナウイルス感染症拡大の影響も受け、植物館では、イベントの中止や一部施設の利用制限を行った。年度末には臨時休館となり、感染症対策を進めるとともに、施設のあり方を考えさせられた。

次ページに、新年度に実施した施設の新たな活用としての取り組みを一つご紹介して、この報告書を終わりとす。



写真 52 新木場駅 正月装飾（ゾウタケ発生材利用）

夢の島バーチャル植物館

3Dビュー+VR映像で館内を公開中



令和2年

7/30より
配信スタート!



オンライン上で3Dビュー+VR映像を自宅でも楽しめるコンテンツ

「夢の島バーチャル植物館」を配信しています。

PCやスマートフォンから3DビューやVR映像で実際に館内を歩くように360°自由に見ることができます。

ホームページ (<https://www.yumenoshima.jp/>) からご覧いただけます。

※VR映像としての鑑賞には専用のGoogleもしくはメガネが必要ですが、3Dビュー映像はPC・スマートフォンでお楽しみいただけます。

さがしてみよう! 熱帯の植物たち



ヘリコニア・ロストラータ



バナナ



カカオ



ウツボカズラ



タコノキ



ラフレシア

映像は新型コロナウイルスの影響で休館・休園している施設をボランティア活動で支援する一般社団法人VR革新機構 (<https://vrio.jp/>) ご協力のもと無人の館内を高画質画像5G対応3D+VRで360°撮影をしていただきました。

コロナ禍の都立大島小松川公園の管理運営と利用の実態

都市部の公園・東部グループ

指定管理者 アメニス東部地区グループ

統括責任者 上田太司

I. はじめに

新型コロナウイルス covid-19 の感染拡大の危機は、2019 年末くらいから足音もなく忍び寄ってきた。怪しげなニュースは報道されていたが、まさか自分たちの身近にまで迫ってくるとは思ってしなかった。

しかし、2020 年 2 月下旬になると周囲がざわつき始め、3 月上旬には学校が休校になるなど、どんどん状況が変化していった。その後は、公園でも長期間に渡って、その対応に追われることになってしまった。

1 回目の緊急事態宣言前後の期間における公園の管理運営と利用の実態について記載する。

II. コロナ禍の対応状況 時系列

2020 年

- 2 月 27 日 3 月以降の指定管理者主催イベント、公園一時占用の中止または延期
- 2 月 29 日 バーベキュー施設新規受付中止、予約済み利用者への自粛お願い
- 3 月 2 日 都内公立学校臨時休業措置
- 3 月 3 日 花見宴会自粛のお願い、公園内利用者への注意喚起
- 3 月 25 日 都知事外出自粛要請
- 3 月 28 日 有料運動施設・バーベキュー施設の使用中止
- 4 月 6 日 首都圏での緊急事態宣言
- 4 月 10 日 管理所を B C P 体制へ移行
- 4 月 25 日 駐車場閉鎖、遊具閉鎖、無料の運動広場閉鎖
- 5 月 25 日 緊急事態宣言解除
- 5 月 26 日 遊具再開（大島小松川公園アスレチック広場以外）
- 6 月 1 日 管理所を通常体制へ移行、無料の運動広場の再開、公園団体利用の再開
- 6 月 15 日 有料運動施設の制限付再開
- 6 月 17 日 大島小松川公園アスレチック広場の再開
- 7 月 1 日 バーベキュー施設の制限付再開
- 9 月 19 日 指定管理者主催イベント、公園一時占用の再開

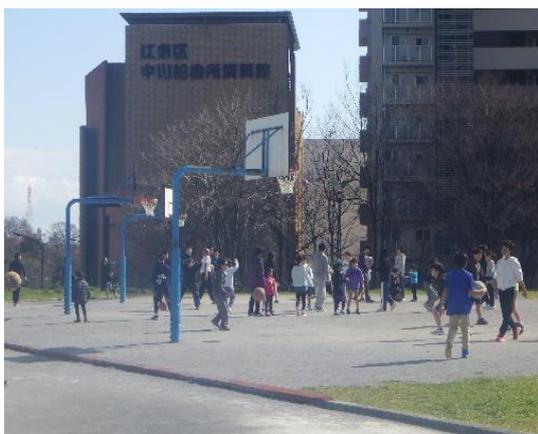
Ⅲ. 各月の主な出来事

コロナ禍の状況が刻々と変化する中で、各月でおこった出来事にも変化が見られた。各月の事例と対応を記載する。

3月事例：

学校が臨時休業措置となり、行き場を無くした中学生、高校生が公園内の遊具で走り回り、危険という苦情が多く寄せられた。

対策：維持管理職員を利用者が多い時間帯に監視に立ってもらい、利用指導を行った。



3月 わんさか広場バスケットゴール付近

3月 アスレチック広場大型遊具利用状況

4月事例：

緊急事態宣言後、多くの屋内施設や有料施設が閉鎖となってしまった。開放されている公園には駐車場に待機列ができるほど、多くの利用者が訪れた。大型遊具にもたくさんの子どもが集まる状況であった。公園に人が集まりすぎている、遊具で子供を遊ばせるな、という苦情が寄せられた。

対策：東京都と調整して、4月25日に駐車場および遊具の閉鎖を実施した。しばらくの間、路上駐車が多く、警察署と協力して利用指導にあたった。



4月 駐車場の様子



4月 アスレチック広場大型遊具利用状況

5月事例：

夜間に公園で大声を出す、スケートボードで遊ぶ若者が多く、音や破損、ごみの散乱などの苦情が多く寄せられた。

対応：BCP体制で夜間巡回が手薄になっていたが苦情が多くなってきたので、5月下旬より業者の協力も得て、夜間巡回パトロールを連日実施、該当する対象者に注意喚起を行った。



5月 コロナ禍での花壇の様子



5月 大島小松川公園自由の広場

6月事例：

コロナ禍で自粛生活による運動不足が報じられ、公園内にランナーやウォーキングをする利用者が増えた。運動時のマスクの着用に対する問合せが多く寄せられた。

対応：運動時のマスク着用の仕方も含めて、コロナ禍での「新しい生活様式」の対応を、園内掲示板や園内放送で注意喚起を促した。



6月 利用が再開した小野球場



6月 アスレチック広場大型遊具利用状況

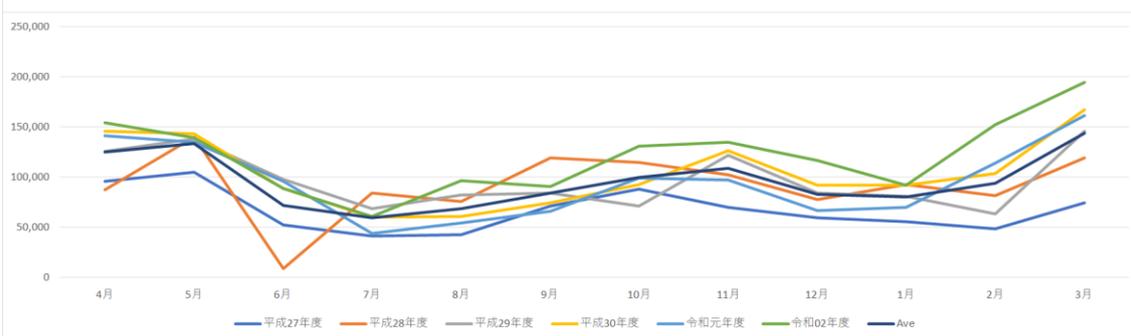
IV. 利用者数の推移

○ 利用者数推移

指定管理者名 アメニス東部地区グループ

施設名 大島小松川公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	係数
平成27年度	95,827	104,438	51,754	40,712	42,085	71,208	87,884	89,856	58,981	55,507	47,862	74,281	800,222	15.1
平成28年度	87,054	139,958	8,524	83,958	75,250	118,888	114,483	101,742	77,444	82,207	81,208	118,888	1,099,580	18.8
平成29年度	125,243	138,018	97,554	88,037	82,188	83,981	71,087	121,718	83,576	80,305	83,022	145,243	1,159,948	18.8
平成30年度	145,277	142,882	88,189	59,985	80,848	73,921	82,153	128,385	81,349	81,789	103,288	188,878	1,242,498	18.8
令和元年度	140,824	134,888	95,520	43,351	53,888	85,438	98,728	97,081	86,439	89,705	113,562	160,818	1,140,127	18.8
令和2年度	154,087	139,308	88,457	80,588	98,389	90,188	130,481	134,788	118,187	81,980	152,288	194,288	1,448,981	18.8
Ave	124,887	133,181	71,883	59,435	68,407	83,980	89,141	108,588	82,328	80,242	93,541	143,408	1,148,551	



大島小松川公園の利用者数推移を表とグラフで表示した。

コロナ禍となった令和元年度2月以降を見ると、3月と6月以外は概ね前年度数値を上回っている。これは学校が休校になり部活動などがなくなったこと、屋内系施設が閉鎖されて集まる広い場所として公園に利用を求めたこと、運動不足を解消するために公園利用を求めたこと、などが考察される。

緊急事態宣言が解除された6月以降も利用者数が増えている。屋内施設を敬遠し屋外でのレクリエーションを求めていること、ウォーキングやランニングなどの運動をする方が増えていること、などが考察される。特にコロナ禍がいったん落ち着いた9月～11月については、大きな利用促進事業やイベントがなかったにもかかわらず、利用者増が目覚ましかった。

これらより、公園の新たな利用者が増えていると推測され、その方々の公園利用が定着するように、公園に誘導するような仕組みやwithコロナでの公園の利用促進策を検討したい。

V. 感染防止の対策

「かからない、うつさない、うつされない」5つのルール

- ・ 3つの密（密閉・密集・密接）を作らない、
- ・ アルコール消毒、手洗いとうがいの徹底、
- ・ 社会的距離の確保、
- ・ 会話をする際にはマスクを着用（食事の際の会話はしない、個食を推奨）、

・ヘルスチェックの義務付け、
を設定して、職員にメールや配布物でこまめに周知し、「正しく恐れ、しっかりと対応する」
ことを徹底した。5月以降は面会者などの自己の行動記録もメモすることを加え、継続をし
ている。

このほか、接触確認アプリ COCOA のインストール、大勢での会食を控える、炎天下作
業時のマスクの外し方など、時節に応じた対応や周知が必要となり、その都度、周知や周囲
へ理解を図った。

公園利用者に対して、「新しい生活様式」での公園利用に対して理解をしてもらうため、
ホームページや園内掲示だけではなく、定期的または利用が多い時の園内放送、巡回時の声
かけも行った。サービスセンターにおいては、「感染防止徹底宣言ステッカー」を取得し掲
示、運動施設利用者に対しては、LINE などによる「新型コロナ見守りサービスシステム」
の周知を行う、ロッカーなど共有物の消毒を実施して、感染防止に努めている。

物品購入としては、3、4月はマスクやアルコール消毒液の確保に奔走した。6月以降の
通常業務に戻ってからは、受付窓口へのパーティション設置、トイレや水飲み場に石鹸を設
置した。外部への石鹸設置はカラスの悪戯や盗難が多く発生し、対応を検討している。

コロナ禍での対応状況（大島小松川公園以外の公園も含む）

	
<p>感染防止徹底宣言ステッカー</p>	<p>新型コロナ見守りサービスシステム</p>



公園利用の案内



運動施設利用の案内



ソーシャルディスタンスバナー設置



ソーシャルディスタンスバナー



受付窓口スクリーン設置



卓上仕切り版の設置

	
<p>新しい生活様式の掲示</p>	<p>園内トイレに石罫を設置</p>
	
<p>ロッカーの使用制限</p>	<p>運動施設入口 アルコール消毒液設置</p>
	
<p>イベント時のアルコール消毒液設置</p>	<p>アンケート記入時の消毒</p>

VI. 先行き不安の中での対応

先行きが不透明な中、これまでに未経験なことへの対応、判断、指示などを手短に行わなくてはならず、終始ドタバタしていた。判断と対応に苦慮する苦情や要望も数多く寄せられ

た。

4月／公園に人が多く集まっているから何とかしてほしい！公園を閉鎖できないのか？

5月／子どもを遊ばせる場所がないので、遊具や駐車場を閉鎖しないで、解放してほしい。

6月／マスクをつけないで走るランナーがすぐ脇を通過して怖いので、注意してほしい。

7月／マスクをつけないで作業している人がいるが大丈夫なのか？

色々な苦情要望についてはその対応も含めて、職員に周知共有を行った。またグループ公園にも水平展開して、情報共有を図った。

一番判断に迷ったのが、BCP体制導入の可否であった。管理所の機能を正常に保つために、また職員が感染した場合の影響を最小限にとどめるために、3月中旬から検討し始めた。2班体制を構築し、職員に提示、了承を得て、施設の使用中止や緊急事態宣言を経て導入に踏み切った。

導入時には、職員間のコミュニケーションがうまく取れなかったが、メールやノートなどで情報共有や引継ぎを行って対応した。また先にあげた苦情対応や巡回による利用者指導の対応が多くなったのも職員が少ない中で負担増となった。

刻々と情勢が変化し、公園利用者への案内も変わっていった。掲示物も都度、変更する必要が生じ、材料の不足、機械の破損と購入の必要があった。

植物管理は最盛期に向かうところであり、維持管理作業が手薄になりそうであったため、事前に協力業者に依頼して臨時に対応してもらった。

VII. With コロナの公園のあり方

突然の環境の変化に動揺は隠せないが、With コロナにおける公園の活用方法を考えなくてはならない。これまでのように、利用促進事業や自主事業をどんどんやって利用者を集める、のも少し違うような気がする。

原点に戻って、公園本来の安全・安心を基本として、花や緑、生き物の四季の変化を楽しむこと、健康増進や憩いの場を提供すること、が必要ではないだろうか？これまで利用することが少なかった方々にも、いかに公園の魅力を発信しながら、人を分散して集めるような方法がないか、を創意工夫していきたい。

本件は、公益財団法人東京都公園協会発行 都市公園 230号（令和3年1月）に発表済のものに一部加筆したものである。

令和2年度 緑の情報連絡会活動について

東京都建設局公園緑地部計画課緑化推進担当 紅林宏樹

I. 会議の開催

今年度の緑の情報連絡会については、新型コロナウイルスの影響により開催を中止とした。その経緯について説明を行う。

令和2年1月6日、中国湖北省武漢で原因不明の肺炎が発症し、厚生労働省が渡航に際し注意喚起を行う。

同月14日、WHOは新型コロナウイルスを確認。令和2年2月上旬頃から国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、メディア等を通じて各方面で各種イベントや会議の中止などの報道がなされた。

都でも、毎年3月中旬から各都立公園におけるサクラの開花状況について都民向けに情報提供しているが、花見で人が公園に集まることにより感染拡大が懸念されるため、3月末をもって令和元年度の情報提供は終了となった。また、同月24日には東京オリンピックパラリンピック競技大会が1年程延期となるなど、大会までをカウントダウンする時計が停止した。

4月になり、新型コロナウイルスの感染が拡大は留まることはなく、4月7日に、東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、同月16日には対象を全国とした。その後も感染の影響により緊急事態宣言が5月31日まで延長となった。

そうした中、本来であればその年における緑の情報連絡会の活動内容を決めるアンケートを各基礎的自治体へ送付する時期であったが、各自治体も新型コロナウイルスでの住民対応等で会議を開催できる状況下でなかった。また、ソーシャルディスタンスの観点からも会議等3密が懸念される会合は避ける時期にあった。終息の兆しが見えない状況下であると、会議を通して感染が懸念されることもあり、令和2年度の緑の情報連絡会は中止とすることとした。

1 東京の道路緑化状況

(1) 東京都の道路緑化状況

(令和2年4月1日現在)

ア. 東京の街路樹規模 (管理者別)

単位：本

種類	管理者	管理本数合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	25,751	2.5%	19,174	3.0%	6,577	1.7%
都道	東京都知事	648,576	63.9%	403,173	63.5%	245,403	64.7%
区道	特別区長	212,411	20.9%	212,411	33.5%	0	0.0%
市町村道	市町村長	127,544	12.6%	0	0.0%	127,544	33.6%
合計		1,014,282	100.0%	634,758	100.0%	379,524	100.0%

イ. 東京の道路緑化延長 (管理者別)

単位：km

種類	管理者	緑化延長合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	198	5.3%	158	6.8%	40	2.9%
都道	東京都知事	1,371	37.0%	842	36.5%	529	38.0%
区道	特別区長	1,310	35.4%	1,310	56.7%	0	0.0%
市町村道	市町村長	823	22.2%	0	0.0%	823	59.1%
合計		3,701	100.0%	2,310	100.0%	1,391	100.0%

*小数第1位を四捨五入した整数値で表記

ウ. 都内の道路緑地規模 (管理者別)

単位：㎡

種類	管理者	管理面積合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	340,872	7.2%	263,185	9.5%	77,687	3.9%
都道	東京都知事	2,312,590	48.6%	1,238,095	44.6%	1,074,495	54.1%
区道	特別区長	1,276,730	26.8%	1,276,730	46.0%	0	0.0%
市町村道	市町村長	832,875	17.5%	0	0.0%	832,875	42.0%
合計		4,763,067	100.0%	2,778,010	100.0%	1,985,057	100.0%

エ. 東京の道路緑地規模 (緑地区別)

単位：㎡

種類	管理者	管理面積合計	%	歩道植樹帯	%	その他道路緑地	%
一般国道	国土交通大臣	340,872	7.2%	207,726	7.0%	133,146	7.5%
都道	東京都知事	2,312,590	48.6%	1,157,372	38.8%	1,155,218	64.9%
区道	特別区長	1,276,731	26.8%	912,798	30.6%	363,933	20.5%
市町村道	市町村長	832,875	17.5%	705,961	23.7%	126,914	7.1%
合計		4,763,068	100.0%	2,983,857	100.0%	1,779,211	100.0%

*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地 (中央分離帯・交通島など)

オ. 参考表

東京の道路延長及び面積規模 (管理者別) 平成29年4月1日現在

区分	道路延長 m	%	道路面積 ㎡	%
一般国道	245,560	1.0%	7,438,476	4.0%
都道	2,237,696	9.1%	41,450,972	22.1%
区道	10,658,381	43.4%	70,176,698	37.4%
市町村道	11,137,967	45.4%	59,139,254	31.5%
自動車専用道	278,079	1.1%	9,420,892	5.0%
合計	24,557,683	100.0%	187,626,292	100.0%

※道路率：都内全域8.6% 区部16.5% 多摩部10.5% 島しょ部1.8%

カ. 東京の街路樹等（高木）規模内訳

(令和2年4月1日現在)

樹種名	合計規模			地区別規模計				都 道					国 道				区 道		市町村道	
	順位	本数	%	順位	区部	順位	多摩他	区部	多摩他	順位	合計	%	区部	多摩他	順位	合計	順位	合計	順位	合計
アオギリ	20	4,878	0.48	17	4,353	21	525	2,828	331	13	3,159	0.49	32	0	17	32	20	1,493	24	194
アキニレ	22	4,544	0.45	20	3,978	19	566	1,037	24	22	1,061	0.16	11	0	19	11	16	2,930	19	542
イチョウ	2	60,284	5.94	1	38,360	2	21,924	18,997	8,597	1	27,594	4.25	4,906	2,423	1	7,329	3	14,457	3	10,904
ウバメガシ	21	4,582	0.45	19	4,074	23	508	1,203	419	18	1,622	0.25	6	0	20	6	18	2,865	27	89
エンジュ類	13	9,907	0.98	14	5,505	11	4,402	3,479	618	10	4,097	0.63	173	98	11	271	19	1,853	8	3,686
クスノキ	7	18,802	1.85	6	13,200	7	5,602	3,312	2,923	7	6,235	0.96	68	36	14	104	4	9,820	13	2,643
ケヤキ	5	29,521	2.91	7	12,886	5	16,635	3,785	6,698	5	10,483	1.62	924	525	4	1,449	5	8,177	5	9,412
サクラ類	3	43,689	4.31	3	26,623	4	17,066	3,594	4,108	6	7,702	1.19	369	80	8	449	1	22,660	2	12,878
シンジュ	28	125	0.01	29	16	27	109	14	0	29	14	0.00	0	0	24	0	29	2	26	109
プラタナス類	6	23,106	2.28	4	21,349	18	1,757	13,544	748	4	14,292	2.20	1,945	15	2	1,960	10	5,860	16	994
トウカエデ	4	35,867	3.54	5	14,687	3	21,180	6,337	10,756	3	17,093	2.64	656	660	6	1,316	6	7,694	4	9,764
トチノキ	17	5,666	0.56	23	1,743	13	3,923	384	705	21	1,089	0.17	99	0	15	99	21	1,260	10	3,218
トネリコ	27	363	0.04	26	347	29	16	60	0	27	60	0.01	2	0	23	2	26	285	29	16
ニセアカシヤ	25	1,049	0.10	25	529	22	520	36	83	25	119	0.02	0	0	24	0	24	493	22	437
ハナミズキ	1	62,684	6.18	2	27,646	1	35,038	6,765	13,424	2	20,189	3.11	1,022	353	5	1,375	2	19,859	1	21,261
フウ	24	2,341	0.23	22	1,801	20	540	1,349	0	20	1,349	0.21	0	0	24	0	25	452	20	540
外来ポプラ類	29	109	0.01	27	104	30	5	29	0	28	29	0.00	0	0	24	0	27	75	30	5
マテバシイ	8	16,723	1.65	8	12,169	9	4,554	2,909	1,689	8	4,598	0.71	1,581	207	3	1,788	7	7,679	12	2,658
モミジバフウ	15	8,365	0.82	12	6,500	17	1,865	3,590	795	9	4,385	0.68	2	76	16	78	17	2,908	16	994
シダレヤナギ	23	2,458	0.24	21	2,200	26	258	795	10	23	805	0.12	207	0	12	207	22	1,198	23	248
ヤマモモ	9	13,443	1.33	9	10,873	15	2,570	2,946	943	11	3,889	0.60	420	7	9	427	9	7,507	15	1,620
ユリノキ	14	9,715	0.96	15	5,162	10	4,553	1,408	794	14	2,202	0.34	464	0	7	464	14	3,290	7	3,759
ウメ類	26	933	0.09	24	611	25	322	39	174	24	213	0.03	0	0	24	0	23	572	25	148
クワ	29	109	0.01	28	67	28	42	0	0	30	0	0.00	2	2	22	4	28	65	28	40
コブシ	10	11,760	1.16	13	6,094	6	5,666	2,297	917	12	3,214	0.50	212	105	10	317	13	3,585	6	4,644
サルスベリ類	11	10,349	1.02	12	6,172	12	4,177	896	988	16	1,884	0.29	16	0	18	16	11	5,260	11	3,189
サザンカ類	19	4,981	0.49	16	4,475	24	506	112	6	26	118	0.02	0	0	24	0	12	4,363	21	500
ツバキ類	12	10,013	0.99	10	7,707	16	2,306	114	1,723	17	1,837	0.28	0	5	21	5	8	7,593	18	578
シラカシ	16	7,125	0.70	18	4,177	14	2,948	900	458	19	1,358	0.21	114	48	13	162	15	3,163	14	2,442
ビロウ	18	5,418	0.53	30	0	8	5,418	0	1,961	15	1,961	0.30	0	0	24	0	30	0	9	3,457
その他		605,373	59.68		391,350		214,023	320,414	185,511		505,925	78.01	5,943	1,937		7,880		64,993		26,575
街路	街路樹本数合計	1,014,282 (本)		634,758		379,524		403,173	245,403	648,576		19,174	6,577	25,751		212,411		127,544		
	(百分率)	100.0 (%)		62.6		37.4		39.7	24.2	63.9		1.9	0.6	2.5		20.9		12.6		
樹	街路樹植栽延長	3,701.7 (km)		2,310.5		1,391.2		842	529	1,370.8		158	40	198.2		1,309.9		822.7		
道	面積合計①+②	4,763,067 (㎡)		2,778,010		1,985,057		1,238,095	1,074,495	2,312,590		263,185	77,687	340,872		1,276,730		832,875		
	(百分率)	100.0 (%)		58.3		41.7		26.0	22.6	48.6		5.5	1.6	7.2		26.8		17.5		
緑地	①歩道植樹帯	2,983,857 (㎡)		1,713,452		1,270,405		645,139	512,233	1,157,372		155,515	52,211	207,726		912,798		705,961		
	②その他道路緑地	1,779,210 (㎡)		1,064,559		714,652		592,956	562,262	1,155,218		107,670	25,476	133,146		363,933		126,914		

(港湾局含む) (島しょ含む)

※道路緑地の「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

(2) 都道（東京都（知事）管理道路）道路の状況

2020/4/1

ア. 総括表

街路樹	【本】	648,576
道路緑地	【m ² 】	2,312,590
	歩道植樹帯	1,157,372
	その他道路緑地	1,155,218
道路延長 【km】	道路緑化延長	
	延長【km】	緑化率%
2,238	1,371	61.3%

イ. 街路樹の主要樹種状況

順位	樹種	本数	割合
1	イチョウ	27,594	4.3%
2	ハナミズキ	20,189	3.1%
3	トウカエデ	17,093	2.6%
4	プラタナス類	14,292	2.2%
5	ケヤキ	10,483	1.6%
6	サクラ類	7,702	1.2%
7	クスノキ	6,235	1.0%
8	マテバシイ	4,598	0.7%
9	モミジバフウ	4,385	0.7%
10	エンジュ類	4,097	0.6%
	上記以外	531,908	82.0%
	合計	648,576	100.0%

ウ. 都道の街路樹・道路内緑地管理規模の推移

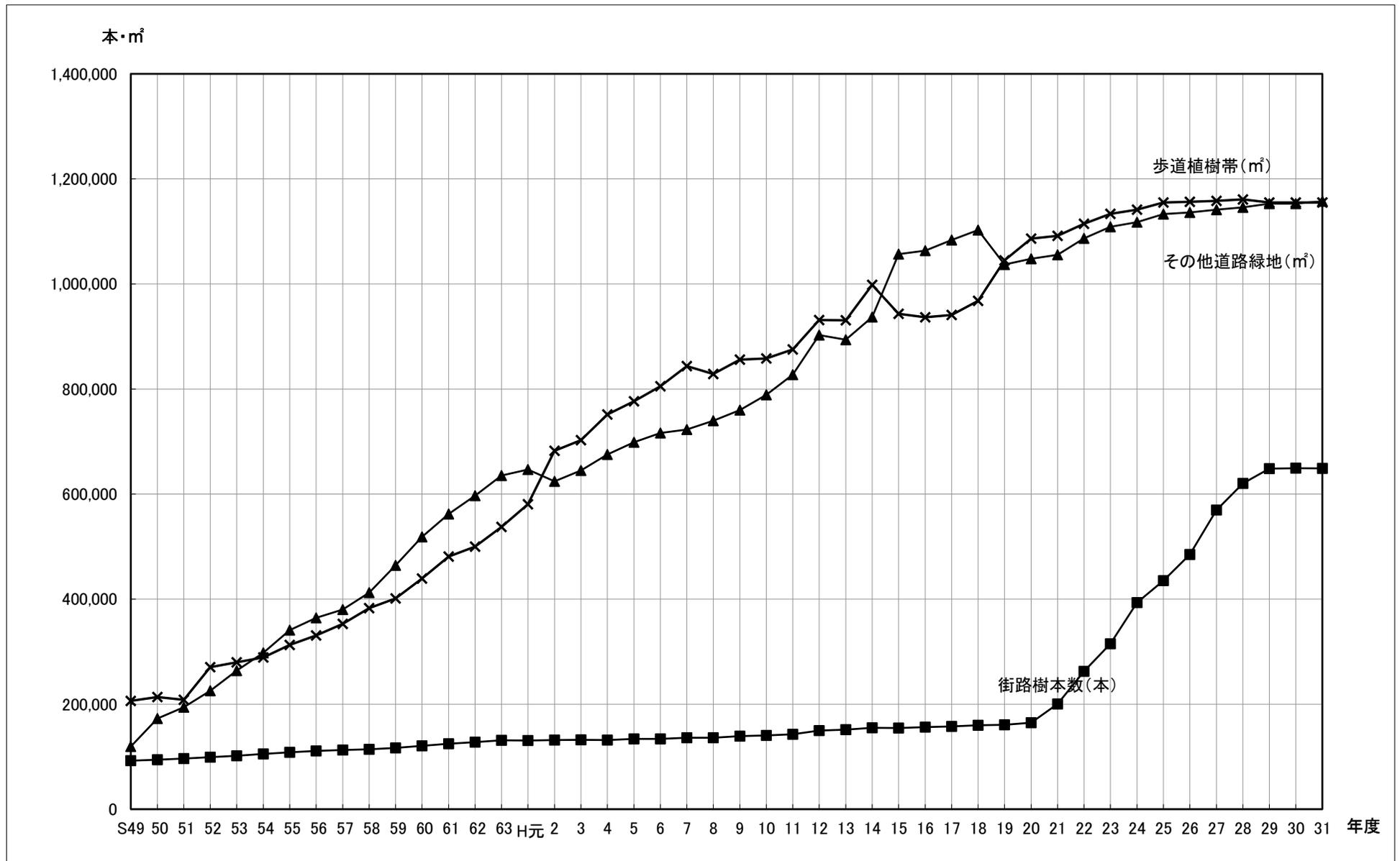
年度	街路街路樹 【本】	道路緑地			
		面積合計(①+②) (㎡)	①歩道植樹帯 面積(㎡)	延長(km)	②その他道路緑地 面積(㎡)
S49	92,283	325,568	119,308	113.7	206,260
50	94,275	386,141	172,536	164.0	213,605
51	96,135	402,436	194,194	180.9	208,242
52	98,969	495,605	225,267	199.0	270,338
53	101,678	543,466	263,638	231.1	279,828
54	105,039	586,440	297,552	258.8	288,888
55	108,063	653,338	340,840	291.2	312,498
56	110,795	694,915	364,200	319.6	330,715
57	112,864	732,864	380,023	336.2	352,841
58	114,004	795,383	412,449	350.1	382,934
59	116,681	865,720	464,347	375.3	401,373
60	120,799	957,292	518,287	405.2	439,005
61	124,349	1,042,711	561,944	433.7	480,767
62	127,560	1,096,909	596,903	461.0	500,007
63	131,235	1,172,279	635,007	490.9	537,272
H元	130,571	1,227,288	646,685	510.2	580,603
2	131,376	1,306,592	624,160	539.5	682,432
3	132,093	1,347,423	645,052	546.8	702,371
4	131,546	1,426,584	675,057	591.0	751,527
5	133,833	1,475,118	698,736	652.5	776,382
6	133,827	1,521,260	716,228	608.1	805,032
7	135,851	1,556,399	723,034	599.0	843,365
8	136,204	1,567,916	739,476	621.8	828,440
9	139,028	1,615,434	759,699	677.1	855,735
10	140,359	1,646,935	788,707	967.0	858,228
11	142,758	1,702,514	827,358	991.0	875,156
12	149,700	1,833,637	902,451	927.0	931,186
13	151,590	1,824,537	893,702	1132.0	930,835
14	155,013	1,935,183	937,125	1166.0	998,058
15	154,574	1,999,735	1,056,620	1176.0	943,115
16	156,095	1,999,711	1,063,299	1225.0	936,412
17	157,610	2,024,649	1,083,811	1206.0	940,838
18	159,953	2,070,549	1,102,681	1167.0	967,868
19	160,748	2,082,054	1,037,106	1191.0	1,044,948
20	164,460	2,134,525	1,048,157	1201.0	1,086,368
21	200,243	2,146,938	1,055,481	1211.0	1,091,457
22	262,648	2,201,077	1,086,744	1212.0	1,114,333
23	314,978	2,242,262	1,108,912	1228.0	1,133,350
24	393,492	2,259,174	1,117,631	1232.0	1,141,543
25	435,214	2,287,963	1,133,149	1351.0	1,154,814
26	484,906	2,292,453	1,136,111	1355.6	1,156,342
27	569,451	2,299,419	1,141,322	1359.2	1,158,097
28	620,374	2,306,784	1,145,826	1363.6	1,160,958
29	648,551	2,307,848	1,152,797	1368.6	1,155,051
30	649,078	2,307,848	1,152,797	1368.8	1,155,051
31	648,920	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
R2	648,576	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218

*数字は各年度4月1日現在 *港湾局分含む

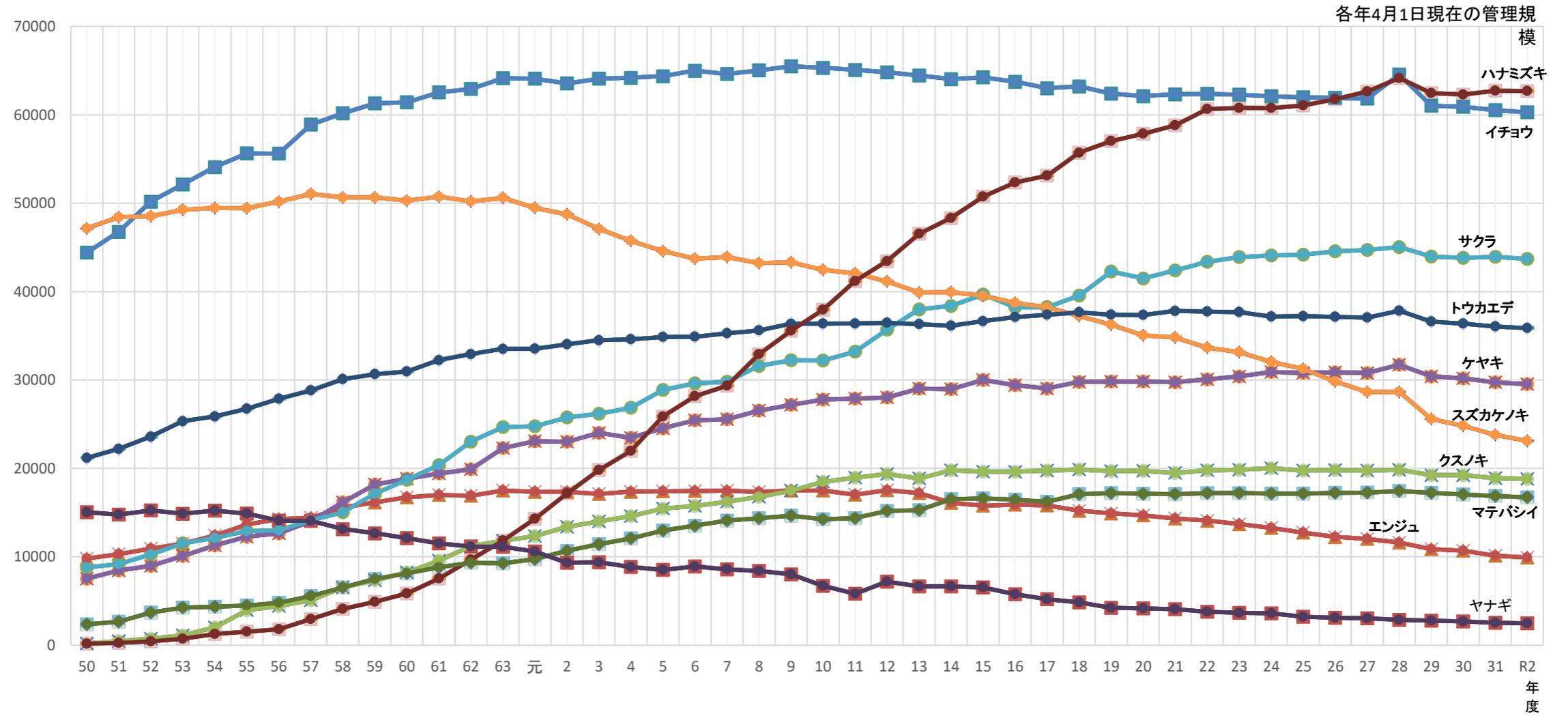
*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

エ. 都道の街路樹本数・緑地面積等の推移

(各年度4月1日現在)



オ. 東京の街路樹 主要10種類の推移



2. 令和元年度 都立公園等植栽本数一覧表

(1) 総括表

項目 樹種	購入材										支給材										総計	支給材 使用率 (%)	都内産 合計	都内産 使用率 (%)						
	公園庭園			霊園			動物園			小計	公園庭園			霊園			動物園			小計										
	総数	都外	都内産	総数	都外	都内産	総数	都外	都内産		産労	苗圃	支給																	
樹	針葉樹(本)	754	754	0	1	1	0	12	12	0	767	(0)	0	0	(0)	0	0	(51)	0	0	(51)	0	0	818	6.2	51	6.2%			
木	常緑樹(本)	305	305	0	0	0	0	943	943	0	1,248	(165)	0	311	(16)	0	0	(105)	3	0	(286)	3	311	1,848	32.5	600	32.5%			
	落葉樹(本)	517	507	10	5	5	0	259	259	0	781	(60)	5	32	(20)	0	20	(35)	5	0	(115)	10	52	958	18.5	187	19.5%			
	小計(本)	1,576	1,566	10	6	6	0	1,214	1,214	0	2,796	(225)	5	343	(36)	0	20	(191)	8	0	(452)	13	363	3,624	22.8	838	23.1%			
都内産使用率		1%			0%			0%																						
株 物	常緑(株)	3,103	3,103	0	7	7	0	3,295	3,295	0	6,405	(1,836)	0	1,116	(150)	15	0	(35)	0	0	(2,021)	15	1,116	9,557	33.0	3152	33.0%			
	落葉(株)	3,665	3,659	6	0	0	0	1,871	1,871	0	5,536	(783)	50	142	(10)	35	0	(40)	0	0	(833)	85	142	6,596	16.1	1066	16.2%			
	小計(株)	6,768	6,762	6	7	7	0	5,166	5,166	0	11,941	(2,619)	50	1,258	(160)	50	0	(75)	0	0	(2,854)	100	1,258	16,153	26.1	4218	26.1%			
都内産使用率		0%			0%			0%																						
計		8,344	8,328	16	13	13	0	6,380	6,380	0	14,737	(2,844)	55	1,601	(196)	50	20	(266)	8	0	(3,306)	113	1,621	19,777	25.5	5056	25.6%			
特殊 樹	樹木(本)	210	210	0	0	0	0	437	437	0	647	(0)	0	2	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	2	649	0	2				
	株物(株)	8,042	8,042	0	0	0	0	1,310	1,310	0	9,352	(0)	0	14	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	14	9,366	0	14				
	小計(本株)	8,252	8,252	0	0	0	0	1,747	1,747	0	9,999	(0)	0	16	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	16	10,015	0	16				
	株物(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0				
地被 類	芝生(m ²)	27,032	27,032	0	274	274	0	713	713	0	28,019	(0)	0	14	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	14	28,033	0	14				
	芝生以外の 草本地被(株)	42,811	41,351	1,460	838	838	0	10,779	10,779	0	54,428	(0)	3,159	6,499	(180)	0	216	(0)	0	0	(180)	3,159	6,715	64,482	16	11514				
	〃(m ²)	6,773	6,773	0	0	0	0	20,456	20,456	0	27,229	(0)	1,967	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	1,967	0	29,196	7	1967				
	木本地被(株)	799	799	0	132	132	0	7,867	7,867	0	8,798	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	8,798	0	0				

[注意]・産業労働局支給材は、支給材の欄に()外書きする。

(2) 内 訳 表 (令和元年度)

所管 樹種		公 園 ・ 庭 園																								小 計			
		東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						小笠原支庁						指定管理者									
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給				
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				購入	都外	都内産	購入
樹木	針葉樹(本)	754	754	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	754	0	0	(0)	
	常緑樹(本)	286	286	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	0	311	0	165	305	311	0	(165)	
	落葉樹(本)	480	480	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	27	10	32	5	60	517	32	5	(60)	
	計(本)	1,520	1,520	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	46	10	343	5	225	1,576	343	5	(225)	
	支給材使用率	0.0						#DIV/0!						0.0						91.1						26.7			
株物	常緑(株)	2,777	2,777	0	0	0	20	316	316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	0	1,116	0	1,816	3,103	1,116	0	(1,836)	
	落葉(株)	3,593	3,593	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	66	6	142	50	783	3,665	142	50	(783)	
	計(本)	6,370	6,370	0	0	0	20	316	316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	76	6	1,258	50	2,599	6,768	1,258	50	(2,619)	
	支給材使用率	0.3						0.0						0.0						97.9						36.7			
合計	小計(本)	7,890	7,890	0	0	0	20	316	316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	138	122	16	1,601	55	2,824	8,344	1,601	55	(2,844)	
	合計(本)	7,910						316						0						4,618						12,844			
	支給材使用率	0.3						0.0						0.0						97.0						35.0			
特殊樹	樹木(本)	208	208	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	210	2	0	(0)	
	株物(株)	8,030	8,030	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12	0	14	0	0	8,042	14	0	(0)	
	株物(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
地被類	芝生(m ²)	25,772	25,772	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,260	1,260	0	14	0	0	27,032	14	0	(0)	
	草本地被(株)	19,873	19,873	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,938	21,478	1,460	6,499	3,159	0	42,811	6,499	3,159	(0)	
	草本地被(m ²)	393	393	0	0	0	0	786	786	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,594	5,594	0	0	1,967	0	6,773	0	1,967	(0)	
	木本地被(株)	799	799	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	799	0	0	(0)	

所管 樹種 種別		霊園・葬儀所																					
		東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						指定管理者						小計			
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入	支給	苗圃	産労支給
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産							
樹木	針葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	(0)	
	常緑樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(16)	
	落葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	20	0	20	5	20	0	(20)	
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	20	0	36	6	20	0	(36)	
	支給材使用率	0.0						0.0						90.3						90.3			
株物	常緑株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	15	150	7	0	15	(150)	
	落葉株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	10	0	0	35	(10)	
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	50	160	7	0	50	(160)	
	支給材使用率	0.0						0.0						96.8						96.8			
合計	小計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13	0	20	50	196	13	20	50	(196)	
	合計(本)	0						0						279						279			
	支給材使用率	0.0						0.0						95.3						95.3			
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	株物(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
地被類	芝生(m ²)	0	0	0	0	0	274	274	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	274	0	0	(0)	
	草本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	838	838	0	216	0	180	838	216	0	(180)	
	草本地被(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	132	132	0	0	0	0	132	0	0	(0)	

所管 樹種	動物園												合計								
	東部公園緑地事務所						指定管理者														
	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	小計								
	総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				購入	支給	苗圃	産労支給	購入	支給	苗圃	産労支給	支給率
樹木	針葉樹(本)	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	51	12	0	0	51	767	0	0	(51)	6.2
	常緑樹(本)	943	943	0	0	3	0	0	0	0	0	105	943	0	3	105	1,248	311	3	(286)	32.5
	落葉樹(本)	259	259	0	0	5	0	0	0	0	0	35	259	0	5	35	781	52	10	(115)	18.5
	計(本)	1,214	1,214	0	0	8	0	0	0	0	0	191	1,214	0	8	191	2,796	363	13	(452)	22.8
	支給材使用率	0.7						100.0						14.1				22.8			
株物	常緑株物(本)	3,295	3,295	0	0	0	0	0	0	0	0	35	3,295	0	0	35	6,405	1,116	15	(2,021)	33.0
	落葉株物(本)	1,871	1,871	0	0	0	0	0	0	0	0	40	1,871	0	0	40	5,536	142	85	(833)	16.1
	計(本)	5,166	5,166	0	0	0	0	0	0	0	0	75	5,166	0	0	75	11,941	1,258	100	(2,854)	26.1
	支給材使用率	0.0						100.0						1.4				26.1			
合計	小計(本)	6,380	6,380	0	0	8	0	0	0	0	0	266	6,380	0	8	266	14,737	1,621	113	(3,306)	25.5
	合計(本)	6,388						266						6,654				19,777			
	支給材使用率	0.1						100.0						4.1				25.5			
特殊樹	樹木(本)	437	437	0	0	0	0	0	0	0	0	0	437	0	0	0	647	2	0	(0)	0
	株物(株)	1,310	1,310	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,310	0	0	0	9,352	14	0	(0)	0
	株物(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0
地被類	芝生(m ²)	713	713	0	0	0	0	0	0	0	0	0	713	0	0	0	28,019	14	0	(0)	0
	草本地被(株)	9,006	9,006	0	0	0	0	1,773	1,773	0	0	0	10,779	0	0	0	54,428	6,715	3,159	(180)	16
	草本地被(m ²)	20,456	20,456	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,456	0	0	0	27,229	0	1,967	(0)	7
	木本地被(株)	7,867	7,867	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,867	0	0	0	8,798	0	0	(0)	0

(3) 過去40年間における都立公園等の植栽実績（昭和55年度から令和元年度）

年度	種別	針葉樹	常緑樹	落葉樹	合計	支給材率%
昭和55年度	高中木(本)	1,165	3,788	2,053	7,006	
昭和56年度	高中木(本)	469	4,661	2,421	7,551	86
昭和57年度	高中木(本)	1,410	4,128	3,425	8,963	67
昭和58年度	高中木(本)	1,063	9,538	5,369	15,970	61
昭和59年度	高中木(本)	445	4,425	3,977	8,847	32
昭和60年度	高中木(本)	602	9,448	5,753	15,803	14
昭和61年度	高中木(本)	692	10,864	5,325	16,881	17
昭和62年度	高中木(本)	762	14,589	4,946	20,297	13
昭和63年度	高中木(本)	447	10,052	5,159	15,658	11
	低木(株)	0	158,951	74,436	233,387	7
平成元年度	高中木(本)	187	4,765	2,245	7,197	10
	低木(株)	0	91,836	27,355	119,191	8
平成2年度	高中木(本)	212	7,428	6,172	13,812	24
	低木(株)	0	84,338	28,092	112,430	33
平成3年度	高中木(本)	508	16,127	5,513	22,148	8
	低木(株)	0	166,926	62,093	229,019	11
平成4年度	高中木(本)	331	5,240	1,751	7,322	12
	低木(株)	0	48,632	11,894	60,526	21
平成5年度	高中木(本)	291	3,034	1,405	4,730	16
	低木(株)	0	32,027	14,062	46,089	17
平成6年度	高中木(本)	891	2,120	2,327	5,338	18
	低木(株)	0	57,765	28,383	86,148	42
平成7年度	高中木(本)	379	4,556	2,123	7,058	16
	低木(株)	0	68,235	35,956	104,191	14
平成8年度	高中木(本)	96	2,827	1,904	4,827	14.6
	低木(株)	0	49,234	15,683	64,917	15.1
平成9年度	高中木(本)	230	5,551	1,789	7,570	10.3
	低木(株)	0	22,970	17,861	40,831	9.1
平成10年度	高中木(本)	301	3,453	1,974	5,728	13.2
	低木(株)	0	21,132	11,947	33,079	9.9
平成11年度	高中木(本)	74	3,504	1,661	5,239	10.8
	低木(株)	0	28,749	8,752	37,501	9.6
平成12年度	高中木(本)	72	3,776	1,568	5,416	6.8
	低木(株)	0	11,452	14,642	26,094	1.9
平成13年度	高中木(本)	9	1,062	658	1,729	6.2
	低木(株)	0	16,489	10,094	26,583	1.9
平成14年度	高中木(本)	447	1,064	1,942	3,453	3.8
	低木(株)	0	27,043	16,214	43,257	0.2
平成15年度	高中木(本)	58	1,934	1,660	3,652	7.7
	低木(株)	240	23,665	10,870	34,775	0.1
平成16年度	高中木(本)	101	1,088	1,267	2,456	3.9
	低木(株)	0	21,951	11,518	33,469	0.0
平成17年度	高中木(本)	324	2,284	1,716	4,324	4.6
	低木(株)	0	17,159	13,144	30,303	5.0
平成18年度	高中木(本)	13	1,062	1,203	2,278	5.7
	低木(株)	0	20,470	7,223	27,693	0.5
平成19年度	高中木(本)	2	600	849	1,451	4.1
	低木(株)	0	12,989	4,502	17,491	0.1
平成20年度	高中木(本)	228	2,199	1,189	3,616	32.7
	低木(株)	0	31,815	11,228	43,043	11.1
平成21年度	高中木(本)	165	1,885	1,460	3,510	5.2
	低木(株)	0	37,864	11,075	48,939	6.7
平成22年度	高中木(本)	69	11,625	8,468	20,162	5.4
	低木(株)	50	21,492	5,559	27,101	0.6
平成23年度	高中木(本)	234	15,805	7,070	23,109	13.1
	低木(株)	0	11,028	3,915	14,943	35.8
平成24年度	高中木(本)	273	3,372	5,982	9,627	24.8
	低木(株)	0	21,626	4,085	25,711	21.6
平成25年度	高中木(本)	353	3,319	1,065	4,737	26.9
	低木(株)	0	11,689	6,067	17,756	18.6
平成26年度	高中木(本)	307	4,296	1,983	6,586	23.4
	低木(株)	0	9,105	3,107	12,212	23.6
平成27年度	高中木(本)	36	4,150	1,420	5,606	30.6
	低木(株)	0	13,673	2,890	16,563	7.2
平成28年度	高中木(本)	345	1,547	1,697	3,589	30.0
	低木(株)	0	13,183	4,566	17,749	24.2
平成29年度	高中木(本)	1,490	2,483	1,656	5,629	33.6
	低木(株)	0	9,985	6,473	16,458	29.5
平成30年度	高中木(本)	4	617	653	1,274	28.1
	低木(株)	0	26,191	17,989	44,180	7.6
令和元年度	高中木(本)	818	1,848	958	3,624	22.8
	低木(株)	0	9,557	6,596	16,153	26.1

※平成23年度からの「支給材率」には「産労支給材」も含む。

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種(高・中・低木別)

高木

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	アカテツ (334)	ニオイヒバ (250)	サクラ類 (212)	サクラ類 (238)	カエデ類 (170)
2	テリハハマボウ (146)	サクラ類 (118)	タコノキ (82)	カエデ類 (84)	サクラ類 (157)
3	コブガシ (62)	ソヨゴ (48)	シラカシ (67)	シラカシ (82)	シラカシ (67)
4	タコノキ (50)	ナツツバキ (30)	カエデ類 (54)	エゴノキ (19)	ニオイヒバ (50)
5	サクラ類 (42)	ヒメツバキ (26)	モモタマナ (29)	コナラ (17)	アメリカデイゴ (40)
6	ツバキ (40)	ヤブニッケイ (21)	モッコク (27)	クヌギ (12)	ナンキンハゼ (40)
7	ヤマボウシ (27)	テリハボク (20)	コナラ (21)	ソヨゴ (12)	テリハボク (32)
8	サルスベリ (24)	カクレミノ (15)	ヤマボウシ (19)	イヌシデ (11)	ソヨゴ (29)
9	テリハボク (20)	コブシ (15)	モチノキ (16)	常緑ヤマボウシ (11)	ネムノキ (28)
10	カエデ類 (15)	スダジイ (15)	ヤブツバキ (11)	モチノキ (10)	ハナカイドウ (20)
			クヌギ (11)	ヤマボウシ (10)	マテバシイ (20)

中木

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	イヌツゲ (5,797)	イヌツゲ (2,005)	イヌツゲ (431)	トキワマンサク (112)	マサキ (182)
2	ヒサカキ (1620)	マユミ (863)	カナメモチ (189)	キョウチクトウ (85)	トキワマンサク (140)
3	マユミ (147)	ネズミモチ (290)	サカキ (142)	イヌツゲ (65)	カナメモチ (136)
4	シャリンバイ (103)	カナメモチ (122)	トキワマンサク (80)	マユミ (62)	イヌツゲ (56)
5	シマモクセイ (74)	トキワマンサク (71)	キンモクセイ (57)	シマシャリンバイ (46)	サザンカ (49)
6	ネズミモチ (71)	シマシャリンバイ (62)	ヒイラギモクセイ (44)	ギンモクセイ (27)	オリーブ (48)
7	ハナカイドウ (38)	キンモクセイ (52)	ギンモクセイ (27)	セイヨウカナメモチ (26)	シャクナゲ (47)
8	トキワマンサク (34)	ライラック (52)	ロウバイ (18)	ハナカイドウ (18)	スモークツリー (40)
9	ヤブツバキ (31)	ヒサカキ (32)	ウバメガシ (17)	ライラック (17)	キョウチクトウ (24)
10	シマシャリンバイ (27)	リンゴ (17)	マサキ (17)	ヤブツバキ (16)	セイヨウヒイラギ (23)

低木

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	サツキツツジ (6,059)	サツキツツジ (4,215)	サツキツツジ (3,119)	サツキツツジ (5,449)	サツキツツジ (2,866)
2	オオムラサキツツジ (1,852)	クルメツツジ (2,680)	ドウダンツツジ (1,534)	ヒペリカムカリシナム (4,165)	オオムラサキツツジ (1,159)
3	ドウダンツツジ (849)	アジサイ (1,500)	アベリア (1,514)	アジサイ (3,890)	ヤマブキ (1,058)
4	ヤマブキ (805)	ドウダンツツジ (1,245)	ナンテン (1,236)	ラベンダー (2,580)	ユキヤナギ (946)
5	ビヨウヤナギ (431)	オオムラサキツツジ (1,157)	アジサイ (1,196)	ユキヤナギ (2,409)	クルメツツジ (940)
6	アセビ (345)	アセビ (951)	レンギョウ (1,115)	ヒペリカムヒデコート (2,225)	クチナシ (896)
7	ヒラドツツジ (314)	シャリンバイ (947)	ハクビヤクシン (1,080)	ドウダンツツジ (1,350)	シャリンバイ (892)
8	アジサイ (269)	ヤマブキ (486)	クリシマツツジ (1,063)	ヤマブキ (1,311)	アジサイ (779)
9	ユキヤナギ (235)	アベリア (428)	キンシバイ (965)	クルメツツジ (1,113)	ハイビヤクシン (734)
10	シモツケ (229)	ノイバラ (322)	ユキヤナギ (850)	クリシマツツジ (1,075)	ドドナセア (580)

4. 委託調査一覧 (R1年度)

R1年度に実施された主な調査委託

◆調査委託(R1年度)

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
府中の森公園土壌調査	R1.10.3～ R1.12.13	府中の森公園	公園緑地部	土壌汚染の有無を調査するため、計画、関係資料収集、現地踏査、土壌及び土壌ガス採取、土壌分析、試験結果の整理等を実施した。
府中の森公園土壌調査その2	R2.1.28～ R2.3.27	府中の森公園	公園緑地部	土壌汚染の有無を調査するため、計画、関係資料収集、現地踏査、土壌及び土壌ガス採取、土壌分析、試験結果の整理等を実施した。
都立公園水質改善事業の委託	R1.6.7～ R2.3.31	猿江恩賜公園ほか6公園	公園緑地部	池環境改善を目的として、かいぼりを実施するとともにモニタリングを行った。
多様な生物が生息する都立公園づくりの事業見直し検討調査委託	R1.6.19～ R2.3.23	小山田緑地ほか17公園	公園緑地部	生物多様性事業について、既整備公園のモニタリング等を踏まえ事業評価を行い、本事業の再構築を実施した。
都立公園土壌調査委託	R1.11.11～ R2.3.31	舎人公園	東部公園緑地事務所	土壌汚染の有無を調査するため、計画、関係資料収集、現地踏査、土壌及び土壌ガス採取、土壌分析、試験結果の整理等を実施した。
和田堀公園地歴調査委託	R1.5.13～ R1.7.31	和田堀公園	東部公園緑地事務所	土地利用の履歴等を把握するための調査を実施した。
石神井公園地歴調査委託	R1.6.24～ R1.10.1	石神井公園	東部公園緑地事務所	土地利用の履歴等を把握するための調査を実施した。
城北中央公園地歴調査委託	R1.7.15～ R1.9.30	城北中央公園	東部公園緑地事務所	土地利用の履歴等を把握するための調査を実施した。
篠崎公園地歴調査委託	R1.12.9～ R2.3.26	篠崎公園	東部公園緑地事務所	土地利用の履歴等を把握するための調査を実施した。
東白鬚公園土壌調査委託	R1.6.3～ R1.7.31	東白鬚公園	東部公園緑地事務所	土壌汚染の有無を調査するため、計画、関係資料収集、現地踏査、土壌及び土壌ガス採取、土壌分析、試験結果の整理等を実施した。
東白鬚公園土壌調査委託その2	R1.5.27～ R1.6.28	東白鬚公園	東部公園緑地事務所	土壌汚染の有無を調査するため、計画、関係資料収集、現地踏査、土壌及び土壌ガス採取、土壌分析、試験結果の整理等を実施した。
31土壌調査委託(篠崎公園)	H31.4.26 ～R1.7.10	篠崎公園	東部公園緑地事務所	土壌汚染の有無を調査するため、計画、関係資料収集、現地踏査、土壌及び土壌ガス採取、土壌分析、試験結果の整理等を実施した。
蘆花恒春園水質調査委託その2	R1.7.29～ R2.3.13	蘆花恒春園	東部公園緑地事務所	「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」及び「土壌汚染対策法」における指示措置に基づく地下水水質の測定及び測定結果を環境局に届け出る資料を作成した。
尾久の原公園環境調査委託	R1.8.26～ R2.3.31	尾久の原公園	東部公園緑地事務所	「荒川区東尾久七丁目地域ダイオキシン類土壌汚染対策計画」に基づく対策工事後の環境調査を実施した。 環境大気 一式、河川水 一式、覆土土壌 一式
都立公園池水質調査委託	H31.4.1～ R2.2.28	浜離宮恩賜庭園、上野恩賜公園、浮間公園、石神井公園、舎人公園、葛西臨海公園、和田堀公園	東部公園緑地事務所	都立公園の池について、特に水質監視の必要な池を対象に水質調査を行った。16項目 各池4回/年

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
石神井公園三宝寺池水生植物保護委託	H31.4.1～R1.12.5	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の保護及び増殖を図るとともに、本来の景観を回復させることを目的に、水生生物の保護管理を行った。
石神井公園三宝寺池植物群落復元追跡調査委託	H31.4.1～R2.2.28	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の復元のために実施している保護管理作業の効果について追跡調査を行い、今後の維持管理方法を検討した。
上野恩賜公園不忍池水質改善対策調査委託	R2.1.20～R2.2.28	上野恩賜公園	東部公園緑地事務所	不忍池の水質改善を実施する上で必要となる各種情報について調査・整理を行うとともに、調査結果に基づく具体的な水質改善方法の検討を行った。
水元公園苗圃管理委託	H31.4.1～R1.12.20	水元公園	東部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。
水元公園苗圃苗木診断委託	R1.9.24～R2.2.28	水元公園	東部公園緑地事務所	老木や生育状態が良くない樹木を整理し、苗圃運営の見直しを図るため、苗木の樹種や本数、状態等を調査した。
都立公園地歴調査	R1.11.1～R2.2.28	代々木公園、猿江恩賜公園、林試の森公園、浮間公園、青山公園	東部公園緑地事務所	土地利用の履歴等を把握するための調査を実施した。
和田堀公園ほか2公園生物多様性モニタリング調査委託	H31.4.1～R2.2.28	和田堀公園、石神井公園、代々木公園	東部公園緑地事務所	生物多様性保全整備工事後のモニタリング調査を行った。
和田堀公園ほか2公園生物多様性保全管理委託	H31.4.1～R2.2.28	和田堀公園、石神井公園、代々木公園	東部公園緑地事務所	生物多様性保全整備工事後の保全管理を行った。
都立動物園環境調査委託	H31.4.1～R2.3.19	多摩動物公園	東部公園緑地事務所	多摩動物公園において、園内工事近接地において猛禽類調査及び希少植物モニタリング調査を実施。
大戸緑地希少生物調査委託(31)	H31.4.1～R1.9.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	整備工事近接での希少猛禽類のモニタリング調査を実施した。
玉川上水緑道希少猛禽類調査委託	H31.4.1～R1.8.30	玉川上水緑道	西部公園緑地事務所	整備工事近接での希少猛禽類のモニタリング調査を実施した。
放射5号線整備に係る玉川上水緑道希少植物等保全検討調査委託	H31.4.1～R2.3.30	玉川上水緑道	西部公園緑地事務所	玉川上水緑道における希少植物の保全を目的として、その周辺の自然環境調査と、希少植物等の保全のための調査検討を実施した。
野山北・六道山公園希少生物調査委託(31)	H31.4.1～R2.9.30	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
野山北・六道山公園希少生物調査委託(31)その2	R1.10.5～R2.3.31	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
井の頭恩賜公園水質環境調査委託	H31.4.1～R2.3.25	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の状況を把握するため、水質調査、底質調査、プランクトン調査を実施した。
井の頭恩賜公園水草再生調査委託	H31.4.1～R2.3.25	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた資料として、水草調査等を実施した。

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
井の頭恩賜公園水生生物モニタリング業務運営委託	H31.4.1～ R2.3.31	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた水生生物のモニタリング調査、普及啓発、外来生物駆除を実施した。
武蔵野苗圃ほか1苗圃保護管理委託	H31.4.1～ R2.3.31	武蔵野公園、小宮公園	西部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。
武蔵野公園苗圃樹木診断委託	R1.9.19～ R1.10.31	武蔵野公園	西部公園緑地事務所	老木や生育状態が良くない樹木を整理し、苗圃運営の見直しを図るため、苗木の樹種や本数、状態等を調査した。
東大和公園樹林地追跡調査等業務委託(31)	H31.4.1～ R2.3.31	東大和公園	西部公園緑地事務所	東大和公園の多様性事業の整備評価及び樹林地管理のため、樹林地整備後の自然環境調査(計画準備、現地踏査、植物相調査、動物調査、現地状況調査)、報告書作成、樹林地整理等を実施した。
八国山緑地樹林地追跡調査等業務委託(31)	H31.4.1～ R2.3.31	八国山緑地	西部公園緑地事務所	八国山緑地の多様性事業の整備評価及び樹林地管理のため、樹林地整備後の自然環境調査(計画準備、現地踏査、植物相調査、動物調査、現地状況調査)、報告書作成、樹林地整理等を実施した。
長沼公園樹林地追跡調査等業務委託(31)	H31.4.1～ R2.3.31	長沼公園	西部公園緑地事務所	長沼公園の多様性事業の整備評価及び樹林地管理のため、樹林地整備後の自然環境調査(計画準備、現地踏査、植物相調査、動物調査、現地状況調査)、報告書作成、樹林地整理等を実施した。
小山田緑地樹林地追跡調査等業務委託(31)	H31.4.1～ R2.3.31	小山田緑地	西部公園緑地事務所	小山田緑地の多様性事業の整備評価及び樹林地管理のため、樹林地整備後の自然環境調査(計画準備、現地踏査、植物相調査、動物調査、現地状況調査)、報告書作成、樹林地整理等を実施した。
井の頭恩賜公園水生植物管理育成委託	H31.4.1～ R2.3.31	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の土壌シードバンクから発芽した水草の育成管理を実施した。

月	3・4月	7・8月	9・10月	11・12月	1・2月	特別号
表紙/今月の花	ジンダイアケボノ クロモジ	ムクゲ ハマボウ ハイビスカス ハマゴウ	キンモクセイ センニンソウ ハギ ジュウガツザクラ	チャノキ ツワブキ スイセン イチョウ	雪吊り フクジュソウ ブンゴウウメ	ハナショウブ
紹介公園	神代植物公園 小山内裏公園 小宮公園 桜ヶ丘公園 野川公園 向島百花園	神代植物公園 東大和南公園 光が丘公園 日比谷公園 宇喜多公園 尾久の原公園 葛西臨海公園 潮風公園 夢の島公園 陵南公園 秋留台公園 武蔵国分寺公園 善福寺川緑地 芝公園 横網町公園	秋留台公園 府中の森公園 善福寺公園 中川公園 横網町公園 滝山公園 野山北・六道山公園 狭山公園 野川公園 浅間山公園 向島百花園 神代植物公園 蘆花恒春園 六義園 殿ヶ谷戸庭園 旧芝離宮恩賜庭園 砧公園 駒沢コニツク公園 夢の島熱帯植物園 浜離宮恩賜庭園	秋留台公園 野山北・六道山公園 小山内裏公園 神代植物公園 光が丘公園 上野恩賜公園 芝公園 日比谷公園 横網町公園 猿江恩賜公園 夢の島熱帯植物園 亀戸中央公園 葛西臨海公園 殿ヶ谷戸庭園 旧古河庭園 旧岩崎庭園 六義園 小石川後樂園 向島百花園 浜離宮恩賜庭園 旧芝離宮恩賜庭園 清澄庭園	小石川後樂園 旧古河庭園 小山田緑地 八王子霊園 小山内裏公園 小宮公園 桜ヶ丘公園 多磨霊園 府中の森公園 殿ヶ谷戸庭園 小金井公園 東大和南公園 小平霊園 井の頭恩賜公園 野川公園 神代植物公園 蘆花恒春園 砧公園 光が丘公園 大泉中央公園 小石川後樂園 六義園 旧岩崎邸庭園 旧古河庭園 向島百花園 浜離宮恩賜庭園 代々木公園 林試の森公園 台場公園 旧芝離宮恩賜庭園 清澄庭園 亀戸中央公園 葛西臨海公園 水元公園 八柱霊園	
花ごよみ (写真)	ワサビ		パンパスグラス オミナエシ			
花の実ごろ (写真)		ミヨウガ	サルナシ	ギンナン	クロガネモチ	
都立公園の お知らせなど	小宮公園・多摩動物公園 ユーカーリ紹介	都道の花見ごろ紹介 サルスベリ		旧岩崎邸庭園洋館		

花の実ごろ

今回は、山野等で実ごろを迎える、ミョウガを紹介いたします。



ミョウガ (茗荷)

ショウガ科ショウガ属 Zingiber mioga

ミョウガは、湿った日陰を好み乾燥を嫌います。古くから薬味等として利用されている身近な植物です。

都立公園イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

都道の花見ごろ紹介コーナー



サルズベリ (赤花・紫花)

夏季に入るといよいよ、サルズベリ (百日紅) の季節です。花の時期が長く、7月~10月の約百日花が咲きます。赤や白、中には紫色の花もあります。

◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1紙

登録番号 (2) 23

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365

花の見ごろ情報

2020
7・8

今月の花



ムクゲ



ハマボウ



ハイビスカス



ハマゴウ

Android版

iOS版

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



今月の花

ムクゲは、高さ3m～4m程の落葉小高木。

原産は中国で、日本には平安時代に渡来し、古くから庭木等で利用されてきました。花の少ない夏に大輪の花が咲くため、公園や街路樹として植えられており身近な樹木です。

花は早期に開花し、夕方には萎んでしまう一日花で、鑑賞用の他に生薬として利用され木槿花、木槿皮、木槿子はムクゲを利用します。

ムクゲは、神代植物公園、東大和南公園、光が丘公園、日比谷公園、宇喜田公園、尾久の原公園等でご覧いただけます。また、都道には中木として多くの路線で植栽されています。

ムクゲ
(木槿)

Hibiscus syriacus

アオイ科
フヨウ属

ハマボウ
(浜朴)

Hibiscus hamabo

アオイ科
フヨウ属

ハマボウは、高さ1m～5m程度の落葉樹木。

分布は太平洋側では千葉県より西で、日本海側では島根県隠岐諸島より南に分布し、耐塩性が強く湾内や河口の高潮線付近の塩湿地（普段は潮が引いているが満潮時は海水がかかる場所）に生育します。葉は緑色で丸く艶があり、縁は細かい鋸状となっています。最近、海岸保全工事に伴い生息域が減少しており、数を減らしている植物です。

ハマボウは、葛西臨海公園、潮風公園でご覧いただけます。

ハイビスカスは、本来アオイ科フヨウ属の属名。世界の熱帯地方に分布し1m～3mの常緑小高木。鮮やかな赤、ピンク、オレンジの花を咲かせ南国の花として親しまれています。

日本では伊豆半島より以南太平洋側の比較的暖かい地域で路地栽培が可能で、伊豆大島から小笠原諸島まで広い範囲で植栽が可能とされていますが、最近では東京湾沿岸の比較的暖かな地域でも見かけます。

ハイビスカスは、葛西臨海公園、夢の島公園でご覧いただけます。また、都道では八丈島 八重根神湊線に数多く植栽されています。

ハイビスカス

Hibiscus

アオイ目アオイ科の
下位分類フヨウ属



ハマゴウ
(浜栲)

Vitex rotundifolia

クマツヅラ科
ハマゴウ属

ハマゴウは、高さ1mほどの這性落葉小低木。

日本では暖かい海岸の砂浜などに多く生育する海浜植物です。ハマゴウは、花が香る（花香）ことから由来しており、古くから香草として利用されてきました。

ハマゴウは、葛西臨海公園、神代植物公園植物多様性センターでご覧いただけます。

サルスベリ
(百日紅・猿滑)

Lagerstroemia indica

ミソハギ科
サルスベリ属

サルスベリは、樹高2m～10mに成長する落葉小高木。

原産は中国南部で、樹皮がツルツルと滑らであり、猿も滑って落ちてしまう様子から名付けられました。花は今年に出た新しい枝先に花芽をつくり、7月～10月かけて次々と開花します。花期が長く「百日紅」ともいいます。

サルスベリは、陵南公園、秋留台公園、東大和南公園、武蔵野中央公園、善福寺川緑地、芝公園、横網町公園、夢の島公園でご覧いただけます。また、都道でも頻繁に目にすることができます。



神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10

☎042-483-2300

東大和南公園：東大和市桜が丘 2-106-2

☎042-562-1498

光が丘公園：練馬区光が丘 4-1-1

☎03-3977-7638

日比谷公園：千代田区日比谷公園 1-6

☎03-3501-6428

宇喜田公園：江戸川区北葛西 3-9

☎03-3636-9365

尾久の原公園：荒川区東尾久 7-1

☎03-3819-8838

葛西臨海公園：江戸川区臨海町 6-2-1

☎03-5696-1331

潮風公園：品川区東八潮 1-2

☎03-5500-0385

夢の島公園：江東区夢の島 2-1-2

☎03-3522-0281

陵南公園：八王子市長房町 1369

☎042-661-0042

秋留台公園：あきる野市二宮 673-1

☎042-559-6910

武蔵国分寺公園：国分寺市泉町 2-1-1

☎042-323-8123

善福寺川緑地：杉並区成田西 1-30-27

☎03-3313-4247

芝公園：港区芝公園 4-10-17

☎03-3431-4359

横網町公園：墨田区横網 2-3-25

☎03-3622-1208

※開花時期は年により変動します。花の見ごろ等につきましては事前に公園管理所までお問い合わせ下さい。

● 今月の花 ●



パンパスグラス



オミナエシ

● 花の実ごころ

今回は、神代植物公園で実ごころを迎える、サルナシを紹介いたします。



サルナシ (猿梨)
マタタビ科マタタビ属
Actinidia arguta

サルナシは、雌雄異種または雌雄雑居性の落葉性つる植物。山間地に自生するがマタタビより数は少なく見つけるのが難しい。実は小粒のキウイフルーツの様である。中国に自生するシナサルナシをニュージーランドに持ち込み品種改良したのがキウイフルーツである。

都立公園イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (2) 33

花の見ごろ情報

2020
9・10

● 今月の花 ●



キンモクセイ



センニンソウ



ハギ



ジュウガツザクラ

Android版

iOS版



都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」

今月の花

キンモクセイ (金木犀)

Osmanthus fragrans
var. *aurantiacus*

モクセイ科
モクセイ属

秋の訪れを告げる香りのよい花木といえば、キンモクセイでしょう。9月下旬～10月中旬に、直径4～5mmの小さな橙黄色の花を葉の付け根にびっしりと密生させて咲き、あたりに甘い香りを漂わせます。花が白色のギンモクセイの変種とされ、日本ではふつつ雄株しか植栽されていないため、果実を見ることはありません。金木犀の「犀」については、樹皮が動物のサイの皮に似ていることに由来するとも言われています。

秋留台公園のほか、府中の森公園、善福寺公園、中川公園、横網町公園などでご覧いただけます。また、都道でも頻繁に目にすることができます。

センニンソウ (仙人掌)

Clematis
terniflora

キンボウゲ科
センニンソウ属

日当たりのよい山野に多く見られるつる植物で、晩夏から初秋にかけて直径2～3cmの白い花を沢山つけます。4枚の花弁に見えるのは萼片で、ぱっと開いた多数の雄しべがよく目立ちます。花のあと花柱は3cmほどにのび、白く長い毛が密生するので、これを仙人のヒゲに見立てたことからこの名がついたとも言われます。茎や葉は、皮膚にかぶれを起こす有毒物質を含むので注意が必要です。

滝山公園のほか、野山北・六道山公園、狭山公園、野川公園、浅間山公園などでご覧いただけます。

ハギ (萩)

Lespedeza
thunbergii

マメ科
ハギ属

ハギは秋の七草のひとつで、古くは万葉集の歌にも数多く登場するなど、日本の秋には欠かせない植物です。ヤマハギやミヤギノハギなど、花色は紫紅色が主で、白色花をつける品種はシロバナハギと呼ばれます。小さな蝶形の花を密につけた長い枝は弧を描いて垂れ、風にそよぐ姿は奥ゆかしく美しい風情をかもし出します。

ハギのトンネルのある向島百花園をはじめ、神代植物公園、蘆花恒春園、六義園、殿ヶ谷戸庭園などでご覧いただけます。

ジュウガツザクラ (十月桜)

Cerasus x subhirtella
'Autumnalis'

バラ科
サクラ属

ジュウガツザクラは八重咲きであり、この点で同時期に咲く他の栽培品種と区別できます。名のごとく10月頃に咲きだし、冬の間断続的に小さい花が咲き、4月に多数咲く四季咲きのさくらです。花弁は淡紅色または紅色で、春に比べて秋には比較的小ぶりな花を開きます。'小彼岸'と同じようにマメザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられていて、江戸時代末期にはすでに栽培されていたようです。

旧芝離宮恩賜庭園や砧公園、神代植物公園などでご覧いただけます。

パンパスグラス (白銀葎)

Cortaderia
selloana

イネ科
シロガネヨシ属

高さ3mにもなる大型植物で、9～10月には大きなふさふさとした穂をつけます。銀白色の穂が秋風になびくさまはとて雄大です。原産地は南米で、アルゼンチンのパンパ(草原)等に大群落を作っています。

都内では、夢の島熱帯植物館、駒沢オリンピック公園や神代植物公園に植えられています。

オミナエシ (女郎花)

Patrinia
scabiosaefolia

オミナエシ科
オミナエシ属

オミナエシは秋の七草のひとつとして古くから日本人になじみのある高さ100cmほどになる植物です。北海道から九州に分布し、日の当たる高茎草原に生えて小群落となります。茎の上部に径4mmほどの黄色の花を多数散房状につけてその姿は美しいものがあります。「おみな」は「女性」の意、「えし」は古語の「へし(圧)」で、美女を圧倒する美しさから名づけられたともいわれています。秋の七草は、オミナエシのほか、ナデシコ、キキョウ、クズ、ススキ、ハギ、フジバカマの7種の野草をいいます。

向島百花園のほか、浜離宮恩賜庭園、神代植物公園などで、ご覧いただけます。

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ●秋留台公園：あきる野市二宮 673-1 | ☎042-559-6910 |
| ●府中の森公園：府中市浅間町 1-3-1 | ☎042-364-8021 |
| ●善福寺公園：杉並区善福寺 3-9-10 | ☎03-3396-0825 |
| ●中川公園：足立区中川 5-1-1 | ☎03-3629-8164 |
| ●横網町公園：墨田区横網 2-3-25 | ☎03-3622-1208 |
| ●滝山公園：八王子市丹木町 3-81 | ☎042-623-1615 |
| ●野山北・六道山公園：武蔵村山市三ツ木 4-2 | ☎042-531-2325 |
| ●狭山公園：東村山市多摩湖町 3-17-19 | ☎042-393-0154 |
| ●野川公園：三鷹市大沢 6-4-1 | ☎0422-31-6457 |
| ●浅間山公園：府中市浅間町 4-19 | ☎042-361-6861 |
| ●向島百花園：墨田区東向島 3-18-3 | ☎03-3611-8705 |
| ●神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10 | ☎042-483-2300 |
| ●蘆花恒春園：世田谷区粕谷 1-20-1 | ☎03-3302-5016 |
| ●六義園：文京区本駒込 6-16-3 | ☎03-3941-2222 |
| ●殿ヶ谷戸庭園：国分寺市南町 2-16 | ☎042-324-7991 |
| ●旧芝離宮恩賜庭園：港区海岸 1-4-1 | ☎03-3434-4029 |
| ●砧公園：世田谷区砧公園 1-1 | ☎03-3700-0414 |
| ●駒沢オリンピック公園：世田谷区駒沢公園 1-1 | ☎03-3421-6431 |
| ●夢の島熱帯植物館：江東区夢の島 2-1-2 | ☎03-3522-0281 |
| ●浜離宮恩賜庭園：中央区浜離宮庭園 1-1 | ☎03-3541-0200 |

旧岩崎邸庭園洋館紹介コーナー



旧岩崎邸庭園 イチョウ絨毯



旧岩崎邸庭園洋館からの眺め

花の実ごころ

今回は、実ごころを迎えるイチョウの実である、ギンナンを紹介いたします。



ギンナン

黄葉が進む中、イチョウの木にたわわに実るギンナンを目にすることができます。イチョウは雌雄異株で、雌の木に実がつきます。外側の柔らかい外種皮を取ると、堅い殻に包まれた種子が出てきます。

一般的に、加熱して食用に利用します。

都立公園イベント情報

都立公園イベント情報については

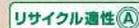
または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyو/park/hananomigoro/index.html>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (2) 41

花の見ごろ情報
2020
11・12

今月の花



チャノキ



ツワブキ



スイセン



イチョウ

Android 版

iOS 版

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



今月の花

チャノキはインド、ベトナム、中国原産の常緑樹。

チャノキ
(茶ノ木)

*Camellia
sinensis*

ツバキ科
ツバキ属

白く小さな花が下向きに咲き、花期は10月～12月。葉は光沢があり縁は鋸歯となっています。日本へは中国より渡来し緑茶用に温暖な地域で栽培されるようになりました。野山北・六道山公園の一部では、かつて狭山茶栽培を営んでいた畑が公園に編入され、茶畑として保存されています。また、五月頃には手もみ茶づくりのイベントも開催されます。

チャノキは、野山北・六道山公園、小山内裏公園、神代植物公園、殿ヶ谷戸庭園、小石川後楽園などでご覧いただけます。

ツワブキ
(艶蔞)

*Farfugium
japonicum*

キク科
ツワブキ属

ツワブキは太平洋側では福島県、日本海側では石川県より西の地域、朝鮮半島、中国東部～南部、台湾にかけて分布し、海岸近くの草原や岩場等に自生する常緑多年草。名前の由来は艶のある葉の蔞からツワブキと名付けられた説があります。花は10月～12月に黄・白い色の花を咲かせます。また、観賞用のほか食用としても利用されます。

ツワブキは、神代植物公園、殿ヶ谷戸庭園、清澄庭園、葛西臨海公園、小石川後楽園、六義園、旧芝離宮恩賜庭園、向島百花園などでご覧いただけます。

スイセン
(水仙)

Narcissus

ヒガンバナ科
スイセン属

スイセンはイベリア半島を中心に分布し、日本へは中国を経由して渡来したと言われています。日本では、本州の関東以西の比較的暖かい海岸近くの湿り気のある場所で見られ、南房総、越前海岸、淡路島の群生が有名です。

スイセンは、秋留台公園、神代植物公園、上野恩賜公園、芝公園、夢の島公園、葛西臨海公園、浜離宮恩賜庭園、旧古河庭園、清澄庭園などでご覧いただけます。

イチョウ
(銀杏)

*Ginkgo
biloba*

イチョウ科
イチョウ属

清々しい秋日和が続き、木々も色づき始めてきました。“東京都の木”であるイチョウは、雌雄異株の落葉高木で中国が原産。公園、街路樹、学校、神社仏閣等で良く見られるほか、実を食用にするなど、暮らしの中でも非常に馴染み深い木です。1億年ほど前から地球上に存在し、生きた化石とも言われますが、現在は中国と日本にしか植生していません。もっとも大きいものでは幹周10mにもなり、中には天然記念物となるものもあります。

イチョウは、神代植物公園、光が丘公園、日比谷公園、旧岩崎邸庭園、横網町公園、猿江恩賜公園、亀戸中央公園などでご覧いただけます。また、都道では行幸通り、神宮外苑の並木通りもおすすです。

～旧岩崎邸庭園～

この庭園は、越後高田藩江戸屋敷から元舞鶴藩知事・^{まさのすけしげ}牧野弼成、そして岩崎家本邸へと変遷し、往時には、1万5,000坪余りに20棟もの建物が並んでいました。第二次世界大戦後、国有財産となり、最高裁判所司法研修所等として利用されました。平成6年(1994年)に文化庁の所管となり、平成13年(2001年)東京都の管理となりました。昭和36年(1961年)に洋館と撞球室が重要文化財に指定されました。和館大広間は洋館東脇にある袖塀とともに昭和44年(1969年)に、さらに宅地、煉瓦塀を含めた屋敷全体と実測図が平成11年(1999年)に重要文化財に指定されました。このような経緯をもつ旧岩崎邸は、明治29年(1896年)に三菱創始者・岩崎家の本邸として建てられました。現存するのは洋館・撞球室・和館の3棟です。洋館・撞球室は、英国人ジョサイア・コンドル(1852～1920年)の設計。コンドルは、明治政府の招聘で、明治10年(1877年)、工部大学校造家学課程(現・東京大学工学部建築学科)の教師として来日し、大学で教鞭を執る傍ら、百を超える洋館を日本で建てました。旧岩崎邸は現存するコンドルの作品では最も古い建物で、邸宅建築の傑作と言われています。大名庭園の形式を一部踏襲している旧岩崎邸の庭は、本邸建設時に芝を張り、庭石・灯籠・築山が設けられました。建築様式同様に和洋併置式とされ、「芝庭」をもつ近代庭園の初期の形を残し、その後の日本の邸宅建築に大きな影響を与えました。

- | | | |
|------------|-------------------|---------------|
| ●秋留台公園 | ：あきる野市二宮 673-1 | ☎042-559-6910 |
| ●野山北・六道山公園 | ：武蔵村山市三ツ木 4-2 | ☎042-531-2325 |
| ●小山内裏公園 | ：町田市小山ヶ丘 4-4 | ☎042-676-8865 |
| ●神代植物公園 | ：調布市深大寺元町 5-31-10 | ☎042-483-2300 |
| ●光が丘公園 | ：練馬区光が丘 4-1-1 | ☎03-3977-7638 |
| ●上野恩賜公園 | ：台東区上野公園 5-20 | ☎03-3828-5644 |
| ●芝公園 | ：港区芝公園 4-10-17 | ☎03-3431-4359 |
| ●日比谷公園 | ：千代田区日比谷公園 1-6 | ☎03-3501-6428 |
| ●横網町公園 | ：墨田区横網 2-3-25 | ☎03-3622-1208 |
| ●猿江恩賜公園 | ：江東区毛利 2-13-7 | ☎03-3631-9732 |
| ●夢の島熱帯植物館 | ：江東区夢の島 2-1-2 | ☎03-3522-0281 |
| ●亀戸中央公園 | ：江東区亀戸 9-37-28 | ☎03-3636-2558 |
| ●葛西臨海公園 | ：江戸川区臨海町 6-2-1 | ☎03-5696-1331 |
| ●殿ヶ谷戸庭園 | ：国分寺市南町 2-16 | ☎042-324-7991 |
| ●旧古河庭園 | ：北区西ヶ原 1-27-39 | ☎03-3910-0394 |
| ●旧岩崎邸庭園 | ：台東区池之端 1-3-45 | ☎03-3823-8340 |
| ●六義園 | ：文京区本駒込 6-16-3 | ☎03-3941-2222 |
| ●小石川後楽園 | ：文京区後楽 1-6-6 | ☎03-3811-3015 |
| ●向島百花園 | ：墨田区東向島 3-18-3 | ☎03-3611-8705 |
| ●浜離宮恩賜庭園 | ：中央区浜離宮庭園 1-1 | ☎03-3541-0200 |
| ●旧芝離宮恩賜庭園 | ：港区海岸 1-4-1 | ☎03-3434-4029 |
| ●清澄庭園 | ：江東区清澄 3-3-9 | ☎03-3641-5892 |

花の实ごころ

今回は、クロガネモチを紹介いたします。



クロガネモチ（黒鉄精）モチノキ科モチノキ属

学名：Ilex rotunda

クロガネモチは、雌雄異種の常緑高木で1.5m程に成長する。

原産地は日本の本州中部～沖縄、朝鮮半島南部、台湾、中国南部等。

花は淡い白紫色で5月～6月に開花し、夏に青々とした直径5mm程の実となり、秋には赤く色づき野鳥の餌となる。また、樹皮に含まれる樹液には粘りがあり、とりもちの原料に用いられる。

名前に「カネ・モチ」が入っているため、縁起樹として庭木にも利用される。クロガネモチは、東大和南公園、光が丘公園、葛西臨海公園などでご覧いただけます。

都立公園イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1期

登録番号(2)49

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365

花の見ごろ情報

2021
1・2

今月の花



雪吊り：小石川後楽園



雪吊り：旧古河庭園



フクジュソウ



ブンゴウメ

Android版

iOS版

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



今月の花

概要

雪が枝に付着し、重みで折れないように縄で枝を吊るすこと。幹の近くに芯柱を立て、柱の先から各枝へと四方八方放射状に縄を張り吊るす手法。

歴史

明治初期に西洋りんごが石川県に導入され栽培が始まる。植栽後20年程経過した樹々は、たわわに実を付け、重みで枝折れを防ぐため幹に沿って柱を立てそこから縄で枝を吊り上げていたものを、植木職人が庭園に応用したことから「りんご吊り」とも言われている。

都立庭園等

雪の重みから枝折れを防ぐために施されるのが本来の目的であるが、あまり雪の降らない東京でも雪吊りを目にする事ができる。都立庭園等では冬の情緒を演出するため、松などに雪吊りを施し来園者を楽しませている。

雪吊りは、八王子霊園、桜ヶ丘公園、多磨霊園、殿ヶ谷戸庭園、小平霊園、神代植物公園、小石川後楽園、旧芝離宮恩賜庭園、旧古河庭園、清澄庭園、浜離宮恩賜庭園、向島百花園、六義園、代々木公園、台場公園などでご覧いただけます。

ブンゴウメは、ウメとアズキの交雑種で果実として栽培されるウメの一種。

原産地は大分県（豊後国）、落葉高木、樹高は5～6mほどで幹は直径20～30cmに成長する。

耐寒性が強く、花は淡紅色で一重または八重咲で、樹皮はウメの様に割れない。

実は大きく果肉も厚く梅干しやジャム等に用いられる。ブンゴウメは、神代植物公園、殿ヶ谷戸庭園、桜ヶ丘公園、大泉中央公園、小石川後楽園、六義園、亀戸中央公園、向島百花園、八柱霊園などでご覧いただけます。

原産地は、日本、朝鮮半島、中国の明るい落葉樹林等に自生する草丈20cmほどの多年草。

日暦の正月頃に黄金色の花を咲かせるので、新年を祝福する花として福寿草と命名され、元日草、朔日草（ついたちそう）、賀正蘭など多くの別名を用いることもある。

花は朝日とともに開花し、陽の光を追って動き陽が陰ると閉じるため、観察は晴れた日の午前中が見ごろ。フクジュソウは、小山田緑地、小山内裏公園、小宮公園、桜ヶ丘公園、府中の森公園、小金井公園、神代植物公園、殿ヶ谷戸庭園、野川公園、井の頭恩賜公園、蘆花恒春園、砧公園、旧岩崎邸庭園、林試の森公園、向島百花園、水元公園などでご覧いただけます。

ユキツリ
(雪吊り)

ブンゴウメ
(豊後梅)

Prunus mume
var. bungo

バラ科
サクラ属

フクジュソウ
(福寿草)

Adonis ramosa

キンポウゲ科
フクジュソウ属

- 小山田緑地：町田市下小山田町 361-10 ☎042-797-8968
- 小山内裏公園：町田市小山ヶ丘 4-4 ☎042-676-8865
- 八王子霊園：八王子市元八王子町 3-2536 ☎042-663-1533
- 小宮公園：八王子市暁町 2-41-6 ☎042-623-1615
- 桜ヶ丘公園：多摩市連光寺 5-15 ☎042-375-1240
- 多磨霊園：府中市多磨町 4-628 ☎042-365-2079
- 府中の森公園：府中市浅間町 1-3-1 ☎042-364-8021
- 殿ヶ谷戸庭園：国分寺市南町 2-16 ☎042-324-7991
- 小金井公園：小金井市関野町 1-13-1 ☎042-385-5611
- 東大和南公園：東大和市桜が丘 2-106-2 ☎042-562-1498
- 小平霊園：東村山市萩山町 1-16-1 ☎042-341-0050
- 井の頭恩賜公園：武蔵野市御殿山 1-18-31 ☎0422-47-6900
- 野川公園：三鷹市大沢 6-4-1 ☎0422-31-6457
- 神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10 ☎042-483-2300
- 蘆花恒春園：世田谷区粕谷 1-20-1 ☎03-3302-5016
- 砧公園：世田谷区砧公園 1-1 ☎03-3700-0414
- 光が丘公園：練馬区光が丘 4-1-1 ☎03-3977-7638
- 大泉中央公園：練馬区大泉学園町 9-4-3 ☎03-3867-8096
- 小石川後楽園：文京区後楽 1-6-6 ☎03-3811-3015
- 六義園：文京区本駒込 6-16-3 ☎03-3941-2222
- 旧岩崎邸庭園：台東区池之端 1-3-45 ☎03-3823-8340
- 旧古河庭園：北区西ヶ原 1-27-39 ☎03-3910-0394
- 向島百花園：墨田区東向島 3-18-3 ☎03-3611-8705
- 浜離宮恩賜庭園：中央区浜離宮庭園 1-1 ☎03-3541-0200
- 代々木公園：渋谷区代々木神園町 2-1 ☎03-3469-6081
- 林試の森公園：品川区小山台 2-6-11 ☎03-3792-3800
- 台場公園：港区台場一丁目地内 ☎03-5500-0385
- 旧芝離宮恩賜庭園：港区海岸 1-4-1 ☎03-3434-4029
- 清澄庭園：江東区清澄 3-3-9 ☎03-3641-5892
- 亀戸中央公園：江東区亀戸 9-37-28 ☎03-3636-2558
- 葛西臨海公園：江戸川区臨海町 6-2-1 ☎03-5696-1331
- 水元公園：葛飾区水元公園 3-2 ☎03-3607-8321
- 八柱霊園：千葉県松戸市田中新出 48-2 ☎047-3387-2181

お
司
合
せ
先

珍しい花

今回は、赤花除虫菊を紹介いたします。



アカバナジョチュウギク（赤花除虫菊） キク科ヨモギキク属

学名：Chrysanthemum coccineum

原産地：地中海沿岸 花言葉：貴方の為に耐えしのぶ

ジョチュウギク（白花）には「ピレトリン」という殺虫成分を多く含むため、蚊取り線香の原料に用いる。

アカバナジョチュウギクは殺虫成分の含有量が少ないので、主に観賞用に利用され花は6cm程の大輪の花を咲かせる。

都立公園イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyoku/park/hananomigoro/index.html>

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (2) 70

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365

花の見ごろ情報

2021
3・4

今月の花



シダレザクラ 小石川後樂園



キンラン

Android版

iOS版

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



今月の花

シダレザクラ (枝垂桜)

*Cerasus
spachiana
Pendula*

バラ科
サクラ属

シダレザクラは、樹高は大きなものでは10m程になる落葉高木で、江戸彼岸(エドヒガン)の枝垂れ性の名称。花は小ぶりで3月~4月頃に開花する。

神社仏閣、公園、学校等に植栽されておりよく目にすることができる。

天然記念物に指定されているような巨木がたくさんあり、また、花が淡い紅色のものを(ベニシダレ)といい、八重咲のものを(ヤエベニシダレ)という。八重咲きをする八重枝垂れ(ヤエシダレ)や紅色の濃い紅枝垂れ(ベニシダレ)などの園芸品種もある。

シダレザクラは、府中の森公園、小金井公園、東大和南公園、神代植物公園、戸山公園、夢の島公園、尾久の原公園、水元公園、八柱公園、小石川後楽園、旧古河庭園、六義園などでご覧いただけます。

キンランは、ラン科キンラン属の多年草で、地生ランの一種。分布は本州の東北地方南部から九州 朝鮮半島、中国。

手入れが良くいきとどいている、明るい雑木林で目にすることができる。

キンラン (金蘭)

*Cephalanthera
falcata*

ラン科
キンラン属

草丈は30~70cm程度で、4月~6月頃に茎の先に小指の先程の大きさの黄色い花を房状に咲かせる。葉は狭楕円形状で長さ10cm前後、縦方向にしわが多い。柄は無く茎を抱き、7、8枚が互生する。キンランは、光合成の他にコナラなどの根に共生するイボタケやベニタケ等の菌根菌と共生し栄養を得ているため、単体で移植しても生育は難しい。

キンランは、小山田緑地、小山内裏公園、小宮公園、滝山公園、長沼公園、桜ヶ丘公園、浅間山公園、府中の森公園、小金井公園、東大和南公園、小平霊園、井の頭恩賜公園、殿ヶ谷庭園、小石川後楽園、旧古河庭園、清澄庭園などでご覧いただけます。

- 小山田緑地：町田市下小山田町 361-10 ☎042-797-8968
- 小山内裏公園：町田市小山ヶ丘 4-4 ☎042-676-8865
- 小宮公園：八王子市曙町 2-41-6 ☎042-623-1615
- 滝山公園：八王子市丹木町 3-81 (駐車場) ☎042-623-1615
- 長沼公園：八王子市長沼町、下柚木、堀之内 ☎042-375-1240
- 桜ヶ丘公園：多摩市連光寺 5-15 ☎042-375-1240
- 浅間山公園：府中市多磨町 2-24-1 ☎042-361-6861
- 府中の森公園：府中市浅間町 1-3-1 ☎042-364-8021
- 小平霊園：東村山市萩山町 1-16-1 ☎042-341-0050
- 殿ヶ谷庭園：国分寺市南町 2-16 ☎042-324-7991
- 小金井公園：小金井市関野町 1-13-1 ☎042-385-5611
- 東大和南公園：東大和市桜が丘 2-106-2 ☎042-562-1498
- 井の頭恩賜公園：武蔵野市御殿山 1-18-31 ☎0422-47-6900
- 神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10 ☎042-483-2300
- 戸山公園：新宿区大久保 3-5-1 ☎03-3200-1702
- 夢の島公園：江東区夢の島 2-1-2 ☎03-3522-0281
- 尾久の原公園：荒川区東尾久 7-1 ☎03-3819-8838
- 水元公園：葛飾区水元公園 3-2 ☎03-3607-8321
- 八柱公園：千葉県松戸市田中新田 48-2 ☎047-387-2181
- 小石川後楽園：文京区後楽 1-6-6 ☎03-3811-3015
- 六義園：文京区本駒込 6-16-3 ☎03-3941-2222
- 旧古河庭園：北区西ヶ原 1-27-39 ☎03-3910-0394
- 清澄庭園：江東区清澄 3-3-9 ☎03-3641-5892

お問合せ先

畑での花のみごろ

春先、収穫をしなかったアブラナ科の野菜が畑で花を咲かせているのを見かけることができる。

画像の左からキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー



キャベツ



ハクサイ



ブロッコリー



⑥刷毛ほかし

品種名：五月晴さつきばれ



⑥砂子

品種名：鳳凰冠ほうおうかん



⑦覆輪

品種名：長生殿ちようせいでん



⑧糸覆輪

品種名：鬼ヶ島おにがしま

Android版

iOS版

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigy/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号(2)82

花の見ごろ情報

特別号 ハナショウブ

ハナショウブは非常にたくさんの品種があり、花びらの色、模様、開き方、枚数などで品種を分けています。ここでは模様の種類（無地を含む）を紹介します。特徴がわかると、花との出会いがより楽しくなります。

※掲載した写真は水元公園または神代植物公園で撮影しました。



①無地

品種名：黒雲くろくも



②白筋

品種名：七福神しちふくじん



③脈

品種名：蛇籠の波じゃかこのなみ



④絞り

品種名：七小町ななこまち



内花被 (計3枚)

外花被 (計3枚)
外側に向いた最も大きい花びら

見かけ上の花びらの枚数
・3枚… 内花被が小さく、上の写真のように立っています。
3枚の外花被が目立ち、三英と呼ばれます。
・6枚… 内花被が外花被と同じぐらいの大きさになり、
合計6枚の花びらに見えるので六英と呼ばれます。

密標 (または目)
基部中央の黄色い部分

※ここでは外花被の特徴を説明します。

① 無地

写真の品種
‘黒雲’

模様がなく、単色の花びらがつきます。光の加減で濃淡や光沢が出ます。

六英。黒味のある濃い青紫色をしており、沸き立つ黒雲を思わせます。

② 白筋

写真の品種
‘七福神’

濃いめの地色に白い筋が何本も付きます。

三英。紅紫色の地に白筋が入ります。ぼかしたような淡い色合いがきれいです。

③ 脈

写真の品種
‘蛇籠の波’

白または薄めの地色に濃色の細い線が何本も入ります。

半八重で、花によって花びらの付き方は様々です。白地に青紫色の細い線が入ります。

④ 絞り

写真の品種
‘七小町’

濃色の地色に白い霜降り状の模様が入ります。

六英。紫色の地に絞りが全体に入ります。絞りは縁に向かって流したような筋状に見えます。

⑤ 刷毛ぼかし

写真の品種
‘五月晴’

白い地色に刷毛ではいたような淡い色がつき、濃色の筋が入ることもあります。刷毛目ぼかしともいいます。

六英。白地に淡い赤紫色のぼかしが入ります。ぼかし部分の繊細な色合いが美しいです。

⑥ 砂子

写真の品種
‘鳳凰冠’

微細な点が砂を撒いたように無数につきます。点は一様についていないので、花びらの色に濃淡が表れます。

三英。基部は白く、その周りに赤紫色の濃い砂子となります。同色の脈も入ります。

⑦ 覆輪

写真の品種
‘長生殿’

外縁部に太い縁取りが入ります。

六英。外縁部は紅紫色で中は白。白色部分の縁は白筋となって覆輪に入ります。

⑧ 糸覆輪

写真の品種
‘鬼ヶ島’

外縁部に糸のように細い縁取りが入ります。※上記砂子の鳳凰冠にも糸覆輪が入っています。

六英。紅紫の地色に短い白筋や白い絞りがごくわずかに入ります。糸覆輪の部分は白です。

令和2年度 都立公園における都民協働団体一覧表

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
1	1	青山公園	青山サクラの会	花壇づくり、清掃	2
2	2	赤塚公園	赤塚公園ニリンソウを守る会	ニリンソウの自生地手入れ ニリンソウ観察デイ クリーンアップデイ 観察会	43
	3	赤塚公園	みどりの手	雑木林の復活プロジェクト ニリンソウ観察デイ クリーンアップデイ	20
	4	赤塚公園	いたばし水とみどりの会	パッタ広場の手入れ 自然観察会	33
	5	赤塚公園	NPO法人 いた・エコ・ネット	どんぐりまつり 花壇づくり	25
	6	赤塚公園	赤塚公園植物モニタリング活動	植物管理活動・保護活動	26
	7	赤塚公園	徳丸北野神社田遊び保存会	ニフトコ成育観察・保存活動	26
	3	8	秋留台公園	野草愛好会	野草園の維持管理、公園内花壇の花苗植付け・除草、公園イベントの手伝い
4	9	井の頭恩賜公園	井の頭かんさつ会	自然観察会の開催 外来生物駆除	22
	10	井の頭恩賜公園	あか井の	ガイドツアー、イベントの参画 公園整備作業	18
5	11	上野恩賜公園	上野桜守の会	桜の調査、後継樹育成、マップ・HP作成、募金活動など	50
6	12	宇喜田公園	宇喜田ハーブボランティア	花壇維持管理	20
7	13	浮間公園	フレールラビッツ浮間	清掃活動・花壇手入れ	7
8	14	大泉中央公園	いずみの会	花の手入れ	2
9	15	大島小松川公園	たんぼぼ	花壇維持管理	4
	16	大島小松川公園	わんず・どりー夢	犬のマナー啓蒙、清掃活動	100
	17	大島小松川公園	大島小松川ガーデンボランティア	花壇維持管理	14
10	18	大戸緑地	大戸源流森の会	公園内自然環境保護活動、体験学習等イベント活動	20
11	19	尾久の原公園	尾久の原愛好会	公園の自然観察、稀少植物保護	17
	20	尾久の原公園	尾久の原公園花の会	花壇作り、花の植込み、管理	6
	21	尾久の原公園	尾久の原公園カバグループ	花壇作り、花の植込み、管理	2
	22	尾久の原公園	尾久の原公園おそうじ隊	園内の清掃・雑草除草	2
	23	尾久の原公園	尾久の原公園わんにゃんパトロール	愛犬家へのマナー向上呼びかけと糞の清掃	15
12	24	小山内裏公園	小山内裏公園谷戸山の会	樹林の保護・保全、安全管理、管理者の作業を支援、自然教室・イベント支援	16
	25	小山内裏公園	小山内裏公園畑ボランティアグループ	野菜栽培、近隣小学校・保育団体学習実施、イベント支援	21
	26	小山内裏公園	小山内裏公園花壇グループ	パークセンター正面(コンクール花壇)横の花壇他の手入れ。イベント支援	10
	27	小山内裏公園	子どもの居場所・どんぐり分校	子どもの居場所作り、南大沢学園喫茶指導、子育て支援、イベント支援	20
	28	小山内裏公園	小山内裏公園わんわんサポーターズ	ドッグラン運営・整備、園内ゴミ拾い。犬のマナーアップ、イベント支援	183
	29	小山内裏公園	巡回グループ	パークモニターとして園内防犯、防災、パトロール、ゴミ拾い、イベント支援	17
	30	小山内裏公園	ラ・ヴェルデ	音楽グループ、水曜日コンサート、歌声喫茶	11
	31	小山内裏公園	小山内裏公園 ボランティア連絡会	公園ボランティアグループ全体の活動拠点、イベントを協議運営	278
13	32	小山田緑地	小山田緑地たんぼぼの会	稲作・畑作活動	87
	33	小山田緑地	NPO法人鶴見川源流ネットワーク	公園自然環境保護活動(草刈り、生き物調査等)	6
	34	小山田緑地	鶴見川源流自然の会	みはらし広場での野外談話室の開催やエコパッチ管理	15
	35	小山田緑地	梅木窪の会	梅木窪分園での野外談話室の開催やアサザ池管理	12
	36	小山田緑地	フローラクイーン	大久保分園での花壇づくり	6
	37	小山田緑地	小山田緑地里山倶楽部	園内の環境保全活動等	10
14	38	葛西臨海公園	葛西臨海公園 グリーンボランティア	花壇づくり	30
	39	葛西臨海公園	葛西臨海公園 ひがた・たんぼ倶楽部	鳥類園での環境学習・維持管理活動	15
	40	葛西臨海公園	葛西東渚・鳥類園友の会	鳥類園自然保護活動	15
15	41	亀戸中央公園	三地区亀戸学童少年野球連盟	多目的広場とその周辺の整備	160
	42	亀戸中央公園	かめいど花の会	B地区及びC地区の花壇	6
16	43	砧公園	砧公園友の会砧パークアカデミー(KPA)	花壇づくり、花木の剪定など	118
	44	砧公園	Kinuta Park Tokyo e-Dog club	犬連れ飼い主のマナーアップ活動	5
17	45	木場公園	木場公園友の会	都市緑化植園の維持管理、噴水前花壇等花壇の維持管理、SC主催イベントへの協力など	75
	46	木場公園	江東植物愛好会	帰化植物見本園の維持管理(友の会と連携)、イベント開催など	30
	47	木場公園	木場プレーパークぼうけん隊	子供たちの公園での遊びを通じて公園の魅力を発信	13
	48	木場公園	木場公園ドッグランサポーターズ	ドッグランの清掃・管理、しつけ教室開催によるマナーアップ活動	22
	49	木場公園	中地区愛好会(千石一丁目長寿会・江東ワイズメンズクラブ)	中地区大花壇維持管理(木場公園友の会と協働)	24
	50	木場公園	ガールスカウト ケナフの会	園内の専用花壇でケナフを栽培し、来園者の地球環境保全認識を啓発している	6
	51	木場公園	ふとんりサイクル推進協議会	江東区の環境問題ボランティア	4
	52	木場公園	蘭友会	会員が育てた蘭の展示会、蘭の育て方教室の開催	40
	53	木場公園	緑の会	園内の植物を写生、作品をミドリアムに展示、スケッチ教室の開催	5
18	54	小金井公園	小金井公園 樹木の会	樹木及び梅林マップ作成、ガイド、園内イベント協力	23
	55	小金井公園	小金井公園 桜守の会	桜の育成管理(清掃、除草、苗木育成)、ガイド、園内イベント協力	29
	56	小金井公園	小金井公園 花の会	花壇管理、清掃、植栽、除草、園内イベント協力	29
	57	小金井公園	小金井公園 ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの清掃、飼い主への啓発活動、園内イベント協力	20
	58	小金井公園	小金井公園 野鳥の会	バードウォッチング、探鳥会、除草、清掃、園内イベント協力	1
19	59	駒沢オリンピック公園	駒沢公園 ドッグランサポートクラブ	ドッグランの運営管理	80
	60	駒沢オリンピック公園	NPO法人 グリーンバード 駒沢チーム	清掃	30
	61	駒沢オリンピック公園	nohara GREEN MATE	花壇づくり・管理	10
20	62	小宮・滝山公園	どんぐり会	花壇のお手入れ、野草や野鳥の観察会の開催、野鳥や植物の調査、草や希少種等の保全活動、外来種駆除作業、イベント支援、機関紙「どんぐり通信」の発行、展示作成ほか	48
21	63	桜ヶ丘公園	雑木林ボランティア	雑木林管理、谷戸田管理、農業文化継承活動、イベント開催、野草等保全調査活動 ほか	48
	64	桜ヶ丘公園・長沼公園・平山城址公園	丘陵地ボランティア	丘陵地レンジャーの活動支援、園内巡回清掃活動、雑木林管理、野草等保全調査活動、イベント開催 ほか	29
	65	桜ヶ丘公園	都立桜ヶ丘公園ドッグランサポーターズの会	ドッグランの管理運営、公園花壇整備	14
22	66	狭山公園	狭山公園友の会	花壇づくり、雑木林の手入れ、イベント協力など	40
23	67	狭山・境緑道	西東京・狭山境緑道花の会	花壇づくり、手入れ、清掃	7
	68	狭山・境緑道	こだいら観光まちづくり協会 狭山・境緑道 花街道ボランティア部会	花壇づくり、手入れ	17
	69	狭山・境緑道	東村山市小彼岸桜の会	樹木剪定、生育調査・管理	15
24	70	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(花の会)	花壇づくり、植栽	4
25	71	汐入公園	汐入公園ハーブボランティア	花壇作り	12

26	72	篠崎公園	篠崎公園友の会	花壇づくり、清掃	7
	73	篠崎公園	篠崎公園花笑会	花壇づくり、清掃	6
	74	篠崎公園	篠崎公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン運営	7
	75	篠崎公園	江戸川区グラウンド・ゴルフ協会	芝(草)刈り 花壇づくり	40
27	76	芝公園	森元みどりを楽しむ会	樹木の植樹、草花の植替え、草むしり	17
	77	芝公園	NPO法人 Green Works生物多様性グループ	花壇づくり、清掃、自然観察	7
28	78	石神井公園	石神井公園野鳥と自然の会	水辺観察園の維持管理(週1回)、自然観察会(月1回)、・「石神井公園 自然の見どころ」ポスター作成・掲示(月1回)、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、池水質調査、他	100
	79	石神井公園	ねりま・みどりと花の会	わーくわく花壇の維持管理(週1回)、野草観察園の維持管理(週1回)、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)	20
	80	石神井公園	練馬に自然を育む会	野草観察園の維持管理(月3回)	11
	81	石神井公園	石神井・冒険遊びの会	プレイパーク、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、管理所主催の防災訓練などに協力(年1~2回)	40
	82	石神井公園	NPO法人PLAYTANK(プレイタンク)	おひさまびよびよ(幼児向けプレイパーク)	40
	83	石神井公園	石神井絵を描く友の会	野外絵画展への作品提供(年2回)	30
29	84	城北中央公園	桜翠会「公園と緑を楽しむ会」	園内美化活動	18
	85	城北中央公園	城北 DOG WAN	ドッグラン活動	190
	86	城北中央公園	城北中央公園 友の会・すみれ会	植物管理活動	13
	87	城北中央公園	城北公園・四季の会	自然普及活動・自然環境管理・イベント活動	9
30	88	浅間山公園	浅間山自然保護会	自然環境保全作業、イベント運営、樹木調査	51
	89	浅間山公園・武蔵野公園	府中野鳥クラブ	自然環境保全作業、野鳥調査、野鳥観察会の運営	67
	90	浅間山公園・府中の森公園	浅間山ウォーキングクラブ	園内整備、イベント運営	25
31	91	善福寺川緑地	善福寺川さくらの会	花壇づくり、株物・低木剪定、イベントの企画・実施	12
	92	善福寺川緑地	和田堀プレーパーク	子供達の遊び場をベースとした地域交流	10
32	93	善福寺公園	善福寺白寿会	花壇づくり、清掃、自然観察	7
	94	善福寺公園	善福寺公園友の会・クリーン部会	ゴミ拾い	11
	95	善福寺公園	善福寺公園 友の会 剪定班	園内全域中低木の剪定と刈込み	12
	96	善福寺公園	自然愛護会杉並	杉並区内絶滅危惧種の保全と林緑環境の復元、観察会協力	15
	97	善福寺公園	トロールの森実行委員会	野外アート展、水辺の利用を考える。	150
	98	善福寺公園	ギャラリー・クアドロ	公園サービスセンター主催の展示やイベントの講師やサポート公園の自然情報や写真等の情報収集・提供	5
	99	善福寺公園	善福寺プレーパークの会	遊び場づくり	15
	100	善福寺公園	井荻万寿美会	花壇づくり	10
33	101	祖師谷公園	ハーブ木曜友の会	花壇の管理	15
	102	祖師谷公園	ポピークラブ	花壇の管理	28
34	103	滝山公園	NPO法人 滝山城址群・自然と歴史を守る会	維持管理・ガイド	75
35	104	舎人公園	ボランティア 花壇の会	ボランティア花壇及び周辺整備、苗植付け、自然環境保護活動	21
	105	舎人公園	舎人公園ボランティア 鳥の会	定期野鳥調査、イベント協力、自然環境意識の改革	11
	106	舎人公園	舎人・パークわんわんクラブ	マナーアップ啓蒙活動、ドッグラン内の清掃や簡単な補修	40
36	107	戸山公園	新着・戸山プレーパークの会	遊び場づくり	26
	108	戸山公園	戸山公園に心やすらぐ花壇を作る会	花壇管理	11
	109	戸山公園	個人ボランティア	花壇管理、側溝清掃	1
	110	戸山公園	陽だまりぼかぼか	花壇管理	11
	111	戸山公園	戸山公園フラワークラブ	花壇管理	19
	112	戸山公園	戸山楽しい花壇部	花壇管理	11
	113	戸山公園	内藤とうがらしプロジェクトFarm	花壇管理・イベント共催	5
37	114	中川公園	大谷田花の会	花壇作り	3
38	115	野川公園	野川公園緑の愛護ボランティアの会	自然環境保全活動、イベント運営	97
39	116	野山北・六道山公園	野山北・六道山公園ボランティア	里山の自然と文化を守る。雑木林、田畑、自然観察、伝統食など	436
	117	野山北・六道山公園	岸田んぼ会	田んぼづくりの指導	4
	118	野山北・六道山公園	日本野鳥の会奥多摩支部	雑木林の保全活動、自然観察会、野鳥写真展の開催	596
	119	野山北・六道山公園	武蔵村山自然に学ぶ会	雑木林の保全活動、自然観察会	46
40	120	東綾瀬公園	さくら組	花壇作り	4
	121	東綾瀬公園	ハーブボランティア	花壇作り	18
	122	東綾瀬公園	MKN会	花壇作り	7
	123	東綾瀬公園	綾瀬わんわんサポーター	美化活動	15
41	124	東村山中央公園	東村山市小彼岸桜の会	小彼岸桜生育管理、イベント協力	17
	125	東村山中央公園	東村山卒後の居場所準備室	花壇手入れ、清掃活動、イベント協力	10
	126	東村山中央公園	東村山中央公園小菊の会	小菊盆栽の仕立て、花壇手入れ、イベント協力	20
42	127	東大和南公園	花葉心雑草の会	ボランティア花壇の維持管理(花苗植付け・除草等)と公園イベントへの協力	15
43	128	光が丘公園	屋敷森の会	剪定、刈込、生き物・植生調査、ガイド	8
	129	光が丘公園	NPO法人みどり環境ネットワーク!	自然環境教育事業、自然観察会・イベント企画	80
	130	光が丘公園	認定NPO法人 生態工房	植生の維持管理、環境学習、外来動植物の駆除	120
	131	光が丘公園	光が丘カントウタンポポのなかま	カントウタンポポ自生地の維持管理、自然観察会、植生調査	20
	132	光が丘公園	特定非営利活動法人PLAYTANK	プレーパーク活動	24
	133	光が丘公園	光が丘公園花壇ボランティアの会	花壇育成、維持管理、腐葉土づくり	15
	134	光が丘公園	ツリーマスター クライミング アカデミー・南関東ブロック	木登り体験イベント	13
44	135	日比谷公園	NPO法人日本トビアリー協会	花壇づくり	7
	136	日比谷公園	株式会社メタルワン	花壇づくり	50
	137	日比谷公園	日比谷公園 花のボランティア	花壇づくり	10
	138	日比谷公園	株式会社帝国ホテル 環境委員会 フェニックスチーム	花壇づくり	15
	139	日比谷公園	日比谷花の会	花壇づくり	10
	140	日比谷公園	(公社)園芸文化協会・日比谷ローズ	バラ花壇の整備と普及啓発	25
	141	日比谷公園	デロイトトーマツ グループ	花壇づくり	40
	142	日比谷公園	ミモザ	花壇づくり	7
	143	日比谷公園	清和総合建物株式会社	花壇づくり	208
	144	日比谷公園	太陽石油株式会社	花壇づくり	10
	145	日比谷公園	日比谷公園 チームクリスマスローズ	コンテナ花壇づくり	4
45	146	府中の森公園	府中の森公園花壇管理友の会	花壇管理、園内清掃	30

46	147	水元公園	みずもと自然観察クラブ	自然観察、環境保全	60
	148	水元公園	イネ科花粉症を学習するグループ	水辺環境の再生・創出・保全	3
	149	水元公園	NPO法人水元ネイチャープロジェクト	自然環境の保全・保護	40
	150	水元公園	水元グリーンプラザ友の会	花壇整備ほか	36
	151	水元公園	水元公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン施設の運営	49
	152	水元公園	NPO法人 葛飾動物愛護の会	猫愛護活動	20
	153	水元公園	水元かわせみ倶楽部	自然環境保全、清掃・美化	39
	154	水元公園	大自然塾クラブ	自然環境の保全・保護・整備	15
	155	水元公園	エコシステムアカデミー水元	自然普及活動やイベント開催	21
47	156	武蔵国分寺公園	ドッグラン武蔵国分寺	犬を通じた地域交流(園内清掃、イベント運営等)	80
48	157	武蔵野公園	野川ほたる村	自然環境保全活動、イベント運営、ホテルの生息調査	41
49	158	武蔵野中央公園	武蔵野中央公園ガーデンサポーター	花壇整備	11
	159	武蔵野中央公園	グリーンパークフライヤーズ	イベント協力	70
	160	武蔵野中央公園	武蔵カイトクラブ	イベント協力、教室協力	10
	161	武蔵野中央公園	倶楽部原っぱ	園内整備、イベント協力	70
	162	武蔵野中央公園	紙飛行機教室の会	教室協力	25
50	163	武蔵野の森公園	ひまわりの会	花壇づくり、イベント参加	14
	164	武蔵野の森公園	府中野鳥クラブ	野鳥観察、野鳥観察会	65
	165	武蔵野の森公園	おはなしキャンプ	絵本の読み聞かせ、工作	6
	166	武蔵野の森公園	おはなし夢くらぶ	絵本の読み聞かせ、工作	12
	167	武蔵野の森公園	おはなしのたね	絵本の読み聞かせ	21
	168	武蔵野の森公園	調布飛行場の掩体壕を保存する会	掩体壕ガイドツアーなど	5
51	169	代々木公園	武蔵野バラ会	フラワーランドバラ花壇の管理	43
	170	代々木公園	代々木公園ボランティア	フラワーランドバラ花壇の管理、樹木観察会など	66
	171	代々木公園	NPO法人 日本コミュニティガーデニング協会	花壇管理およびハーブ講座	30
	172	代々木公園	代々木公園ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの管理運営等	7
	173	代々木公園	代々木公園ガーデニングクラブ	花壇管理	11
	174	代々木公園	特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所	花壇管理、清掃活動	10
52	175	陵南公園	IVUSA	イベントサポート、花壇づくり、園内清掃など	90
	176	陵南公園	ガーデンサポーター	花壇づくりなど	7
53	177	林試の森公園	森のアトリエ	自然工作教室	10
	178	林試の森公園	「林試の森フェスタ」実行委員会	年1回野外コンサート他開催	10
	179	林試の森公園	樹木観察会	季節の見どころを観察	20
	180	林試の森公園	ユーカーリガーデン	花壇管理	7
	181	林試の森公園	森ねこいる会	不幸な猫の擁護活動	36
54	182	蘆花恒春園	NPO法人蘆花会	イベント実施、蘆花記念館展示・資料調査協力等	150
	183	蘆花恒春園	NPO法人芦花公園花の丘友の会	花壇管理、イベント実施、とんぼ池及び自然観察資料館管理	72
	184	蘆花恒春園	蘆花恒春園ワンクラブ	ドッグラン管理運営、公園内イベント・パトロール協力	24
	185	蘆花恒春園	芦花公園しあわせの野音の会	音楽会(パークライブ)実施、かやぶきコンサート協力	14
55	186	六仙公園	六仙公園花ボランティア	花壇づくり、手入れ、清掃	12
56	187	和田堀公園	FIT杉並会	済美山自然林、観察の森の整備及び植生調査	25
	188	和田堀公園	済美山グリーンキープ	園内の清掃	15
	189	和田堀公園	ゆうゆう大宮堀ノ内館	花壇作り	4
56公園	189団体	開園公園		6,784人	

1	1	観音寺森緑地	観音寺の森	未開園地の維持管理、古損木の伐採や下草刈等	20
1公園	1団体	未開園公園			20人

1	1	旧岩崎邸庭園	茅町コンドル会	ガイド	71
	2	旧岩崎邸庭園	金唐紙友の会	金唐紙紙の普及啓発	18
	3	旧岩崎邸庭園	花ふじフワースクール	館内の花による装飾	30
2	4	旧芝離宮恩賜庭園	旧芝離宮恩賜庭園ガイドボランティアの会	庭園ガイド	23
3	5	旧古河庭園	旧古河庭園ボランティアガイドの会	庭園ガイド	43
	6	旧古河庭園	西ヶ原フワロード会	本郷通りの清掃、花苗植付・管理	13
	7	旧古河庭園	NPO法人 西ヶ原ローズページェント	春・秋 バラの苗木販売他	15
4	8	清澄庭園	清澄庭園ガイド倶楽部	庭園ガイド	43
5	9	小石川後楽園	文京区立 柳町小学校	田植え、案山子づくり、稲刈り	100
	10	小石川後楽園	NPO法人 小石川後楽園庭園保存会	イベント協力、調査活動	101
	11	小石川後楽園	小石川後楽園ガイドクラブ	庭園ガイド	52
6	12	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園ガイドボランティアの会	来園者への庭園ガイド活動	15
	13	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園花の会	施設内の花の生け込み活動	3
7	14	浜離宮恩賜庭園	浜離宮庭園ガイドクラブ	園内ガイド	33
	15	浜離宮恩賜庭園	NPO法人水辺と生物環境保全推進機構	園内大泉水環境調査・保護活動、環境学習	14
8	16	向島百花園	墨田朝顔愛好会	大輪朝顔展の開催	45
	17	向島百花園	百花園ガイドの会	庭園ガイド	35
	18	向島百花園	墨田区ラジオ体操連盟向島地区	清掃活動	40
9	19	六義園	六義園ガイド倶楽部	庭園ガイド	50
9庭園	19団体	庭園			744人

1	1	井の頭自然文化園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG458 SG 84
2	2	恩賜上野動物園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG 458 SG 137
	3	恩賜上野動物園	恩賜上野動物園樹木美化ボランティア	園内の樹木や花壇などの緑地管理の手伝い	19
3	4	葛西臨海水族園	東京シーライフボランティアーズ	園内の生物ガイド、イベント共催	166
4	5	神代植物公園	深大寺 人と緑と犬の会	清掃、しつけ教室、セラピー活動、会報発行など	60
	6	神代植物公園	22世紀の森づくり・神代	森林整備、イベントの開催	51
	7	神代植物公園	神代植物公園ガイドボランティアクラブ	公園のガイド活動	54
5	8	多摩動物公園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG 458 SG 87
	9	多摩動物公園	TAMAZO(たまぞう) 特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会	雑木林の保全管理による里山の再生、来園者に親しまれる森づくりなど	68
4動物園	6団体	動物園		*DGは3動物園の総数	1,016人
1植物園	3団体	植物公園			165人

1	1	雑司ヶ谷霊園	緑のこみちの会	花壇づくり、清掃	20
2	2	染井霊園	染井花の会	花壇管理	5
2霊園	2団体	霊園			25人

全箇所	全団体	全人数	
56公園	189団体	6,784人	計画・開園公園
1公園	1団体	20人	未開園公園
9庭園	19団体	744人	庭園
4動物園	6団体	1,016人	動物園
1公園	3団体	165人	植物公園
2霊園	2団体	25人	霊園
73園	220団体	8,754人	

6. バックナンバー目次（その1～その42）

その1<昭和47年度>

1. 公園地樹木の生育状態	1
(1) 生育被害調査	1
(2) 生育状態調査一覧表	7
(3) これらに関係ある委託報告などの要約	15
2. 公園緑地の土壌関係	20
(1) 土壌状態調査	20
(2) これが対策などについての委託・文献の要約	26
3. 公園緑地植栽・樹木利用度調査	32
(1) 公園造成にともなう植栽・樹木・株物の 利用状況について	32
(2) 公園造成における苗木の需要数量調査	34
(3) 公園街路等の植栽・樹木・株物の需要状況 (区役所関係)	38
(4) 既設公園などに植栽されている樹種順位	40
4. 公園緑地植栽・樹木の活着状況調査	42
(1) 土壌条件別、樹種別	42
(2) 活着状況調査	44
5. 公共用樹木の需供関係について	50
(1) 公共緑化用樹木の需要と生産などについて	50
(2) 苗木育成の課題	61
6. 都立公園等植栽設計上配慮すべき問題点	65

その2<昭和48年度>

1. 都立主要公園内外に於けるSO ₂ ・NO ₂ ・NO調査についての報告	1
2. 東京都内都市公園などの樹木生育障害状況について	2
3. 緑化樹木の耐都市環境性について	15
4. 公園緑地樹木の生育実態調査	23
5. 昭和47年度都立公園樹木活着率調査	33
6. 都立公園植栽樹種利用度などの調査	40
7. 昭和47年度委託調査の要約	47
(1) 東京湾埋立地緑化対策報告	47
(2) 公害対策試験並に緑化資料の蒐集と解析	50
(3) 植物材料(造園樹木)市場に関する調査	53
(4) 公園緑地の生態調査(樹木と土壌)	60
(5) 街路樹生態調査(その1)	62
(6) 街路樹に関する道路構造調査	63
8. その他資料	66
(1) マツノザイセンチュウ調査	66
(2) 主な都市緑化樹などの特性一覧表	67

その3<昭和49年度>

1. 昭和48・49年度委託調査の要約	1
(1) 都市緑化樹木の選出と植栽管理技術調査	1
(2) 東京港湾埋立地緑化対策	25
(3) 街路樹生態調査(その2)	45
(4) 街路樹の水分代謝に関する調査	53
(5) 街路樹の光合成能力に関する調査	62
2. 都立公園けやきの生育障害状況について	71
3. 都立公園の植栽地面積率について	85
4. 都立公園の植栽状況について	90
△ 植栽密度	
△ 形状別樹木構成	
△ 公園別主要景観構成木	
△ 昭和48年度都立公園植栽実績	
5. 都立公園の土壌調査について	101

その4<昭和50年度>

1. 植栽に対する基本的な考え方	1
2. 東京23区の緑地・樹木の実態調査集計報告(中間報告)	82
3. 東京都農業試験場における緑化に関する研究について	91
4. 都立公園土壌調査結果要約	95
5. 都立公園分類別植栽地率調査(昭和50年6月現在)	97
6. 昭和49年度都立公園・動物園・霊園植栽本数一覧表	98
7. 昭和49年度植栽主要樹種名一覧表	98
8. 昭和49年度都営苗圃・委託育成払出調査	100
9. 昭和49年度植栽樹木一覧表	101
10. 都立公園・霊園・動物園植栽調査	104
11. 緑化に関する収集文献資料リスト	110

その5<昭和51年度>

1. 土壌改良の手引き	1
2. 幹線道路における植樹帯の遮音効果	56
3. 歩道植樹帯における浮遊ふんじんの軽減効果	69
4. 東京都内の公園におけるカイガラムシの寄生調査	71
5. 東京都農業試験場における緑化に関する研究	73
6. 都市緑化対策推進要綱	80
7. 保存樹及び保存樹林の指定状況	83
8. 都立公園分類別植栽地率調査(昭和51年6月現在)	87
9. 昭和50年度都立公園・霊園・動物園・植栽本数一覧表	88
10. 昭和50年度都営苗圃・委託育成払出調査	88
11. 昭和50年度植栽樹木一覧表	90
12. 都立公園・霊園・物園樹木現況調査(昭和51年4月現在)	92
13. 昭和45~50年度都立公園・霊園・動物園における 植栽樹種順位	98
14. 東京都内街路樹管理者別数量調査	101

その6<昭和52年度>

1. 保全緑地公園における植生の保護及び 保全管理技術に関する調査	1
2. 防災公園の緑のあり方について	33
3. 樹木の生長曲線に関する調査	51
4. 樹木の根系の発達と土壌の関係について	60
5. 有機質土壌改良剤の緑化木への適用試験	64
6. 東京都農業試験場における緑化に関する研究	70
7. 八柱霊園のマツノザイセンチュウ病防除について	90
8. 昭和51年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	93-94
9. 昭和51年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	93-94
10. 昭和51年度植栽樹木一覧表	95
11. 東京都内街路樹管理者別数量調査	98

その7<昭和53年度>

1. 樹木の生長曲線に関する調査	1
2. 街路樹生長量追跡調査	11
3. 公園緑地樹木の生育実態調査	25
4. 海上公園の植栽について	34
5. 東京都農業試験場における緑化に関する研究	84
6. 区、市町別緑地現況調査	116
7. 都立公園分類別植栽地率調査	120
8. 昭和52年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	121
9. 昭和52年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	121
10. 昭和52年度植栽樹木樹種別一覧表	123
11. 東京都内街路樹管理者別数量調査	127

その8<昭和54年度>

1. 台風20号による樹木被害状況調査	1
2. 保存樹及び保存樹林の指定状況	16

3.	東京都農業試験場における緑化に関する研究	39
	(1) 観賞用針葉樹の特性および利用	40
	(2) 街路樹等緑化樹に発生する害虫とその被害実態	56
4.	樹木苗木生長量調査	78
5.	街路樹生長量追跡調査	81
6.	区・市町別緑地現況調査	92
7.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調査	98
8.	北部公園緑地事務所管内樹種調査	106
9.	駒沢公園樹種調査	107
10.	東京の都市公園における植栽樹種調査	108
11.	昭和53年度都知事管理道路植栽樹種別一覧表	111
12.	昭和53年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	113
13.	昭和53年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	113
14.	昭和53年度植栽樹木一覧表	115
15.	東京都内街路樹管理者別数量調査	117
16.	都立公園分類別植栽地率調査	119
17.	東京都街路樹年表	120
18.	東京都内樹木天然記念物一覧表	123
19.	東京気象表(抜粋)	125

その9<昭和55年度>

1.	日比谷公園生態調査	1
2.	造園植物特性	37
3.	都立公園・霊園・動物園サクラ現況調査	66
4.	樹木苗木生長量調査	76
5.	樹木発芽および生長量調査	79
6.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	83
	(1) 東京都におけるマツノザイセンチュウの分布と その被害状況(森林環境保全試験)	84
	(2) 有機物施用効果試験	92
7.	東京都の道路緑化状況調査	99
	(1) 道路緑化の現況	99
	(2) 道路緑化の推移	100
	(3) 東京都内街路樹管理者別調査	102
	(4) 昭和54年度都知事管理道路における植栽	103
	(5) 街路樹カラーイメージアンケート	106
	(6) 東京都の道路緑化管理管轄表	119
8.	都立公園分類別植栽地率調査	121
9.	昭和54年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	123
10.	昭和54年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	123
11.	東京気象表(抜粋)	125

その10<昭和56年度>

1.	植栽樹木実績調査	1
2.	造園植物特性	51
3.	樹木苗木生長量調査	72
4.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	89
	(1) 東京都におけるトウカエデのうどん粉病	90
	(2) コナラ萌芽の初期成長に関する研究	93
5.	東京都の道路緑化状況調査	104
	(1) 道路緑化の現況	104
	(2) 道路緑化の推移	105
	(3) 東京都内街路樹管理者別調査	107
	(4) 昭和55年度都知事及び都管理道路における植栽	108
	(5) 街路樹生長量追跡調査	111
6.	都市計画区域外緑地現況調査	115
7.	都立公園分類別植栽地率調査	117
8.	昭和55年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	119
9.	昭和55年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	119
10.	東京気象表(抜粋)	121

1 1.	緑化に関する調査報告(その1～その10)索引	123
1 2.	保存資料及び図書目録 (公園緑地部計画課計画第二係保管)	134

その11<昭和57年度>

1.	公園緑地生態調査	1
(1)	上野恩賜公園生態調査	5
(2)	恩賜上野動物園生態調査	21
(3)	武蔵野公園生態調査	50
2.	表土保全調査	85
3.	神代植物公園緑の相談所 緑化相談実績調査	138
4.	台風10号による街路樹(都道)被害実態調査	154
5.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	163
(1)	植木の連作障害と対策	164
6.	東京都の道路緑化状況調査	170
(1)	道路緑化の現況	170
(2)	道路緑化の推移	171
(3)	東京都内街路樹管理者別調書	172
(4)	昭和56年度都知事及び都管理道路における 植栽樹種別一覧表	173
7.	都立公園分類別植栽地率調書	175
8.	昭和56年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	177
9.	昭和56年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	177
1 0.	東京気象表(抜粋)	179

その12<昭和58年度>

1.	浜離宮恩賜庭園生態調査	1
2.	公園土壌改善のための基礎事項と実践例	57
3.	世論調査、アンケート等による緑化意識の動向	99
4.	樹木苗木生長量調査	120
5.	都農業試験場における緑化に関する調査	141
(1)	トウカエデ首垂細菌病の発生状況	141
(2)	植木に発生するコガネムシ類の生態と防除	149
6.	東京都の道路緑化状況	153
(1)	道路緑化の現状	154
(2)	道路緑化の推移	161
(3)	街路樹生長量追跡調査	175
7.	公園緑地行政をとりまく情勢の推移 一年表形式で	179
8.	外国都市との交換種苗	191
□	資料	
1.	都内の花の見所	217
2.	花言葉一覧	219
3.	園芸愛好普及団体一覧	223
4.	造園関係団体・組織・出版物一覧	226
(1)	団体・組織	226
(2)	出版物	230
5.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調書	232
6.	都立公園分類別植栽地率調書	237
7.	昭和57年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	239
8.	昭和57年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	239
9.	東京気象表(抜粋)	241

その13<昭和59年度>

1.	松くい虫の生態とその防除	1
2.	水元公園はなしょうぶ調査報告	14
3.	街路樹定点観測報告	35
4.	植栽樹木枯損状況調査	50
5.	六義園生態調査	75
6.	井の頭恩賜公園生態調査	136
7.	都政モニターアンケート	215

「身近な緑」より

8.	東京都の花「そめいよしの」に正式決定	228
9.	東京・北京友好都市提携5周年記念植樹	232
10.	緑の倍増計画と公園整備事業	239
□ 資料		
1.	緑の相談所利用状況	245
2.	東京都の道路緑化状況	249
3.	都立公園分類別植栽地率調書	255
4.	昭和58年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	257
5.	昭和58年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	259
6.	東京気象表(抜粋)	260

その14<昭和60年度>

1.	バードサンクチュアリの造成にあたって —光が丘公園での経験より—	1
2.	雑草管理と除草剤の概要	36
3.	街路樹関係苦情陳情調査	50
4.	ピクエアレーションにより土壌改良について	60
5.	ユーカリ栽培の経緯(その1)	72
6.	東綾瀬公園生態調査	82
7.	陵南公園生態調査	106
8.	殿ヶ谷戸公園生態調査	125
9.	浅間山公園自然環境調査	144
10.	緑化の普及、啓発事業	175
	(1) 全国都市緑化フェア	175
	(2) 都民グリーンフェスティバル'85	177
	(3) ガーデンシティ多摩'85	177
	(4) 第5回ふるさと東京まつり	178
	(5) 都市緑化月間の緑化普及行事	178
	(6) 都立公園ガイドの作成	181
11.	国際交流事業	184
	(1) 北京市人民代表大会友好代表团による 記念植樹(第3回)	184
	(2) カウラ日本庭園造成	186

□ 資料

1.	緑の相談所利用状況	193
2.	東京都の道路緑化状況	195
3.	都立公園分類別植栽地率調書	201
4.	昭和59年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	203
5.	昭和59年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	205
6.	東京気象表(抜粋)	207
7.	公園別・樹種別樹木現況	208
8.	過去10年間・植栽樹木上位4種一覧表	211

その15<昭和61年度>

1.	公園システム管理・維持管理資料整備編 —多摩ニュータウンの事例より—	1
2.	伊豆大島におけるオオシマツツジの保全	31
3.	緑の相談所の新しい動き	39
	(1) 映像による植物図鑑の導入	39
	(2) 戸山公園緑の相談室開室 —展示について—	42
4.	農薬の概要と病虫害防除	48
5.	緑化道路整備事業 植栽樹種調査	58
6.	街路樹剪定手法の一提案(リフト車使用)	64
7.	ユーカリ栽培の経緯(その2) —鉢植栽培—	68
8.	コンポストの施用効果と安全性調査	75
9.	芦花公園自然環境調査	90
10.	代々木公園生態調査	120
11.	緑化及び公園事業の普及啓発	164
	(1) グリーンマップ発行	164

(2) 街路樹マップ発行	166
(3) 緑の公園フェスティバル '86実施	167
(4) 海のふるさと村開村記念式	168
(5) 自然公園の普及事業	170
(6) 各種グリーンフェア参加	174
(7) アンケート「好きな公園・樹・草花」の 実施結果について	180
1 2. 国際交流事業	183
(1) ニューヨークへハス寄贈	183
(2) パリへ石燈籠を寄贈	184
(3) カウラ日本庭園完成	192
□ 資料	
1. 緑の相談所利用状況	197
2. 東京都の道路緑化状況	199
3. 都立公園分類別植栽地率調書	205
4. 昭和60年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	207
5. 昭和60年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	209
6. 昭和61年東京気象表(抜粋)	210

その16<昭和62年度>

1. 東京都におけるケヤキの活力度調査について	1
2. 海のふるさと村(大島公園)植物園整備について	7
3. 公園のリーフレットの作り方	17
4. 街路樹 緑視率調査報告	29
5. 野川公園自然観察会の記録	38
6. 水元公園緑の相談所開設	51
7. 緑の図書室解説	58
8. 絶滅に瀕する小笠原固有種の育成・ 増殖・植生復元について	66
9. 花壇施工の実例について	70
10. ユーカリ栽培の経緯(その3)	78
11. 浜離宮庭園自然環境調査	96
12. 向島百花園自然環境調査	121
13. 猿江公園生態調査	153
14. 清澄庭園生態調査	165
15. 芦花垣春園生態調査	179
16. 洗足公園生態調査	193
17. 野川公園生態調査	205
18. 善福寺公園生態調査	222
19. '87緑の倍增計画と公園整備事業	241
20. 緑化及び公園事業の普及啓発	249
(1) グリーンマップの作成発行	249
(2) 小笠原ビジターセンター開設	251
(3) 各種グリーンフェアへの参加	252

□ 資料

1. 緑の相談所利用状況	259
2. 東京都の道路緑化状況	265
3. 東京都内街路樹等管理者別数量調査	274
4. 都立公園・都道内の花木植栽状況一覧表	275
5. 昭和61年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	276
6. 昭和61年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	278

その17<昭和63年度>

第1部 技術調査編

1. 目黒公園自然環境調査	1
2. 赤塚公園自然環境調査	32
3. 目黒公園生態調査	48
4. 芝公園生態調査	74
5. 台場公園生態調査	94
6. 井の頭自然文化園生態調査	109

7.	丘陵地公園の植生管理について	122
8.	樹木生長量調査	131
9.	ユーカリ栽培の経緯(その4)	150
10.	ユーカリの病虫害防除試験について	160
11.	親緑施設のデザインについて	169
12.	文化財庭園の保存・復原・並びに 管理等に関する調査	178
13.	光が丘のイチョウについて	194
14.	街路樹(エンジュ)病害調査報告	206
15.	まちかど庭園の整備	216
第2部 管理運営報告編		
1.	夢の島熱帯植物館の開館	220
2.	東京都緑の図書室活動報告	238
3.	海のふるさと村(大島公園)椿資料館の開館	245
4.	高尾ビジターセンターの自然教室	253
5.	東アフリカ、タンザニア国造園技術 研究員を受け入れて	263
6.	ミラノトリエンナーレ(ミラノ国際博覧会)への出展について	271
第3部 資料編		
1.	緑の相談所の利用状況	283
2.	東京都の道路緑化状況	283
3.	昭和62年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	285
4.	昭和63年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	287
5.	昭和63年度都立公園の設計使用樹種上位10種	289

その18 <平成2年度>

第1部 技術調査編		
1.	絶滅に瀕する小笠原固有植物の育成・ 増殖研究について	5
2.	東大和公園自然環境調査	39
3.	砧公園自然環境調査	81
4.	砧公園生態調査	110
5.	篠崎公園生態調査	120
6.	向島百花園の植栽について	140
7.	樹木生長量調査	145
8.	「道路のみどり」からとらえた東京の地域特性	173
9.	都立公園の維持管理計画について	182
第2部 運営報告編		
1.	奥多摩自然公園管理センター (奥多摩ビジターセンター)の運営について	197
2.	水元公園緑の相談所の運営について	213
3.	国際花と緑の博覧会東京都出展について	224
第3部 資料編		
1.	平成元年度 東京都・緑の相談所 相談実績	237
2.	東京都の道路緑化状況	238
3.	平成元年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	251
4.	苗圃配置図と栽培実績	253

その19 <平成3年度>

□ 技術調査編		
	公園管理と農薬	1
	東京都の公園のあり方に関するアンケート調査について	26
	樹木(街路樹)の土木からの検証例の紹介	68
	平成2年度生態調査の概要 —東白鬚公園、日比谷公園、城北中央公園—	81
□ 管理運営報告編		
	日比谷グリーンサロン(日比谷公園緑の相談所)の運営から	172
	街路樹維持管理のOA化について	190
	公園管理受託5年を経過して	

□ 資料編

1. 緑の相談所活動実績(平成2年度)	223
2. 東京都の道路緑化状況(平成2年度)	224
3. 平成2年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	238
4. 平成2年度都立公園の設計使用樹種上位10種	240
5. 過去5年間の委託調査一覧	241
6. 東京都の緑化行政組織一覧	251
7. 都市緑化施設年表	252
8. 都市公園利用実態調査実績一覧	254
9. 都市公園の巨木一覧	255
10. 造園緑化団体一覧	257
11. 都市公園別植栽地率	258
12. バックナンバーの目次	259

その20 <平成4年度>

1 技術調査編

- ・ 公園緑地の都市の熱汚染抑制効果について …………… 1
- ・ 水元公園水辺ゾーンにおける水質改善事例 …………… 21
- ・ 「姉妹・友好都市との街路樹交換に関する調査」について …………… 33
- ・ 平成3年度生態調査の概要

—石神井公園・狭山公園・蘆花垣春園・亀井戸中央公園— …………… 47

- ・ 平成3年度自然環境調査の概要 —光が丘公園— …………… 84

2 管理運営報告編

- ・ 夢の島熱帯植物館 —大温室の植物管理— …………… 114
- ・ 八丈ビクターセンターの開設について …………… 130
- ・ 東京都緑の公園フェスティバル'92 …………… 145

3 資料編(グリーンファイル)

1. 緑の相談所活動実績(平成3年度)	159
2. 東京都の道路緑化状況(平成3年度)	166
3. 平成3年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	179
4. 過去4年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10種 および過去5年間に於ける都立公園植栽樹木の傾向	180
5. 過去6年間の委託調査一覧	184
6. 都市緑化施設年表	196
7. 都市公園利用実態調査実績一覧	198
8. 都市公園の巨木一覧	199
9. 東京都の天然記念物	201
10. 緑化地区位置図	204
11. 造園緑化関連団体一覧	205
12. 東京の樹木医リスト	207
13. 植物開花時期調査(神代植物公園記録)	208
14. バックナンバーの目次	217

その21 <平成5年度>

I. 技術調査編

- 竹芝ふ頭公園の人工地盤上の植栽について …………… 3
- 浮間公園のｶﾊﾞｯｸ・ﾄﾝﾎﾞ作成(ふれあい拠点整備) …………… 19
- 平成4年度 生態調査の概要
—和田堀公園、清澄庭園、旧芝離宮庭園、
水元公園、浮間公園— …………… 38

—桜ヶ丘公園、井の頭恩賜公園、林試の森公園— …………… 81

II. 管理運営編

- 浅間山のﾓｼﾞｷﾞｽﾞの保護 …………… 125
- 丘陵地公園の市民参加型植生管理
—都立桜ヶ丘公園雑木林ﾎﾟﾗﾝﾃﾞｱ活動— …………… 133

- 緑のフェスティバル'93 146
 <国際交流事業>
- 「東京カレド友好提携記念」日本庭園(東京庭園)の
 造成と寄贈..... 155

III. 資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績(平成4年度)
 - (1) 相談件数等 171
 - (2) 講習会 172
2. 東京都の道路緑化状況(平成4年度) 174
3. 平成4年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表 184
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位
 (低・中・高木別) 185
5. 都市公園利用実態調査実績一覧 187
6. 都立公園緑化施策年表
 - (1) 国 188
 - (2) 東京都 189
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別) 190
8. 緑化に関する調査報告(その1~その20)に掲載された
 報告等一覧(項目別)..... 196
9. 東京都の天然記念物 205
10. 都市公園の巨木一覧 208
11. 緑化地区位置図 209
12. 造園関連団体一覧 210
13. バックナンバーの目次 212

その22<平成6年度>

I. 技術調査編

- 都市における緑の効用機能の解明 1
- 都市公園における「水辺の再生」について 11
- 親緑施設のデザインについて 32
- 平成4年度 生態調査の概要
 一戸山公園箱根山地区、戸山公園大久保地区、
 上野恩賜公園..... 42

II. 管理運営報告編

—公園施設の夜間利用について—

- ① 葛西臨海水族園「微塵子博覧会」の開催 77
- ② 「夜咲く花の鑑賞会」の実施について 82
- 公園で活動するボランティアについて 88
- 山のふるさと村クラブセンター建設について 97
- 東京都緑の公園フェスティバル'94 106
- 「日比谷公園とわたし展」の企画と実施について 116
 <都区交流事業>
- 平成6年度都市緑化連絡会活動について 127

III. 資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績(平成5年度) 137
2. 東京都の道路緑化状況(平成5年度) 138
3. 平成5年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表 145
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位
 (低・中・高木別)..... 146
5. 花の見ごろ情報リスト 147
6. 都立公園緑化施策年表
 - (1) 国 149
 - (2) 東京都 150
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別) 151
9. 東京都の天然記念物 157
10. 都市公園の巨木一覧 160
11. 緑化地区位置図 161
12. 造園関連団体一覧 162
13. バックナンバーの目次 164

その23 <平成7年度>

I. 技術調査編	
1. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落の復元	1
2. 阪神・淡路大震災における公園・緑化の状況について	13
3. 長沼公園雑木林調査	24
4. 浜離宮庭園におけるカワウの生息状況	33
5. 平成6年度 生態調査の概要 —浜離宮庭園、向島百花園—	48
6. 平成6年度 自然環境調査の概要 —第六台場—	94
II. 管理運営報告編	
1. 石神井公園におけるヤマザクラの立曳きについて	113
2. 苗圃の変遷	122
3. 外国都市との交換種苗	129
4. 東京都緑の公園フェスティバル'95	138
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成6年度)	149
2. 東京都の道路緑化状況(平成6年度)	152
3. 平成6年度都立公園等植栽本数一覧表	160
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (高・中・低木別)	162
5. 花の見ごろ情報リスト	163
6. 緑化施策年表	164
7. 東京都の天然記念物	166
8. 都市公園の巨木一覧	169
9. 緑化地区位置図	171
10. ボランティア一覧	172
11. 造園関連団体一覧	173
12. バックナンバーの目次	175

その24 <平成8年度>

I. 技術調査編	
特集:東京の里山	
1. 東京の里山	1
2. 桜ヶ丘公園萌芽更新区域植物調査の概要	8
3. 平成7年度 小宮公園雑木林調査委託の概要	18
4. 保全地域における雑木林萌芽更新調査	28
5. 新たな谷戸管理手法の確立	50
6. 本紙掲載の里山関連文献	63
調査報告文	
1. 都市公園の水辺環境調査について	64
2. 平成7年度 街路樹樹勢調査の概要	89
3. 街路樹(ケキ)の育成管理調査について	104
4. 平成7年度 自然環境調査の概要 —長沼公園—	114
II. 管理運営報告編	
1. 街の植樹祭の歩み	141
2. 東京都緑の公園フェスティバル'96	149
3. 平成7年度 都市緑化連絡会活動について	160
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成7年度)	177
2. 緑の相談所 相談内容の調査について	181
3. 東京都の道路緑化状況(平成7年度)	190
4. 平成7年度都立公園等植栽本数一覧表	198
5. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (高・中・低木別)	200
6. 平成8年度花の見ごろ情報年間リスト	201
7. 緑化施策年表	202
8. 東京都の天然記念物	204
9. 都市公園の巨木一覧	207
10. 緑化地区位置図	209
11. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	210

12. 造園関連団体一覧	211
13. バックナンバーの目次	213

その25 <平成9年度>

I. 25周年記念特集	
1. 都市緑化の変遷25年	1
2. 発刊から25周年を迎えて	7
II. 技術調査編	
1. 平成8年度 緑の基礎調査の概要 —芝公園、水元公園—	27
2. 環境緑地帯調査	86
3. 新しい都市型緑化植物の選定と低コスト生産技術の開発	138
III. 管理運営報告編	
1. 「花の名所づくり」事業について	169
2. 東京都緑の公園フェスティバル'97	180
3. 平成8年度都市緑化連絡会活動について	194
4. 都営苗圃の再編計画について	208
5. 「緑の相談所ネットワーク」の改正について	216
6. 5年目を迎えた花の見ごろ情報について	220
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成8年度)	225
2. 東京都の道路緑化状況(平成7年度)	229
3. 平成8年度都立公園等植栽本数一覧表	237
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	239
5. 平成9年度花の見ごろ情報年間リスト	240
6. 緑化施策年表	241
7. 東京都の天然記念物	243
8. 都立公園の巨木一覧	246
9. 緑化地区位置図	248
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	249
11. 造園関連団体一覧	250
12. バックナンバーの目次	252

その26 <平成10年度>

I. 緑化行政の変遷25年をふまえての実例	
1. 地域の声を活かした多自然型川づくり	1
2. 「花の名所づくり」 —亀戸中央公園・代々木公園—	9
II. 技術調査編	
1. 平成9年度 緑の基礎調査の概要 —善福寺川緑地、東大和公園、 浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮恩賜庭園・清澄庭園—	23
2. 街路樹診断マニュアル	81
3. 神代植物公園水生植物園の管理と生物	123
4. 公園管理と『環境ホルモン』問題	147
5. 浄水場発土加工土が緑化植物の生育に及ぼす影響	169
6. 土木技術研究所ニュース	175
III. 管理運営報告編	
1. 東京都緑の情報センターの開設について	177
2. 東京都緑の公園フェスティバル'98	188
3. 平成9年度都市緑化連絡会活動について	199
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成9年度)	215
2. 東京都の道路緑化状況(平成9年度)	219
3. 平成9年度都立公園等植栽本数一覧表	227
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	230
5. 平成10年度花の見ごろ情報年間リスト	231
6. 緑化施策年表	232

7. 東京都の天然記念物	234
8. 都立公園の巨木一覧	237
9. 緑化地区位置図	239
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	240
11. 造園関連団体一覧	241
12. バックナンバーの目次	243

その27<平成11年度>

I. 技術調査編	
1. 平成10年度 緑の基礎調査の概要 一葛西臨海公園、夢の島公園、浅間山公園、 井の頭恩賜公園一	1
2. 屋上等人口地盤緑化について	69
3. 都立公園の外国産樹木(交換樹木等)について	82
4. 土木技術研究所ニュース(その2)	112
5. 植栽実績調査の長期間集計の結果から	126
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況(平成10年度)	131
2. 平成10年度都立公園等植栽本数一覧表	138
3. 過去5年間における都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	141
4. 平成11年度花の見ごろ情報年間リスト	142
5. 東京都の天然記念物	143
6. 都立公園の巨木一覧	146
7. 緑化地区位置図	148
8. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	149
9. 造園関連団体一覧	150
10. バックナンバーの目次	152

その28<平成12年度>

I. 特集『都民参加の緑づくりの実践』	
1. 「22世紀の都市の森づくり」について	1
2. ボランティア団体「22世紀の森づくり・神代」報告	19
3. 都民による公園づくり 一芦花公園花の丘友の会と木場公園友の 会の活動について一	23
4. 「東京構想2000」と「緑の東京計画」について 一都民、NPO等との協働に注目して一	44
II. 技術調査編	
1. 平成11年度 緑の基礎調査の概要 一六義園、小石川後楽園、旧古河庭園一	57
2. 平成11年度 緑の基礎調査の概要 一秋留台公園一	80
3. 平成11年度 緑の保全回復調査の概要 一殿ヶ谷戸庭園一	94
4. 都立自然公園に生息するオオタカの保護の取り組み ～羽村草花自然公園大澄山園地に生息する オオタカの保護計画～	108
5. 水元公園権八池水生植物回復調査委託	123
6. 農場試験場報告	142
7. 土木技術研究所ニュース	148
III. 管理運営報告編	
1. 緑の情報センター及び緑の相談所の事業終了について	153
2. 「緑と水」の市民カレッジ開校	158
3. 平成10年度・11年度都市緑化連絡会について	161
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績	165
2. 東京の道路緑化状況	172
3. 平成11年度 都立公園等植栽本数一覧表	179
4. 過去5年間における都立公園等の設計使用樹上位10種	182

5. 平成12年度 花の見ごろ情報年間リスト	183
------------------------	-----

その29<平成13年度>

I. 技術調査編	
1. 平成12年度 緑の基礎調査の概要 一日比谷公園一	1
2. 平成12年度 緑の基礎調査の概要 一井の頭恩賜公園一	15
3. 平成12年度 緑の保全回復調査の概要 一東大和公園一	26
4. 三宅島における緑の回復に関わる基礎調査	38
5. 野山北・六道山公園における樹林地更新について	55
6. 屋上緑化植栽と維持管理技術について	67
7. 土木技術研究所ニュース	79
8. 三宅島2000年噴火火山灰の植生回復への影響	91
II. 管理運営報告編	
1. 平成12年度 都市緑化連絡会活動について	99
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 平成12年度 委託調査一覧表	103
2. 東京都の道路緑化状況	105
3. 平成12年度 都立公園等植栽本数一覧表	111
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10種	114
5. 平成13年度 花の見ごろ情報年間リスト	115
6. 公園別樹木本数	116
7. 公園別主要樹木一覧	118

その30<平成14年度>

I. 技術調査編	
1. 平成13年度 緑の基礎調査の概要 一代々木公園、旧岩崎邸庭園一	1
2. 平成13年度 緑の保全回復調査の概要 一六義園ほか2庭園緑の回復工事一	20
3. 自然環境調査の概要 一平成12年度・平成13年度 代々木公園一	32
4. 水元公園権八池水生植物調査	46
5. 壁面緑化について	61
6. 土木技術研究所ニュース 一ヒートアイランド対策と三宅島緑化一	72
II. 管理運営報告編	
1. 平成13年度 緑の情報連絡会 (旧都市緑化連絡会) 活動について	89
2. 東京都民緑地について 一祖師谷公園成城九丁目市民緑地、 小山田緑地梅木窪市民緑地一	92
3. 「小金井公園桜守ボランティア」について	100
4. 公園ボランティア登録「小金井公園桜守の会」報告	105
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 平成13年度 委託調査一覧	109
2. 東京の道路緑化状況	111
3. 平成13年度 都立公園等植栽本数一覧表	117
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	120
5. 平成14年度 花の見ごろ情報年間リスト	121
6. 公園別樹木本数一覧	122
7. 公園別主要樹木一覧	124

その31<平成15年度>

I. 特集「みどりの活性化」	
1. 都立庭園でのライトアップの実施	1
2. 水元公園「大自然塾」の取り組み	6
II. 技術調査編	

1. 平成14年度 緑の基礎調査の概要 —光が丘公園—	17
2. 石神井公園 三宝寺池植物群落復元追跡調査 —水辺の再生事業—	32
3. 上野恩賜公園 不忍池における水浄化実験	43
4. 野山北・六道山公園 自然環境調査報告	55
5. 道路緑化「新樹種プロジェクト」の取組みについて	65
6. 壁面緑化の普及に向けて	74
7. 土木技術研究所ニュース —三宅島の緑化に関する調査及び報告—	85

III. 管理運営報告編

1. 平成14年度 緑の情報連絡会活動について	97
-------------------------	----

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京の道路緑化状況	101
2. 平成14年度 都立公園等植栽本数一覧表	107
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	110
4. 公園別樹木本数一覧	111
5. 公園別主要樹木一覧	113
6. 平成15年度 花の見ごろ情報年間リスト	115
7. 緑の基礎調査関連 実績表	116

その32<平成16年度>

I. 技術調査編

1. 平成15年度 緑の基礎調査の概要 —谷中霊園ほか2霊園樹木等調査の概要—	1
2. 街路樹の樹種選定について —樹種選定樹木リスト【主要45種】の策定—	20
3. 街路樹樹種選定樹木リスト【主要45種】の各樹種について	37
4. 行幸通りイチョウ並木の樹勢回復	48
5. 小山内裏公園動植物調査	64
6. 街路樹の緑陰効果の検証(中間報告)	78
7. 無灌水を指向した屋上緑化システムの熱特性と降雨貯留特性	90
8. マット植物の開発について	104

II. 管理運営報告編

1. 平成15年度 緑の情報連絡会活動について	111
2. コアラ飼育20年、ユーカリ栽培21年	116

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京の道路緑化状況	121
2. 平成15年度 都立公園等植栽本数一覧表	127
3. 過去5年間における都立公園の設計使用樹上位10種	130
4. 委託調査一覧(平成14・15年度)	131
5. 平成16年度 花の見ごろ情報年間リスト	135

その33<平成17年度>

I. 技術調査編

1. 平成16年度 井の頭恩賜公園湧水調査報告(概要)	1
2. 街路樹の路線別目標樹形「街路樹よくなるシート」の 活用について	17
3. 壁面緑化の効果測定	25
4. 地表の温度変化を通してみた街路樹の緑陰効果	41
5. 護岸緑化による護岸温度変化	56

II. 管理運営報告編

1. 夢の島熱帯植物館のこれまでを振り返って	69
2. 野山北・六道山公園に於ける都民協働	84
3. 平成16年度 緑の情報連絡会活動について	100
4. 平成16年度 都市公園利用実態調査の報告	106

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	119
2. 平成16年度 都立公園等植栽本数一覧表	125
3. 過去5年間における都立公園の設計使用樹上位10種	128

4. 委託調査一覧(平成16年度)	129
5. 平成17年度 花の見ごろ情報年間リスト	131

その34<平成18年度>

I. 技術調査編	
1. 元気な樹木づくりの手引き(樹木診断編)の作成について	1
2. 宿根草品目・品種の耐光性と耐暑性に関する評価	6
3. 外気温の変化を通してみた街路樹の緑陰効果	15
4. 夏期暑熱期における河川周辺の外気と 河川沿いの緑地帯の温度変化	30
II. 管理運営報告編	
1. 平成17年度 都市公園利用者満足度調査報告(概要)	47
2. 平成17年度 緑の情報連絡会 活動報告	75
3. 平成17年度 都市公園利用実態調査の報告	78
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	97
2. 平成17年度 都立公園等植栽本数一覧表	103
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	106
4. 委託調査一覧(平成17年度)	107
5. 平成18年度 花の見ごろ情報年間リスト	109

その35<平成19年度>

I. 技術調査編	
1. よりよい屋上緑化のための土選び	1
II. 管理運営報告編	
1. 水元大自然クラブの活動について ～大自然塾5年間の実績と修了生の活動について	11
2. 都立公園における借地公園事業について	17
3. 西部公園管内における民有地の借地公園事業について	27
4. 野山北・六道山公園保全・活用計画について	32
5. 平成18年度 緑の情報連絡会 活動報告	69
6. 平成18年度 都市公園利用実態調査の報告	71
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	93
2. 平成18年度 都立公園等植栽本数一覧表	99
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	102
4. 委託調査一覧(平成18年度)	103
5. 平成19年度 花の見ごろ情報年間リスト	105
6. バックナンバー目次(その1～その34)	106
7. 平成18年度 都立公園における都民協働団体一覧表	107

その36<平成20年度>

I. 技術調査編	
1. 新しい街路樹～ファスティギアータイプ樹木について	1
2. 元気な樹木づくりの手引き(樹林地管理編)の 作成について	10
3. 都立公園の池の水質について	17
II. 管理運営報告編	
1. プレ・パーク事業「観音寺の森」活動について	37
2. (財)東京都公園協会「みどりのiプラザ」の設置と運営	50
3. 舎人公園もりもりフェスティバルについて	54
4. 平成19年度 緑の情報連絡会 活動報告	66
5. 平成19年度 都市公園利用実態調査の報告	68
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	85
2. 平成19年度 都立公園等植栽本数一覧表	91
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	94
4. 委託調査一覧(平成19年度)	95
5. 平成20年度 花の見ごろ情報年間リスト	97
6. バックナンバー目次(その1～その35)	98

7. 平成19年度 都立公園における都民協働団体一覧表	106
-----------------------------	-----

その37<平成21年度>

I. 技術調査編	
1. 上野恩賜公園の森づくりと桜守について	1
II. 管理運営報告編	
1. 世界バラ会連合優秀庭園賞受賞について	13
2. エジプト・アラブ共和国ヘルワン県 「東京庭園」修復工事について	24
3. グリーンロード・ネットワークの形成・充実に向けた 「街路樹の充実」事業とそれに伴う「マイ・ツリー ーわたしの木ー」事業の実施について	30
4. 市民緑地事業について	40
5. 平成20年度 緑の情報連絡会活動について	42
6. 平成20年度 都市公園利用実態調査の報告	44
7. プレパーク事業「大戸源流森の会」について	61
8. ブルガリアローズの寄贈について	69
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	75
2. 平成20年度 都立公園等植栽本数一覧表	81
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	84
4. 委託調査一覧(平成20年度)	85
5. 平成21年度 花の見ごろ情報年間リスト	87
6. バックナンバー目次(その1~その36)	88
7. 平成20年度 都立公園における都民協働団体一覧表	96

その38<平成22年度>

I. 技術調査編	
1. 浜離宮恩賜庭園「松の御茶屋」の復元整備について	1
II. 管理運営報告編	
1. 東京臨海広域防災公園について	13
2. 「ユビキタス・コミュニケーター(携帯情報端末:UC)」 によるガイドについて	22
3. 日露知事会におけるチシマザクラの モスクワ市寄贈について	30
4. 平成21年度 緑の情報連絡会活動について	45
5. 駒沢オリンピック公園の記念樹~パットと宇宙ケヤキ~	47
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	53
2. 平成21年度 都立公園等植栽本数一覧表	60
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	63
4. 委託調査一覧(平成21年度)	64
5. 平成22年度 花の見ごろ情報年間リスト	66
6. バックナンバー目次(その1~その37)	67
7. 平成21年度 都立公園における都民協働団体一覧表	75

その39<平成23年度>

I. 技術調査編	
1. 東村山中央公園・狭山公園の樹木調査の報告	1
2. 井の頭恩賜公園の森づくりについて	16
3. 公園等のマツ枯れ防除に向けた取組	24
4. 街路樹用樹木の根圏と管理特性に及ぼす根域制限の影響	32
II. 管理運営報告編	
1. 野山北・六道山公園における都民協働について (大自然塾総括)	51
2. 平成21、22年度 都市公園利用実態調査の報告	60
3. 樹木点検員養成研修の実施と樹木点検員認定について	75
4. 平成22年度 緑の情報連絡会活動について	83
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	85
2. 平成22年度 都立公園等植栽本数一覧表	92

3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	95
4. 委託調査一覧(平成22年度)	96
5. 平成23年度 花の見ごろ情報年間リスト	98
6. バックナンバー目次(その1～その38)	99
7. 平成22年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表	107

その40 <平成24年度>

I. 技術調査・計画編	
1. 神代植物公園植物多様性センターの開設について	1
2. 神代植物公園植物多様性センターの整備について	16
3. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落保護復元事業 ～順応的管理による水辺の再生事業～	27
II. 管理運営報告編	
1. 都立公園等に於ける生物多様性保全への取り組み	37
2. 都立公園がつなぐ「生物多様性」	45
3. 夢の島公園の樹林地管理について	58
4. 水元公園・原風景づくりを牽引する直営作業	65
5. 神代植物公園開園50周年記念事業について	71
6. ショクダイオオコンニャクの開花について	82
7. 平成23年度 都市公園利用実態調査の報告	96
8. 平成23年度 緑の情報連絡会活動について	103
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	107
2. 平成23年度 都立公園等植栽本数一覧表	114
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	117
4. 委託調査一覧(平成23年度)	118
5. 平成24年度 花の見ごろ情報年間リスト	120
6. バックナンバー目次(その1～その39)	121
7. 平成23年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表	129

その41 <平成25年度>

I. 特集「第29回全国都市緑化フェアTOKYO」	
1. 第29回全国都市緑化フェアTOKYOの開催概要について	1
2. 緑化フェアの総務的業務を振り返って	8
3. 緑化フェアの広報協賛業務を振り返って	14
4. 緑化フェア上野恩賜公園会場「不忍・緑・五景」 ～公園の魅力伝えるアート～	17
5. 緑化フェア井の頭恩賜公園会場整備について	21
6. 緑化フェア日比谷公園・浜離宮恩賜庭園会場について	24
II. 技術調査・計画編	
1. 平成24年度小山田緑地自然環境調査について	29
2. 東村山中央公園に於ける「生物多様性」への取組について	33
3. 小宮公園雑木林管理基礎調査—その経緯と展開—	44
III. 管理運営報告編	
1. 米国寄贈のハナミズキについて	51
2. 大径木再生大作戦について	56
3. 野山北・六道山公園里山民家茅葺屋根の葺き替え	62
4. 神代植物公園植物多様性センター事業運営報告	66
5. 水元流・花菖蒲再生の取組について	75
6. よみがえったパト・サクチュアリー～代々木公園～	81
7. 平成24年度 緑の情報連絡会活動について	84
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	87
2. 平成24年度 都立公園等植栽本数一覧表	94
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	97
4. 委託調査一覧(平成24年度)	98
5. 平成25年度 花の見ごろ情報年間リスト	100
6. バックナンバー目次(その1～その40)	101
7. 平成24年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表	110

その42<平成26年度>

- I. 技術調査・計画編
 - 1. 街路樹診断マニュアルの改訂について……………1
 - 2. 谷中霊園樹木立曳き移植について……………10
 - 3. 大戸緑地植生管理計画の策定について……………19
 - 4. 井の頭恩賜公園かいぼり25について……………27
 - 5. 高木間植栽に適した街路樹用樹木に関する研究……………37
 - 6. 街路樹ツツジ類のクロロシスの実態とその改善対策……………43
- II. 管理運営編
 - 1. ふくしま⇄東京 桜の交流プロジェクト……………49
 - 2. 狭山丘陵における広域連携プロジェクト……………55
 - 3. 大泉中央公園ちよの里再生事業……………65
 - 4. 平成25年度 神代植物公園植物多様性センターの取組……………72
 - 5. 平成25年度 緑の情報連絡会 活動報告……………78

資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)……………81
- 2. 平成25年度 都立公園等植栽本数一覧表……………88
- 3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種……………91
- 4. 委託調査一覧(平成25年度)……………92
- 5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト……………94
- 6. バックナンバー目次(その1~その41)……………95

その43<平成27年度>

- I. 技術調査・計画編
 - 1. 石神井公園生物多様性保全管理計画策定の報告……………1
 - 2. 東大和公園生物多様性保全利用計画の策定について……………9
 - 3. 東京都保全地域における「保全活動ガイドライン」の策定……………16
 - 4. 街路樹根系強度調査……………27
 - 5. 神代植物公園所蔵「韻勝園梅譜」(模写帖)について……………34
 - 6. 可搬式緑化コンテナによる夏季の暑熱対策……………40
- II. 管理運営編
 - 1. ショクダイオオコソニヤクの開花について……………45
 - 2. 身近な自然体験の場・「いきもの広場」……………49
 - 3. かいぼりイベントにおけるボランティアの参加状況……………59
 - 4. 平成26年度 神代植物公園植物多様性センターの取組……………67
 - 5. 平成26年度 緑の情報連絡会 活動報告について……………73

資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)……………75
- 2. 平成26年度 都立公園等植栽本数一覧表……………82
- 3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種……………85
- 4. 委託調査一覧(平成26年度)……………86
- 5. 平成27年度 花の見ごろ情報年間リスト……………88
- 6. バックナンバー目次(その1~その42)……………89

その44<平成28年度>

- I. 技術調査・計画編
 - 1. よみがえる!!イノカシラフラスコモ!『水草再生ものがた』……………1
 - 2. 危険な外来生物に関する東京都の取組について……………11
 - 3. 今春、初開花した2種の野生ランの無菌培養……………17
 - 4. 河川・海岸敷等の緑化に向けた樹種の選定……………26
- II. 管理運営編
 - 1. 都立公園ガイドサービスシステム構築の報告……………31
 - 2. 多摩地域の自然公園における植生の保護……………38
 - 3. 国際優秀つばき園登録へ向けた取り組みについて……………46
 - 4. ニューヨーク市への桜の寄贈について……………51
 - 5. 夏のおもてなしガーデントライアル2016について……………61
 - 6. 平成27年度 神代植物公園植物多様性センターの取組……………69
 - 7. 平成27年度 緑の情報連絡会 活動報告について……………75

資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)……………77

2. 平成27年度 都立公園等植栽本数一覧表	83
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	86
4. 委託調査一覧（平成27年度）	87
5. 平成28年度 花の見ごろ情報年間リスト	89
6. バックナンバー目次（その1～その43）	90

その45<平成29年度>

I. 技術調査・計画編	
1. 東京2020大会に向けた街路樹の樹冠拡大の取組	1
2. 旧浜離宮庭園「延遠館」の復元整備事業について	9
3. 「東京の自然公園ビジョン」の策定と展開	24
4. 日比谷公園つつじ山再生に向けた調査と展開について	33
5. 都立庭園を演出する冬の添景物「雪吊り」の庭園技能伝承	42
6. 夏季高温期に適応する苗もの花き品目の選定および 利用技術の開発	49
II. 管理運営編	
1. ニューヨーク市街路樹調査と街路樹マップ	59
2. 日本・チリ修好120周年チリマツ記念植樹式の実施	72
3. 人にも生きものにも優しい緑「江戸のみどり 登録緑地」募集中！	77
4. かいぼりで守り、取り戻す！溜め池の生物多様性	80
5. ヒナワチガイソウ保全活動に向けた生活史調査	88
6. 平成28年度 神代植物公園植物多様性センター年報	96
7. 平成28年度 緑の情報連絡会活動報告	104
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	107
2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表	113
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	116
4. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト	117
5. 都立公園における都民協働団体一覧	118
6. バックナンバー目次（その1～その44）	122

その46<平成30年度>

I. 技術調査・計画編	
1. 伝統園芸植物の栽培・普及の取組	1
2. 街路樹向き緑化植物における防火機能の評価	23
3. ラン科植物の無菌播種技術向上と展示	31
4. 明治の森高雄国定公園指定50周年記念事業	37
II. 管理運営編	
1. 都立・区立の公園・庭園におけるハナショウブ栽培管理の	41
2. 光が丘公園パードサンクチュアリ池で行われた16年ぶりの	52
3. 平成29年度夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告	71
4. 「都立浅間山公園保全管理ガイドライン」の策定と成果	81
5. 御陵の入口にふさわしい風格のある公園づくりを目指して	92
6. 地域の核となる公園へ！狭山公園80周年記念事業	101
7. 平成29年度 神代植物公園多様性センター年報	111
8. 平成29・30年度 緑の情報連絡会活動報告	122
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	125
2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表	131
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	134
4. 委託調査一覧（平成28・29年度）	135
5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト	145
6. 都立公園における都民協働団体一覧	146
7. バックナンバー目次（その1～その45）	150

その47<令和元年度>

I. 技術調査・計画編	
1. 三宅島雄山の東京都版エコツアーリズム導入	
2. 多様な生物が生息する都立公園づくり事業について	

3. ナラ枯れ被害対策の取組について
4. ハナショウブの観賞のポイントを紹介するリーフレットの作成
5. 向島百花園の胡枝花洞（ハギのトンネル）の修復について
6. 種子採取による生息域外保全の取組

II. 管理運営編

1. 令和元年台風第15号「令和元年房総半島台風」・第19号「令和元年東日本台風」による被害について
2. 丘陵地公園の生き物保全から普及啓発まで
3. 平成30年度 神代植物公園植物多様性センター年報
4. 平成30年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
5. ヘルシーパークプロジェクト～身近な公園を活用した健康づくり～
6. 公園を地域の環境教育拠点として最大限に活用～都立小宮公園における取組み～
7. 里山公園における生物多様性向上の取り組み
8. 平成31年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
2. 平成30年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧（平成30年度）
5. 平成31年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次（その1～その46）